

No	ご意見・ご感想	回答内容分類
127	私がこの病気になったため、家族に経済的なしわ寄せが行き、申し訳なかったと思う。家族が協力してくれるので、治療ができて、幸せだと思っている。元の元気な体だったら、人生が変わっていたらと思うと、悔しい思いです。	5. 家族への思い、家計、就労
128	肝炎患者の食器類は紙を使用して、全部捨てていた時代もあったと、医療機関の人から知らされ（伝染病と扱ったため）、当時を過ごした人々の多くは、いまだに誤った認識の人も多いのではないかと思います。肝炎患者と知られるのが恐ろしく（私と接することが、不愉快に思う人もいないかと）、子供、孫に、何らかの影響がなければいいと願っています。	5. 家族への思い、家計、就労
129	まだまだ世間のC型肝炎に対する偏見、差別は根強く、私も自分がC型肝炎と判るまで、普通に接してもうつる病気だと思っていました。ですから、仕方のない事だと思っています。息子夫婦にも未だに言えなくて、それが何よりも心苦しいです。	5. 家族への思い、家計、就労
130	私は今、おかげさまで元気に過ごしております。私がこのような状態だという事は、成人した2人の子供には話しておりません。主人だけです。主人は、昔から病気に理解をしてくれております。何故子供達に話さないのか、私にも理由ははっきりしません。原告団の方々には本当に感謝しておりますが、この報告書も、子供達に気付かれないようにと記入しております。私の現在の心境としては、もうこれ以上放っておいていただきたいというのが、正直な気持ちでございます。自分勝手な意見ですが、静かに見守っていただきたく思います。	5. 家族への思い、家計、就労
131	和解は先生方のおかげで、今から1年前に終わりましたが、大切な治療費なのに、家の連帯保証人になっており、実際にはローンの支払いに使用していて、心が痛いです。原告にもなれない人が350万人いるというのに。肝炎のこと、娘1人にしか話しておりませんが、出血の止まらない鼻血で顔も服も赤いのに、夫は救急車も呼ばない冷たい人間に。これ以上私が責任を負うのは辛いから、考えております。色々なことを。	5. 家族への思い、家計、就労
132	四男は、現在マイナスになって産まれた時からの体調が、今と全然違うので、そのことが不思議でしかたがないと言っています。体重も10kg以上太っています。	5. 家族への思い、家計、就労
133	今回このアンケートを受け、当時の事を思い出し、3人の子供達が精神的なショックを受けていたことを、改めて感じた。長女は小学校へ入学して3、4日後での入院で、母親が死ぬかも知れないと周りから言われて、泣いて帰って来たらしいことを、最近になって主人から聞かされた。下の4才と2才の子供らも、入院中私のベッドに乗って、不安そうな顔を浮かべていたあの頃を思い出す。日々医療は進歩しているが、二度と薬害を出さないでほしい。	5. 家族への思い、家計、就労
134	今年8月自主退社をしました。この不況で次の派遣先が見つからなかったため、上の人から言われたそうです。私が手続きしなければ・・・振込先を給与振込先と同じにしなければ・・・もしかしたら・・・なんて、思ってみたりもしました。息子も会社の方にどこまで話したか分かりませんが、書類のやりとり等話していたみたいで・・・。今、ハローワークに通い、仕事を探しています。皆様の活動をメールやテレビ、新聞等で拝見し、勇気づけられます。すごいなあと思います。そして、ありがたいなあと思います。皆様が、全員幸せになれますように！！	5. 家族への思い、家計、就労
135	私は赤ちゃんの頃に感染し、今はウイルスも検出されていないため、いたって健康です（別の病気があるので、身体に不安がない訳ではないですが）。そのため、薬害肝炎と言われても、正直ピンときません。でも、母は自分のせいで私を肝炎にしまったと思込み、自分を責めています。私は、母のせいとはまったく思っていないので、謝られるたびに辛いです。このような交流を通じて、肝炎患者だけではなく、その家族の心の負担が少しでも軽くなれば、嬉しいです。	5. 家族への思い、家計、就労
136	私は肝炎に感染させられたために、大切な娘を救うことができなかった。このつらくて悔しい思いで、一生過ごすのでしょうか。この思いは、国や製薬会社には分からないでしょう。	5. 家族への思い、家計、就労
137	私は、無症候性キャリアで、普段の生活をするには何の不便もありませんが、未だ治療している人、進行してしまった人など、何と言ったらいいのかわからないほど、気の毒でなりません。カルテがなくて訴訟できない人など、何とかしてやれたらと思います。	6. 同じ被害者の人々への思い
138	今は経過観察ですが、今後進行していくことがあれば、とても今のような気持ちではいられないかも知れません。今苦しんでいる他の患者さんにとって、少しでも良い方向に行くことがあれば、協力したいと思っています。	6. 同じ被害者の人々への思い
139	まだ和解していない人達が、みんな早く話し合いができますよう、応援しないとイケないと思います。	6. 同じ被害者の人々への思い
140	いつもいろいろな事に参加できなく、心苦しく思っています。今は、割り切るほか生きることができない。うつなどにならないために、できることなら色々な同病の方々と、意見交換、情報交換等したいのですが、ストレスを感じる心が心配で、なかなか実行できていません（過去に6回、十二指腸潰瘍による下血体験があり、入院しました）。	6. 同じ被害者の人々への思い

No.	ご意見、ご感想	回答内容分
141	私のような不幸な人間を出さないように、これからの医療体制について、十分な配慮を願っています。現在、訴訟中の人全員が、和解できることを、心より願っています。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
142	和解金をいただきましたので、将来の進行に合わせて治療が受けられます。まだ救済されない方もいるので、自分だけ先に申し訳なく思っております。新薬が開発されることを願っています（3回目挑戦）。今、国会で肝炎対策が進んでいること、嬉しく思っています。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
143	薬害肝炎被害者の方全員が、1日でも早く、救済されることを願っています。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
144	治療したくても、いろいろな事情で受けられない人がたくさんいます。体の不安を抱えながら、毎日過ごすのは、本当に精神的にまいっているはずです。どうか、すべての人が安心して治療できるように、1日も早く願っております。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
145	インターフェロン助成が始まり、ウイルス消失する人が増え、本当に良かったと思います。しかし一方では、インターフェロン治療の効果なく、肝ガンから肝移植にまで進行する人もいます。医療体制や生活支援、すべての原告が安心して暮らせる日が1日も早く来ることを、切に願っています。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
146	体調不良が続き、原告団行事に参加できず、申し訳ありません。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
147	20年間、長い間苦しんできた。原告に加わり救済されました。同じ苦しみを持ち、病氣と闘っている多くの方がおられます。肝炎患者支援を、患者のためになる法律に設定してほしい。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
148	私は、他の人と比べれば、肝炎の肉体的苦しみはありません。その事が申し訳なく、原告団に入っても良かったのか悩みました。これから自分のできる事は、協力していこうと思っています。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
149	今までも少しずつですが、原告団として行動してきましたが、現在、仕事が忙しく、仕事だけで体が精一杯のため、活動に参加することができず、皆様には大変申し訳ないのですが、今後共よろしくお願い致します。仕事の都合上、返事が大変遅くなり、申し訳ありませんでした。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
150	今も肝炎で苦しみ、死んでいく人がいることに、辛い思いをします。結果として、周りの人々に助けられ、幸せになったことへの強運を思い、支えられて今日があると感謝せざるを得ません。でも、肝炎への感染がなければ、私には違った人生が待っていたはずです。若い頃の夢と、夢へ向かって積み上げてきた努力を奪った薬害を、許す気持ちにはなりません。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
151	幾度となくお便りをいただきながら、集会にも参加できず、申し訳なく思っております。深夜のドキュメンタリーでも見ましたが、同じ立場にありながら、カルテや関係者の協力が得られず苦しんでいる方が、1日も早く救済されますことを祈っております。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
152	私がかかっている病院は、20年のカルテが残っていたので、フィブリノゲンを使用されたことが分かりました。カルテが残っていない人達もいると思いますが、その人達も何とかしていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
153	私は幸運にも、インターフェロンによって治癒しましたが、そうではない方へのできうるかぎりの保障、制度の改善をして、決して薬害を風化させることなく、救済を続けていただきたいと思います。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
154	肝炎対策基本法が成立した事を大変嬉しく思います。原告団の方々のこれまでの努力に感謝致します。ありがとうございます。今後、肝炎患者の方々すべてが、何からの形で救われる事を願います。私自身、娘の命が肝炎によって、短命にならない事を願うばかりです。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
155	6年程前、新聞で公表された病院名の中に、出産時の病院名があり、出産時の状態がよくあてはまったので、半信半疑でC型肝炎の検査をして分かりました。出産して20年近くたってからです。ふつうの検査ではずっと分からなかったのです。他にもそういう方が、たくさんいらっしゃると思います。検査と治療を充実してもらい、肝炎法案を早く成立されるように願います。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
156	私は幸いなことに、原告団に加わることができましたが、私のような人がもつというと思うと、何とか手助けする方法を見つけ、いろいろ協力していきたいと思う。50年生きてきて、身体の不調が出てきてもおかしくないと思っています。ですから、病氣と向き合いながら、明るく前向きに日々過ごせたらいいなあ、つくづく感じています。働けること、生きていられることに感謝。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
157	私は幸運にもカルテが見つかり、和解することができましたが、カルテが見つからず、和解できなかった人の分まで、何かで役に立つことがあれば、微力ながら協力していきたいと思っています。	6. 同じ被害者の人たちへの思い
158	肝炎の状態のデータを現在確認できませんでした。今回のアンケートで、何か少しでも役に立てたなら、治療のつらさに耐えた甲斐があります。これ以上薬害で苦しみ、悲しむ人が出ないように、願ってやみません。	6. 同じ被害者の人たちへの思い

No	ご意見、ご感想	回答内容分類
159	現在は自覚症状がないのに、補償金をいただき、申し訳ない気持ちが半分ある。しかし、訴訟期間が限られているので、将来のことは分からないので、集団訴訟に参加した。補償金は、症状が出た時のために貯金してある。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
160	体調が悪く、何事にも参加、出席できず、案内が届くたびに、心苦しく思うばかりです。本当に申し訳ございません。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
161	いつもお世話になっています。何も協力できず、いつも申し訳なく思っています。これからも、どうぞよろしく願いいたします。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
162	原告団の活動には頭が下がります。第一線で動くことができず、申し訳なく思っていますが、陰ながらエールを送っています。しかし、治療に関しての情報交換できる場が近くなって、今の原告団の活動を知る場所を、保健所などが積極的に作ってほしいと思っています。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
163	闘病中は泣いている余裕もなく、ただ前を向いて頑張ってきました。アンケートに答えながら、いろいろ思い出されて、涙が溢れてしまいました。辛かったことばかりではなく、よくここまでとり着けたなあという思いや、子供達が一人前になり、社会人として、親として育ててくれたことなど、幸せと思える現在にもです。今後の生活は、不安も残りましたが、何とかなるだろうと思っていた時、何げに見ていたテレビのニュースで、原告団のことを知りました。原告団の方々の大変なご苦労と闘いのおかげで、私達の生活にも光が見えました。諦めていた治療にも、この年齢になりトライ中です。生きていて良かった。本当に有り難うございました。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
164	弁護団の皆様、原告団のお世話係の皆様には、いつも感謝申し上げます。家庭の事情で、何の協力もできないまま、今日までできております。本当に心苦しく思っております。今後とも宜しくお願い致します。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
165	今回の訴訟に関し、弁護団の各先生方の努力を評価して、厚く御礼申し上げます。今後益々ご活躍されることを、期待しております。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
166	肝炎は感染症であり、ウイルスがいなくなった現在でも、周囲には話していません。誰でも、うつる病気は怖いものだと思います。今までにも、そのことを話した友人は疎遠になったりしました。友人が悪いわけではなく、感染症だから、仕方がないことだと思います。薬害肝炎原告団の方々や弁護団の方々の活動により、それ程感染させる病気ではないことを、社会に知ってもらい、気持ちも少し楽になり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。しかし、私の病状から、なかなかお手伝いなどできなくて、大変申し訳なく思っています。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
167	今朝、被害の実態調査を書いている途中、テレビのニュースで、衆議院の法案で、救済法が可決されたこと、本当に良かったです。皆が地道に努力することが、世間を徐々に変えていく力になるということが、よく分かりました。山口代表初め弁護士達、原告団の地道な闘いが実を結び、本当に良かったと思います。落ち込んでいた気持ちに、光明が見えてきたように思います。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
168	今現在は、通院しながらでも普通の生活ができていますが、検査のたびに不安になります。一日でも長く、今の生活ができるように願っています。日々の弁護団の方々の支援、ご協力には、とても感謝しています。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
169	原告として、会合に出席できず、申し訳ございません。国から出たお金は、お父さんが入院した時のお金だよと、長男にも言っております。弁護団の方々頑張ってください。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
170	医療問題は大変難しいと思う。特に、製薬会社、国を相手にひとつひとつ問題を掘り起こし、解決していくのは時間がかかり、精神的に前向きな気持ちを持ち続けていくのは大変なことだと思うが、「言っても無駄。国が相手じゃ分かってくれない」と、後ろ向きな気持ちになるような大きな問題にもかかわらず、中心になっている弁護団の姿勢、結果がしっかりしているので、時間がかかっても、地道にやっけていけることに感謝しています。ひとつの目標に向かって解決していく難しさは考えている以上に大変。一人の力は小さいが、志を持った人々の集まりが、大きな力になっていくという証明だと思う。諦めずに前に向かっていく姿勢に、本当に感心し、感謝しています。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
171	薬害肝炎全国原告団及び弁護団の方々に感謝し、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
172	義父母介護のため、出席できませんが、原告団、弁護団の方々には、心から感謝しています。いつも応援させてもらっています。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
173	訴訟は和解し、本当にほっとしました。この陰には弁護団、原告団の支援の方々、どれだけ多くの方々の努力があったことか。本当に感謝しております。又、それまで家族の中だけの苦しみとして暮らしておりましたが、支援し、理解して下さる人々と接することができ、本当に励みとなりました。ただ、病気との闘いは続きます。薬害は人の人生を変えます。薬害のない社会と、被害者に温かい社会になることを望みます。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見

No	ご意見ご感想	回答内容分類
174	肝炎対策基本法成立、本当にお疲れさまです。このところ、家の事情で支援に何も参加できず、本当に申し訳なく思っています。皆様に対し、心より感謝申し上げます。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
175	担当弁護士の先生、弁護団の方々、今回は大変お世話になりました。感染原因もはっきり分かり、救済までしていただき、何とお礼を申し上げたらいいか分かりません。本当に有り難うございました。担当弁護士の先生も、とても親切で心強かったです。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
176	この病気がニュースや新聞で取り上げられ、毎日のように流れているの聞きながら、自分も明らかにそうなのに・・・と思いながら聞いていても、仕事をしている自分が、原告団に入り、裁判に参加できない自分が、歯がゆい思いでいっぱいでした（闘ってくれている、原告団の皆さんの頑張りを見ながら）。自分の通院している病院の担当医、医療相談員が窓口となってくれ、地元の弁護士の先生も窓口となってくれたお陰で、訴訟までこぎ着けることができました。自分1人では、あきらめていたと思います。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
177	H19年、薬害肝炎訴訟問題が大きく報道されるまで、私は、薬と肝炎の関係も分かりませんでした。情報が大きくなるにつれて、内容に驚きと怒りを感じました。今、全面解決し、和解し、正式に肝炎法案も成立しました。ここまで活動し続けてきた原告団や弁護士の方々に、深い敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。まだ救済されていない方々も沢山いるので、私も微力ながら、少しでもお役に立ちたいと思います。 今、●●県には「肝臓病友の会」がないということで、私がお世話になっている●●県●●●●●町の●●クリニックの●●先生が中心となって、「C型肝炎患者の会設立」に向かって、活動を進めているところです。第1回目の集まりは、H21.9.24で、●先生より肝臓病の話がありました。第2回目の集まりは、H21.11.26で、●●市の●●●●●クリニックの●●●●●先生の話があり、2つの病院の患者20人が集まり、勉強会交流をしました。患者の会は、まだ始まったばかりですが、立ち上げに先生方がとても熱心で、難しい病気ですが、有り難いと思います。肝臓病の原因、症状は1人1人違いますが、「同じ境遇の患者が体験を語り、不安を解消し、治療につなげたい」というのが目標です。今後、会員も増え、活動も患者中心になってくるとは思いますが、私も、少しでも活動に協力したいと思っています。原告団や弁護士の方々の力で、ここまで国を大きく動かし、肝炎法案の成立までもっていかれた姿に、大きな勇気ももらいました。本当にありがとうございました。又、一般の方々にC型肝炎という病気を理解して、考えていただく大きな一歩になったと思います。今後は、1人でも多くの患者が、適切な治療を受けられるような、体制作りをお願いします。そして、C型肝炎の治療の研究に、より一層力を入れてほしいと願っています。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
178	原告団の方、いつもご苦勞様です。私は何もできないので、ただ感謝しております。何もせず、昔の人のように、自然に死んでいきたい。今は、緩和治療にだけ興味がある。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
179	親として、医学に関して無知だったことで、子供に不安、苦痛な思いをさせて、申し訳なさでいっぱいです。親はいまだに立ち直れません。子供の人生を壊してしまったこと。弁護団の先生方には感謝しています。原告団の方々にも、本当に有り難うございますの気持ちでいっぱいです。皆様方に会えなければ、ずっと悩み苦しむ人生だったと思います（母親）。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
180	いつもお世話になり、ありがとうございます。お手伝いできないこと、申し訳なく思っています。これからも、よろしく願い致します。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
181	声をあげて下さった方、そして、その周りの人達の力、凄い。国が動いた。私は、別の病気で苦しんでいます（難治性疼痛）。それも含みの記入です。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
182	この病気になって、色々勉強しました。医療の事、人の心の事、弁護士の事、原告団の強さ。病気になって体は辛いけれど、得た事もありました。私は、カルテもあって助かりましたが、本当にこれからの事が不安でいっぱいです。肝炎患者全員が、国から保障してもらえるようになってほしいです。インターフェロンは、思っていた以上に辛い時があります。増えていくのは薬の量だけです。このたび送っていただいた本は、とても勉強になり、大変感謝しております。これからも、自分なりに頑張ろうと思っています。本をありがとうございました。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
183	先日の肝炎法案成立、本当に感激しました。国会議員の福田衣里子さんはじめ、皆様に感謝したいと思っています。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
184	薬害肝炎全国原告団代表、山口美智子さん他の方々の力でここまでの運びとなりました。ありがとうございます。感謝感謝です。遠く離れていても、常に応援させていただいています。集会等の行事は、遠方に出かけたことがありませんので、失礼します。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
185	病気が進行していても、救済されない方が多く占める中、私はカルテが見つかり救済されましたが、健康が戻ったわけではありません。今後、絶対にこのようなことが起きないような社会にしてほしいと思います。活動されてきた原告団の皆様、今まで本当にご苦勞様でした。ありがとうございます。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見
186	これからも、肝炎患者の救済のために尽力して下さいますよう、お願いいたします。	7. 原告団・弁護団への感謝, 意見

No.	ご意見 ご感想	回答内容分類
187	過去の辛かった時期の事は思い出したくなく、「私の肝炎は血液製剤ではなく、命と引き替えの輸血のせい」と思い込もうとしていました。でも、食品偽装や農薬漬の野菜など、命よりも儲けを追求する報道が続き、未来の子供達のためにも黙ってはいけなと、行動にうつすことを決心しました。過去の記録を見ると、当時の辛かった日々が思い起こされ、胸がつまりました。その辛い過去から目をそむけず、さらけ出して闘ってこられた原告団の方達、又、それを支えて下さった弁護団の方達のおかげで、私は幸運にも、和解にまでたどり着くことができました。本当に有り難うございました。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
188	私は幸運にもカルテがあったので、給付金をいただくことができました。弁護士、担当医師の力添えがあったからこそ、いただくことができ、感謝の気持ちで一杯です。肝炎と付き合っていく上での不安はあるものの、一応は安堵することができました。これからも、薬害救済に頑張ってくださいと思います。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
189	平成1年12月に感染。20年後、自分は肝ガンで死ぬと思っていた。双子を出産し、私が死んでも立派な人間になるようにと、厳しく育てた。神様に「彼等の成人式まで生かしてもらえませんか？その後は死んでも構いません」とお願いした。そして今、皆さんのおかげで和解でき、22年1月、あと約1ヶ月で成人した姿を見ることができ。弁護団の皆さま、その他関係者の皆さま、本当に有り難うございます。感謝し足りない気持ちです。あいにく、トラウマから不安神経症という別の病気になるてしまいましたが、息子達の成長を見ることができて、幸せです。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
190	職業上、あまり会合に参加できませんが、皆さんの活動に感謝しています。これからも活動を応援しています。チャンスがあれば参加したいです。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
191	ここまで肝炎患者が救済されたのも、原告団の代表の方々や弁護団の方々や協力して下さっているみなさんのおかげであると、感謝しています。本当にありがとうございます。本を読み、みなさんの努力の結果で、今があるのだと思いました。何も協力できていないことに、反省するばかりです。みなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
192	何時も並々ならぬご盡力により、一時的に安心できた状況で暮らしています。お力添えに感謝します。色々とお知らせをいただきながら、高齢のためあまり遠くに外出できず、不義理をしています。今後共ご支援をお願いいたします。ありがとうございました。皆さまのご発展をお祈りいたします。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
193	弁護団の方、私達薬害原告団のために、いろいろ活動していただき、ありがとうございました。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
194	私は、肝炎も感染の原因も、運良く判明し、補償も受けることができ、まだ幸せだと思っています。ここにくるまでの先人の苦労を思うと、頭が下がります。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
195	薬害肝炎との闘いの本を送って下さり、有り難うございました。本を読ませてもらって、私が病気になる時と、みんな同じ思いをしていたんだと感じました。病気になる時は、C型肝炎の事も全然知らなかったのも、ただ、病気を治すのに必死だった。原告団の皆さま、弁護団の方々、本当に有り難うございました。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
196	原告団の方、弁護団の方には、感謝の気持ちだけです。いつもありがとうございます。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
197	「薬害肝炎とのたたかい」をお送りいただきまして、ありがとうございました。弁護団、原告団の方々の長きにわたる勇気ある闘いによって、ようやく肝炎対策法が成立したことに、感謝の気持ちでいっぱいです。ただただ、頭が下がります。捨てる神あれば拾う神ありですね。皆さまのおかげで、また少し前向きに生きていけそうです。本当にありがとうございました。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
198	いろいろお世話になり、ありがとうございます。死なずに生きてきて、弁護団の優しさを味わえ、神様のように思えます。お身体に気を付けて、困っていらっしゃる方々を助けてあげてください。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
199	薬害肝炎弁護団の先生方、スタッフの皆さまには、多大なご尽力をいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
200	肝炎になり、鉛を埋め込まれたような身体の苦しさを味わった。ずっと、こんな身体にされたことが悔しくてたまらず、被害者意識を持って生きてきたが、何人の方が、長年国と製薬会社を相手に闘って下さり、和解を勝ち取って下さった。給付金をいただいたことはもちろん有り難いけれど、それよりもこの訴訟と和解によって、私は精神的に救われたと思う。これから前向きに生きていく気持ちにさせていただきました。感謝しています。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
201	弁護士さんや原告団の方、協力して下さっている方達に、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。	7.原告団・弁護団への感謝、意見
202	自分が薬害肝炎の被害者だと知ってから約2年。提訴してからも、「フィブリン糊」に関しては、国、製薬会社ともなかなか和解に応じなかったが、弁護団の先生や原告団の仲間のおかげで、今年7月和解。9月に給付金もいただいた。ありがとうございました。	7.原告団・弁護団への感謝、意見

No	ご意見ご感想	回答内容分類
203	なかなか都合がつかなくて、行動に参加できなく、申し訳なく思っています。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
204	インターフェロンのおかげで、元気を取り戻しました。でも、病気と闘っている人もたくさんいます。私には今8才の女の子がいます。いろいろな事に参加はできませんが、頑張ってください。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
205	肝炎に感染して15年経って、自分のせいでこんな病気に感染したのではないと分かりました。それは、薬害肝炎弁護団の先生方が私を励まし、勇気づけてくれたお陰だと思っています。それまでは、本当に孤独の中で右往左往していましたから、カルテを取っておいてくれた病院、原告団に加われた事、裁判で勝訴を得た事、原告団の皆と共に製薬会社と闘ってきた事、病気を押し頑張ってきた事全てが、奇跡のような出来事でした。でも、この病気に感染していなかったら、大好きな夫と別れていなかったかも・・・。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
206	ようやく肝炎対策基本法が制定された。最後まで諦めず、原告団を率先してくれた山口美智子代表の頑張りには、心から敬意を示したい。又、今日まで後押ししていただいた弁護士の先生方や支援者の方々には、本当に感謝しています。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
207	弁護団、支援者等多くの方々のおかげで、ここまで来ました。みんなが健康で幸せに暮らせるよう、今後は薬害根絶を目指して、薬害を経験した私達も、少しでも協力していきたいと思えます。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
208	報道で、自分もこれが原因ではないかと思っ色々調べたら、薬害肝炎だと分かり、怖くなり即治療を始め、ウィルスがなくなってくれたので、今のところは安心しているけれど、やはり、一生病院通いや不安はあるので、完全に安心はできないけれど、気付かせてくれたのは、やはり原告団代表、弁護団、関係者の方々のおかげだと、本当に感謝しています。これからも患者のために闘ってください。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
209	山口美智子さん、出田妙子さん、福田議員には感謝。それだけです。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
210	薬害肝炎補償の運動をしていただいた福田議員をはじめ、弁護団の皆さんに大変感謝しています。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
211	どうかウィルスがなくなって、家族と生活できているが、1年前は大変でした。弁護士先生や一生懸命活動して下さいている人々に感謝しております。ほとんど会合に出席できないことを、申し訳なく思っています。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
212	沢山の方々の活動に、感謝の気持ちでいっぱいでございます。厚くお礼を申し上げます。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
213	今回の肝炎基本法案成立に、山口代表はじめ弁護士の先生方、その他尽力いただいたすべての方々に、お礼申し上げます。ただ、基本法等のゆくえをメディアで知るくらいのこと、何の活動もできず、心苦しんでいます。後は、肝硬変、肝ガンに移行せず、人生を送ることを願うばかりです。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
214	原告団の代表、主だった方々、弁護団の方にひとことでは言えないほど感謝しております。何の手伝いもしていません。鹿児島では何か活動があるのか？他の県の方々は頑張っておられるのに、申し訳ないです。大きい事はできないけれど、何かの手伝いはできるのでは？と思っています。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
215	弁護士の先生方にこそ、命を救われました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。お陰様で、原告数もずいぶん大勢になりました。その分何かと世話も大変だと思いますが、今後どうぞ手助け、導きをよろしくお願い致します。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
216	原告団の皆様、弁護士の先生方の活動に、心からお礼申し上げます。ありがとうございました。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
217	いろいろご案内をいただきますが、どれにも参加できずにすみません。今は、定期検査等に通いながら家のことを手伝い、空いた時間を見て、送っていただいた本に目を通しています。弁護士の先生方、原告団の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。ご活動の数々ありがとうございます。	7.原告団・弁護団への感謝,意見
218	私の場合は、幸運にも17年前のカルテが残っていたこと、また、転院した際の添え書きも残されていたため、スムーズに認められ、とてもラッキーだったと思います。でも自分から動かなければ、何も始まらなかったことでもありました。「もしかしたら？」という疑問と、回り（特に両親、妹）のすすめで資料を取り寄せてみると、はっきりとした感染源がわかりました。それから弁護団の先生に連絡をとるまで数ヶ月もかかり…。せっかく助かった命だから…、でも皆さんが苦勞して勝ち取ったものに乗っかってよいのか、とさまざまな心の葛藤があったのも事実です。主人はこの事実からは目をつぶってほしいようです。話をするのも好みません。多分、出産時のことは思い出したくないということだと思います。関心のない様子ですね。原告団の方々の努力には本当に頭が下がります。いつもありがたいことだと心の中では感謝しています。積極的に参加はできませんが、応援はしています。	7.原告団・弁護団への感謝,意見



No	質問内容	回答内容分類
240	質問内容及び回答が難しいです。	8. この調査・調査票への御意見
241	治療の経験もほとんどなくて、提出をずっとためらっていた。	8. この調査・調査票への御意見
242	・無傷の、幸せな子供との家庭を夢見た、多くの主婦の将来を踏みにじった。この事件で被害を受けた方々の、今後の生活を保障してほしい。一時的な金銭ではない。 ・再発防止。人命尊重の精神が、企業、国があれば、再発は防止され、子供達の将来は明るい。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
243	治療に必要な費用もさることながら、それを受ける大変さと時間は戻ってこない。20年以上の間の大変さは、その人(肝炎患者)にしか分からない。治療は進んだといえども、辛いものである。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
244	22年前の今日、退院しました。その後数年間、生命の危険と隣り合わせの気分であったこと、3人目の子供は、母子感染の危険が否定できないので諦めたことなど、思い出してしまう。現在、肝機能異常もなく、普通に生活できることに感謝しています。原告団の活動に、なかなか参加できずに申し訳ありません。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
245	肝炎発症から22年。毎日毎日不安を感じながら過ごしてきた。犠牲にしてきたことも、数多くある。自分は運が悪かった。命だけでも助かったから良かったと、だんだん前向きには生きてきましたが、いつも身体をいたわりつつ、激しいスポーツもできず、数値に一喜一憂。今数えるだけでも、200回以上も検査結果に落胆していたことになる。楽しい事より、憂える回数の方がはるかに多い。C型肝炎への恐ろしさを知るうちに、「死」という文字も頭にかすむようにもなった。もし、あの時から普通の健康体であれば、自分と家族の人生も変わっていただろう。が、沢山の人の導きで、インターフェロン治療も受けられ、ウィルスが消えた。薬が効いた。「私は運が良かった」と感謝したい。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
246	私の人生30数年の大事な時期。子供3人の入学卒業、親戚の結婚式、葬式のほとんどの行事には、出席できませんでした。周りの輪の中に入れないう人生。68才になりましたが、今回の薬害C型肝炎と分かり、とても複雑な気持ちでおりますが、残された人生がまだわずかにありますので、一日一日を大切に生きようと、改めて思っております。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
247	子供の結婚をだめにしてしまった。母親がC型だと分かった途端、反対され離婚してしまった。理解していただけませんでした。私自身も、体調の悪さが分かってもらえず、怠けていると思われ離婚しています。本当に悔しいです。9ヶ月で死産。その後の人生です。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
248	私の人生の半分は、肝炎に振り回されました。本来は、悩まなくても済んだこと、使わなくて済んだお金、傷つけられなくても済んだプライド、失わなくて済んだ人間関係等々、振り返れば、本当のために息が出てしまいます。しかし、病気の方々への思いやり、思うようにいかない人生の割り切り方、薬害肝炎を通じて知りあった方々等、予期せず手に入れた貴重な事もあったように思います。肝炎対策基本法も成立しました。今後も、薬害肝炎事件に関わった1人として、少しでも肝炎患者の医療や生活が向上できるよう、活動に参加していきたいと思っております。又、私自身の人生も充実していけるよう、努力していきたいと思っております。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
249	辛かったです。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
250	今は症状がなく、ウィルスも消えたので穏やかだが、20年間の苦痛は忘れられないし、今後、再発や肝臓の事がいつも気になっている。今は治療してないが、腕の注射跡は消えなくて、人から見られるのが辛い。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
251	出産後の感染でしたので、治療のため産科病棟に引き続き入院し、その看護師に、まるでばい菌のように扱われました。感染の恐怖、絶望感、子供と引き離された苦痛、それに加えた産科病棟での対応。私の人生にとって、最低最悪な出来事でした。ずっと封印して生きてきました。孤独な闘いでした。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
252	何も知らなかった長い間、感染が原因とは分からず、体が動かないのは、怠け癖の性格だと済ませていました。これなんだ!!と思った時には、もう長い時間が経っていました。ガンになるかもしれない、絶対にガンになると主人から言われ、治療を始めましたが、今まで以上に体が疲れたり、しんどかったり、イライラしたりで大変でした。今もまだ3回目の投与を受けていますが、治るのか治らないのか?仕方がないで済ませてしまっているのかな?と思ったりもしますが、こんな自分が情けないです。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
253	最初は、C型肝炎?と、ピンと来なかったのですが、自分は大変な病気になっているんだと、だんだん実感するようになり、一時期は、とても悩んだこともあります。私達は、薬をととても信用して使用するので、このような事はないように、気を付けてもらいたいと思っております。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
254	防げた事なのに・・・と思うと、何もかもやりきれなくなる。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと



No.	ご意見 ご感想	回答内容分類
255	肝炎の活動を通じて、色々な事を見ることができました。病状のひどい人がたくさんいること。20～30年も経ってから表に出た薬害。子供を育てていくという重要な時に肝炎を患い、ひどい人は死にまで至っている。私はその人達に比べてましな方ですが、治療費は生活に重くのしかかってきました。いつも心に何かしきみがあるみたいな日々でした。でも、体もままならない人もたくさんいるので、頑張って活動をしていきたいと思ひます。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
256	肝炎に感染させられたこと、毎週の通院治療、副作用、すべてが辛いです。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
257	人は間違いを起こすが、これは防ぐことができた間違いだった。悲しい。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
258	人生が変わり、家族のための自分の役割が減ってしまったことが残念です。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
259	思い出すのも嫌な数年でした。もう忘れたし、考えたくもないです。今のこの生活を楽しめるよう、努力していきます。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
260	自分の事より、子供が健康で育つように力を入れてきた。親の気持ちが子供に残っているのか心配です。20才になり、初めて病気の事を話し、親子で泣いた。今まで心の中でいつも泣いていたから、今うつ病になって治療中だ。これからは前向きに、あまり後ろに帰らないようにしていきたい。薬害の仲間や弁護士の先生方に感謝しています。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
261	病気にされ、今はウイルスが検出されていませんが、人生を狂わされてしまった思いは、消えることはあまりせん。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
262	弁護団、原告団の皆さまには、大変お世話になっています。何の協力もできず、心苦しく思っています。12月26日で娘は23才になりました。23年前の出来事。数ヶ月共に入院生活をしてきたことなど知らず、良い子に育ってくれました。それで良しと思ひ込んで、生きて行こうと思ひます。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
263	20年前にC型肝炎に感染した時、現在のような情報もほとんどなく、輸血をしたから仕方がないと思ひていました。最近、何年かでのいろいろな事が分かってきて、「本当は私が悪いんじゃない」と思えるようになりました。でも、ニュースや本を見て分かってきた分、「いつ動けなくなるのか」「がんにはなりたくない」と考えるようになりました。20年前の身体に戻してほしいです。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
264	肝炎にかかって35年も過ぎているので、いろいろ思い出す事が大変でした。つらい事ばかり覚えていたのが、つらかったです。幸いにも、病状は安定しているので、気長に人生を歩んでいきたいと思ひています。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
265	尊い生命を人より早く達してしまう薬害、悔しい。もう少し生きたいと思ひう。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
266	大人が当たり前前にできていることができない悲しさ、つらさ、むなしさで、きっと他の方には理解できないんだと、つくづくこの23年間思ひてまいりました。それは私とて同じだと思ひます。他の病気で苦しむ方達に可哀相と思ひますが、それで終わってしまうのです。1人で人生を歩いているのなら、仕方がないと済ましていたかも分かりませんが、やはりどなたにも子供はいなくても、産んでくれた親がいる、兄弟がいる、姉妹がいる。自分が苦しむことによつて、きっと身近な者は心を痛めていたと思ひます。自分の手で相手を傷つけてなくても、こういう形で心を傷つけるなんて・・・と、自分を責める。笑顔の回数が少なかった半生です。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
267	感染させられて28年が過ぎ、今では健康だった時の事など、思ひ出せない程遠い昔の事になってしまいました。肝炎じゃなかったら、もっと違う人生が歩めたかと思ひうと悔しい。一生、再発、肝ガンの恐怖と付き合っていく悔しさを、国と製薬会社に分かってほしい。元の体に戻してほしい。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
268	治療中の1年間と治療後の経過観察の半年間、仕事ができず、更に、定期的な血液検査のため、なかなか仕事に就けなかった。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
269	精一杯アンケートにも協力したかったのですが、インターフェロン治療中で体調も悪く、思ひうように進みませんでした。23年間のいろんな思ひがよみがえり、涙がこぼれ、つらかったです。今まで一番つらかったのは、裁判が終わり給付金が振り込まれた時、「お金の問題じゃない、身体に戻してほしい!!」と、1人で大泣きました。悔しかった。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
270	インターフェロン治療で完治いたしました。しかし、この22年間の苦しみ、悩みは表現できないくらいに苦痛でした。現在、C型肝炎で苦しんでおられる方々のためにも、このアンケートが有効活用されることを期待してあります。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと

No	意見・感想	回答内容分類
271	昭和61年5月に結婚14年目に授かった子供を出産した時出血がひどく、輸血とフィブリンゲンで肝炎になりました。子供は未熟センターに入り、私は内科に入院しました。娘は2,800gになり退院しました。私1人退院できず、どんなにつらく悲しく、ベッドの上で泣いてばかりでした。なぜ、私がこんな病気にかかったの、どうしてと嘆きました。最初はC型肝炎とは分かりませんでした。先生より告知された時はショックでした。今年娘が教員になり、先生として頑張っています。元気で活躍している姿に、私も主人も喜んでいます。私達の心の支えになってくれます。元の元気な体には戻りませんが、生きている限り、生かされている限り、命を大切にしたいです。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
272	・私の青春を返してほしい ・子育てで、子供達に対して一緒に遊んでやれなかった ・日々、年月を、20数年間を返してほしい ・妻として嫁として何もできなかった。病院通いの辛い日々しか思い出せない。悔しい。人並みの日々ができたらいいに。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
273	自分の体調不良、C型肝炎の本当の原因が今年の1月に分かり、本当に愕然としました。よくもこの日この時まで、知らせずに隠してきたものだと、人の命を何だと思っているのかと、やりきれない思いでした。健康、家族、子供の将来、金銭面で様々な不安を抱え、検査のたびに数値が上がっていないよう祈る思いで生活してきました。何とか仕事を続けることができ、昨年から今年にかけ、インターフェロン治療も無事に終わり、一息ついてます。しかし、一生経過を見ていかなければと思っています。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
274	C型肝炎について聞かれたりするの、すごいイヤです。C型肝炎を告げるのが、ものすごくつらい。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
275	C型のために、出産時普通分娩をあきらめました。C型のために、小学生の頃から我慢したことがいろいろありました。全て仕方がないことだと思っています。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
276	検査数値を気にし、病気の進行を気にしての生活。人生やり直せない。悔しい一言。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
277	いまだに自分が何故肝炎に感染しなければならなかったのか？悔しい思いと、もう思い出したくないというのが本音です。なぜならそれは過失であり、防ぐことができたのにとすると、残念で……。私のトレードマークは、「明るく元気」でした。発病してから20年間、職場で、家族や知人の前で元気にしていることに疲れ、仕事を辞めましたが、病気に対する不安が変わることもなく、毎日私を悩ませ続けています。平成5年インターフェロン治療を受け、副作用でうつ病になり、治療は中断しましたが、いまだに睡眠剤がないと、不安で夜が眠れません。しかし、病気で得たことも沢山あり、死ぬまでにはすべてを受け入れ、これが私の人生だったと思えるよう、努力したいと思っています。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
278	人生の半分を肝炎という病気と闘い、それにより、あらゆる臓器も損なわれ、20年間苦しんできました。特に、私の場合は常に血小板は低い、他の数値は正常だったため、ガイドラインの壁があり、治療が遅れ、2回目のインターフェロンはできず、肝硬変まで進んでしまいました。もっと早く国が生命の根源を知っていれば、こんなにも多くの肝炎患者がでなかったと思います。生命というものを、深く重く受け止めてほしいと思います。	9. 過去の辛かったこと、被害を受けたこと
279	肝炎は大変な病気だと思います。今現在治療をしていて、体調はあまりよくありませんが、前向きに進んでいこうと思っています。介護を要する家族もいるので、頑張ろうと思っています。世の中にはいろいろな人がいると思います。普通の人とは違う生活を送っている人もいます。あまり活動には参加できません。	10. 将来への不安・展望、生き方
280	今はノンキャリアですが、これからがとても心配です。	10. 将来への不安・展望、生き方
281	慢性肝炎と診断されながらも、昨年まで数値も正常で、意識することなく生活してきたが、いざ数値が上昇し、治療等が現実味をおびてくると、自身の病気に対する知識、認識の少なさを実感しています。今後、自身の治療と、薬害という問題への関心を強めていきたいと考えています。	10. 将来への不安・展望、生き方
282	現在の体調など、年齢からくる体力低下もあります。必ずしもC型肝炎と結びつけて考えてはいません。これからも楽しく好きな事を(仕事、趣味)続けていこうと思っています。少々不安もありますが(肝硬変になるのか?)、今後薬害のない社会をと願っています。	10. 将来への不安・展望、生き方
283	いつもお世話になっています。皆様に支えていただいているのに、何もできずに申し訳なく思っています。今は、ほのかに明るく見えるトンネルを、歩いているような状態です。この中から、早く抜け出したいと思っています。	10. 将来への不安・展望、生き方
284	今は、病気の事を忘れるくらいに元気ではあるが、インターフェロンの治療をしても治らず、ウィルスは体内にいる。今後、肝硬変、肝臓癌へと進行していくのではと、不安になります。	10. 将来への不安・展望、生き方

No	質問内容	回答内容分類
285	今、これとって自覚症状はなく、今年就職もでき、うまく人生を歩んでいるが、近い将来、治療することになると思うと、先が見えずとても不安です。これから先、結婚もしなくてはならない時期も来ると思うが、この事で妨げにはならないだろうか。考えると、とても気持ちが重いです。	10. 将来への不安・展望, 生き方
286	治療を始めたたら、健康状態が酷くなるものなのか不安。今のままでは、ウィルスはなくなるから不安。	10. 将来への不安・展望, 生き方
287	もうすぐ治療に入ります。副作用のこととか考えると不安です。身体的には大丈夫なのですが、精神的に落ち込んだりする日々です。完治目指して頑張ります。	10. 将来への不安・展望, 生き方
288	善悪に対し、沢山の思想、痛み、運命、誠実、感謝、受容。今回は参加させていただき、良かったです。	10. 将来への不安・展望, 生き方
289	普段は笑顔で生活している私ですが、先日、大変な事が我が身に起きてしまったため、ネガティブな回答になってしまいました。	10. 将来への不安・展望, 生き方
290	自分の体も心配ですが、子供達に感染していないか、とても不安です。	10. 将来への不安・展望, 生き方
291	この数ページのアンケートに答えるにも、集中力がないなあ実感。インターフェロンも残りわずか。完治することを願い、毎日家族に支えられ、いろんな意味で苦痛に耐えています。過去のことを恨んでも、仕方がありませんが、消せない過去です。今を助けて下さい。	10. 将来への不安・展望, 生き方
292	肝炎になって、持病が3つになる。3つの病気の治療をしなければいけない。	10. 将来への不安・展望, 生き方
293	肝炎になって20数年。いつ、病院のベッド上での生活になるかもしれないという不安。仕事をしなければ生活していけないのに、普通に仕事をする職場を奪われてしまうことへの不安(体力的に、フルに働くことができなくなることによる経済的不安)。そして、病気を知って去っていった人々。そのことでの精神的、肉体的苦痛。これは、この病気になった人にしか分からない。せめて、働けなくなった時の経済的手当、支援(病気治療費含めての)を、確立してもらいたい。	10. 将来への不安・展望, 生き方
294	年に数回、アレルギーショックがあり、救命救急へお世話になることがあり、原因が解らず、輸血の影響かと思うことがある。元の体を返してほしいです。無理とは分かっています。でも、言いたくなる気持ちも、少しは分かっています。毎日、「今日は大丈夫かな?」と、自分の体に聞いて暮らしています。20年以上過ぎましたが、これからが大変かなと思っています。	10. 将来への不安・展望, 生き方
295	もう少し、長生きしたいと思っています。	10. 将来への不安・展望, 生き方
296	ふだんの活動や行動、人との付き合いを、身体の痛みや心理的、身体的に妨げられるのではなく、自分自身で「ここまで」と、範囲を決めてしまうクセというか、何をすることもいつも自分の限界を考えてから、活動するようになっていました。	10. 将来への不安・展望, 生き方
297	私が今一番望んでいることは、出産前の健康な体を返してほしい。苦しかった38年間を、もう一度健康な体で過ごさせてほしいということです。しかし、これは叶えられない願いです。それどころか、今は2ヶ月に1度のCT検査の結果に、一喜一憂しております。「がん」が再びできていないようにと願いながら、死への恐怖を抱えての生活が、いかに大変なものか、言葉では言い表せません。	10. 将来への不安・展望, 生き方
298	C型肝炎は、生まれ変わらせるための病気でした。感謝しています。賠償金は、残りの人生を生き抜くための軍資金です。今、私は最高にハッピーです。	10. 将来への不安・展望, 生き方
299	治療と同時に仕事を辞めて4年。2回目の治療も効果なく、少量投与も中断しています。この不況の中、笑える日が来るのか・・・。	10. 将来への不安・展望, 生き方
300	何年も病気と上手に付き合っていくと、いつも動いた時には休むというのを、20年以上続けていて、やりたい事が他の人より時間がかかってしまうのは、辛いものです。原告団を最初に立ち上げてくれた方々と弁護士の先生方には、本当に感謝しています。なるべく元気で、長く生きていきたいです。	10. 将来への不安・展望, 生き方
301	1日でも長く生きていたいと、無理せず肝炎とつきあってきましたが、20年も経つと、確実に体力もなくなり、何よりエコーやMRで映像化された肝臓の様子を見ると、目をおおいたくなります。効果的な治療薬が、1日も早くできることが望まれます。情報もお知らせ下さい。	10. 将来への不安・展望, 生き方
302	怒りはずっと持たずにいる。勉強不足だったからだと思う。身体的にも精神的にもしんどいとは思っている。頑張ってきた方のおかげで、和解金もいただいた。申し訳ない気持ちもあるが、現実には和解金のお金で、無理して働かなくても良いので、有り難いことである。肝炎患者のためにできることは、ずっとさせていただく。今まででも、ピラ配りなどをさせていただいた。	10. 将来への不安・展望, 生き方

No	意見・感想	回答内容分類
303	昨年インターフェロン治療をしましたが、副作用が激しく、3回の治療で断念することになりました。今後、新しい治療薬ができるまで、C型肝炎と付き合っていくこととなります。大きな不安で、頭がいっぱいになることもあります。次治療する時の医療費の自己負担も、年をとるにつれ不安でいっぱいです。今この不況の中、パートに行っていますが、待遇がどんどん悪くなってきています。しかし、この病気を抱えたまま、転職を考えることもできません。	10. 将来への不安・展望, 生き方
304	私はまだ発病していません。でも、ウイルスは死滅しにくいウイルスと聞きました。早めに治療をと先生に言われましたが、母子家庭で、年齢的にも次の仕事があるとは保障がないし、治療すると体が疲れやすくなって、仕事ができなくなるかもしれません。たおれるまで働かなくてはならないし、子供に負担をかけることはできません。八方塞がりです。毎日がとても怖く、どうしていいのかわかりません。頼れる身内もないし、誰にも相談できないのです。国からいただいたお金は、発病して仕事ができなくなった時のためにおいていますが、何年かしか生活できません。もし発病したらと考えると、早く死にたいと思います。もし治ったとしても、体がボロボロになって、年も60才を越えていたら、仕事なんてないでしょう。とても怖いのです。この活動にも、参加したくてもできないのです。余裕がありません。でも、早めに治療を受けた方がいいのか、迷っています。まだ発病していない方の意見も聞ければ、うれしく思います。いつもお世話になり、有り難うございます。	10. 将来への不安・展望, 生き方
305	今定期検診を受けている病院では、再発の可能性は0に等しいと言われているが、他の医療機関の人からは、C型肝炎はまだすべてが解明されていないので、再発の可能性が高いとも聞いたことがあるので、100%安心できないと思う不安はある。	10. 将来への不安・展望, 生き方
306	人類だけの繁栄は有り得ない。自然の前に謙虚にC型肝炎を受け止め、これ以上肝臓疾患者を増やさない自己の危機管理を徹底して、共存共栄の自覚が個々必要だと思います。2ヶ月毎の必要な各種検査で、主治医に管理してもらい、適当なアドバイスももらっているのでも、ウイルス陽性のみで、肝臓は全て異常ありません。	10. 将来への不安・展望, 生き方
307	昨年、新しく生命保険に加入したのですが、最近2年以内で検査を受けて、要再検査などの指摘がありますか？の告知書に別になかったもので、いいえとしていましたが、C型肝炎ということで、特定部位、指定疾病不担保ということになってしまいました。検査の方は良好で、すでにインターフェロン治療して7年も経つのに、とても悔しい思いをしています。検査して陰性としていくのに、終身保障がないと思うと、本当に悔しいです。	10. 将来への不安・展望, 生き方
308	死に対する不安はいつもある。	10. 将来への不安・展望, 生き方
309	なるべく被害者だと思わずに生きていこうと思っています。自分の人生の中では重い事ですが、「私=C型肝炎」として、上手に付き合っていきたい。	10. 将来への不安・展望, 生き方
310	一時大きなお金が入っても、なかなか仕事ができず、これからの生活が不安である。	10. 将来への不安・展望, 生き方
311	現在は肝硬変ですが、いつガンになるか毎日が心配で、気の休まる時のない生活を送っています。私にしたら、毎日がつらい生活です。	10. 将来への不安・展望, 生き方
312	私はまだそれほど病状は重くないのですが、これからどうなるのか心配です。でも、前向きに生きていきたいと思っています。	10. 将来への不安・展望, 生き方
313	1日も早く特効薬が作られる事を望んで、1日でも長生きしたいと願っています。	10. 将来への不安・展望, 生き方
314	母から母子感染の事を聞かされ、薬害だという事も分かりましたが、自分の中でどう受け入れて、今後どうしたらいいのか戸惑っています。母に対しても、肝炎に関する話をされると、素直になれずに強がっていますが、これから就職活動をする上で、身体上、肝炎だというのが頭の中について回るのを、将来の不安は沢山あります。キャリアでも治療できる方法があれば、治療して早く元気になりたいです。	10. 将来への不安・展望, 生き方
315	毎日が不安定な生活をしております。早く良くなれるよう、色々な情報があれば、お知らせ下さい。	10. 将来への不安・展望, 生き方
316	いつもお世話になっています。ありがとうございます。これから、自分の体がどういふふうになっていくのか不安です。一生病院通いかと思うと、前向きにはなれない。	10. 将来への不安・展望, 生き方
317	今は薬を飲んで定期的に通院していますが、これがいつまで続くのか？将来も不安な気持ちで過ごしています。	10. 将来への不安・展望, 生き方
318	みんなが前向きに、幸せな人生を送れるようになってほしいです。病気になって良い事も悪い事もあると思いますが、自分は誰かのせいとかではないと思います。どんな病気も一緒だと思います。本当に、自分の受け止め方次第で、前向きに生きられるのですから・・・。支えてくれる人が沢山いますので、心強いです。	10. 将来への不安・展望, 生き方

No.	意見、苦情	回答内容分類
319	私の人生は、20数年前から変わりました。毎日が何をすることも不安でたまりません。	10. 将来への不安・展望, 生き
320	年が明けてから仕事を辞め、治療に前向きになりたいと思っています。	10. 将来への不安・展望, 生き
321	現在も、予防接種で死者がでているのに、その事実を隠していることに、事故の教訓が生かされていないと感じます。国の責任を、今まで問題としてきたのに！	11. 国・会社・医師などへの意見
322	国、医師、製薬会社が他人事にせず、自分や家族に置き換えて、責任のある行動をとることを期待する。1日でも早く法律ができ、肝炎患者全員が、安心して治療が受けられる制度を確立していただきたい。金銭援助を強く願う。	11. 国・会社・医師などへの意見
323	肝炎患者全員350万人に、障害者手帳の交付、年金の給付を具体化切望します。肝障害の度合いで認定とありますが、時間と共に機能は悪化、進行していますので、差別することには反対します。全員救済を、ぜひ対応願います。	11. 国・会社・医師などへの意見
324	どんな経路で感染したにしても、肝炎患者全員が救済され、安心して治療できるようにしてほしい。	11. 国・会社・医師などへの意見
325	本来、病気を治す薬で病気になるなど、あってはならないことだと思います。肝炎の治療は進んでいるので、適切な治療をすれば、元気になれることもあります。ですから、すべての患者が安心して治療を受けられ、元気になれるよう、今度こそ医療関係者、国、製薬会社が力を合わせていただきたいと思っています。患者が闘う相手は、ウィルスだけです。	11. 国・会社・医師などへの意見
326	私は、2回のインターフェロン治療により現在検出されませんが、肝炎患者が、安心して治療を受けられるようにしてほしい。	11. 国・会社・医師などへの意見
327	出産後、輸血での肝炎の危険性は説明を受けましたが、止血剤での説明はありませんでした。2年間の治療、経過観察が終了し、医師からもこれからの危険性等の説明もなかったので、自分では肝炎は治ったものだと思っていました。昨年11月～今年10月までインターフェロン治療を受け、ひどい副作用にも耐えて頑張りましたが、ウィルスは消えません。また闘いです。治療を受けます。専門病院を増やして下さい。大学病院関係で大きい総合病院だったので安心して受診していたのですが、10年間C型肝炎で通院していた医師は、専門医ではなかったのです。又、何回でもインターフェロン治療の助成が受けられるようにして下さい。薬害を、もう絶対に起こさないで下さい。	11. 国・会社・医師などへの意見
328	薬害肝炎の原告のみならず、肝炎患者のための救済を、是非ともお願いしたい。安心して治療を受けられる体制を、急いで作ってほしい。	11. 国・会社・医師などへの意見
329	民主党の票集めの道具にされていると思う。	11. 国・会社・医師などへの意見
330	今は元気になり、医療費は検査のみとなりましたが、20年以上治療につき込んできた結果、今があるので、私のように数値が下がるよう、早く治療して元気になれると、患者の皆さんに働き掛けて下さい。治療は、早い方がいいと思います。	11. 国・会社・医師などへの意見
331	私は、平成20年にインターフェロン治療をしましたが、再燃してしまいました。国、製薬会社は、完治するまで、きちんと責任をとってほしいと思います。	11. 国・会社・医師などへの意見
332	本人を基に回答させていただきましたが、家族としての意見を書かせていただきます。薬害のため、家庭内にどれ程の問題が起こるか考えていただきたい。国民病とまで言われる今日。そして、感染力の怖さ。三女の私もC型肝炎です。どういう経路かは分かりませんが、これは人災です。	11. 国・会社・医師などへの意見
333	どんなに時間がかかっても、薬害C型肝炎の原因究明を、被害者が納得できる形でしてほしい。そして、今後薬害が起こらないように、国、企業が、国民に見える形で努力を示してほしい。こんな体になっても、私はこうして今もここに生きています。薬害だけではなく、医療の現場で、これからは感染することのないようにして下さい。被害者は、患者だけではなく、家族も長い間苦しんだのです。	11. 国・会社・医師などへの意見
334	あまりにも無責任すぎる。信頼できない。	11. 国・会社・医師などへの意見
335	医療や生活を保障する恒久対策をお願いしたい。	11. 国・会社・医師などへの意見
336	人の命の尊さという事を、もっとしっかり国をはじめ製薬会社に強く求めます。私は幸いにしてインターフェロンが効きましたが、インターフェロン治療中は本当に辛く、うつ状態になりました。2ヶ月に一度肝炎の検査に行きますが、数字が動くたびに、びくびくしていることも事実です。	11. 国・会社・医師などへの意見

No	意見・感想	回答内容分類
337	1人でも多くの人々が、国または製薬会社によって保障されて、治療が出来ること。本当の良薬を作っていただくことが、犯した罪の責任ではないでしょうか。妹は(本人)、毎日が命との闘いです。私は毎日ドキドキして過ごしております。	11. 国・会社・医師などへの意見
338	・体が辛くても、生活をするために働かなくてはいけないし、ストレスで精神状態もずっと良くない状況の中、恒久的対策がとられ、支援法で少しでも人間らしく生きられるよう、法で守ってほしいと思います。 ・原告団に入り、同じ病気の方の話や集会に参加させていただき、精神面で大変力になっていただいています。	11. 国・会社・医師などへの意見
339	C型肝炎で苦しんでおられる方、まだまだたくさんいらっしゃいます。裁判に持ち込めない方々、とてもお気の毒に思います。たまたまカルテが残っていたため、和解できましたが、あっても1年かかりました。国と製薬会社は、自分達の罪を分かっているような気がします。ひとごとだからだと思います。お金をいただいても、人生は戻ってくるわけではありません。思い出したから胸が熱くなり、具合が悪くなりそうです。	11. 国・会社・医師などへの意見
340	私は無症状なので、日々の生活に追われて忘れてしまいがちになりますが、今も尚苦しんでおられる方のことを思うと、本当に胸が詰まる思いです。こんなことは絶対にあってはなりません。早急に解決してほしい。国の体質や企業の営利追求のために、人の命を軽んじるやり方、経営。	11. 国・会社・医師などへの意見
341	本人には何の落ち度もないので、これからの医療費や生活の保障を、きちんと守ってほしいと思います。	11. 国・会社・医師などへの意見
342	裁判を通じて感じたのは、国や製薬会社には被害者に対して、もっと他人事ではなく人間的に、そして、真摯な姿勢でいてほしいということです。薬害事件を起こすことは少なくなり、なくなっていくと思います。	11. 国・会社・医師などへの意見
343	6年余りの道のり。多くの人に支えられてここまで来られた事が本当に有り難く、又、この恩を何かに表して返すべきでは? たくさんの人に感謝だが、国と製薬会社に失望と怒りを覚えた日々でした。	11. 国・会社・医師などへの意見
344	山口さんをはじめ、弁護団の先生方、本当にいつも私共肝炎患者のために、いろいろがんばっていただいて、感謝しております。政権が変わり、少しずつでも薬害患者のために、国や会社ももっと真剣にしっかり取り組んでもらいたい。私は、1日でも早く肝炎が治るものと信じて、これからの人生(結婚もしたい)が明るく過ごせたらいいと、いつも体の調子をコントロールしています。	11. 国・会社・医師などへの意見
345	薬害に苦しむ人は私だけでいい。今後、起こることのないよう、厚労省の方々には、薬害肝炎の原因追及、及び、恒久対策をしっかりしてもらいたい。そのためなら、何度でもアンケートに答えませう。どうか、350万人の肝炎患者が救われる日が訪れますように。	11. 国・会社・医師などへの意見
346	完治はしているが、体が重くて、土日は寝込むことがある。将来また肝炎になったら、いつも不安になる。肝炎にならなかつたら、どんな感じの人生だったのかなとか、子供がもう1人いたのかと考えることもある。入院していた時、私の前に入院した人が、子供が生まれて1ヶ月後に劇症肝炎で亡くなったと、病院で聞いた。その方の子供や旦那さん、ご両親は、国や製薬会社を許せるものではない。現在も苦しんでいる肝炎患者の負担など、あつてはならない薬害だと思っている。今後、このようなことが起こらないよう、法案を作成してもらいたい。目を光らせていくことが、亡くなった方や、まだ完治してなくて苦しんでいる人への、私の義務だと思っている。	11. 国・会社・医師などへの意見
347	追加給付金についてですが、条件として給付金を受けた後10年以内に症状が進行した場合となっておりますが、それはどうなのかなあと思います。治療を受けて完治する人はいいですが、完治できずに、又、治療も受けることがかなわず、11年目に症状が悪化した場合は、受け取れないなんて事はおかしいですか? 10年以内という期限には、皆納得していないと思います。結局はお金の話?と思われるかもしれませんが、病状が悪くなればお金はかかります。一番良いのは、皆が完治できる特効薬ができることです。肝炎患者全員が、「肝炎だったんだよ」と過去形で話せる日が、1日も早く来るのを願います。	11. 国・会社・医師などへの意見
348	私の場合、糖尿病の数値を下げてからのインターフェロン治療になるため、その治療期間の生活とその後の就職先が不安です。どうかこの部分が法律で、不安解消できれば助かります。	11. 国・会社・医師などへの意見
349	薬剤の研究開発は色々苦労があると思いますが、病気の状況や治療の効果が見えた時、患者、医師、製薬会社、国が一体となった証拠だと思っています。	11. 国・会社・医師などへの意見
350	皆さんも大変この薬害で困っているので、できるだけ行政の手を差し延べて下さい。お願いします。	11. 国・会社・医師などへの意見
351	医療に関わる全ての人や、将来医療に関わる人達に対する薬害教育は、絶対に必要だと思います。	12. その他

● 各設問の「その他」欄への自由記述

問3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明—その他

No	問3-1 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明—その他
1	ショックだった事は覚えているが、自分の身体がだるくても、気分がすぐれなくても、生まれたばかりの子を育てなければ、働かなければの方が先だった。
2	無知でよく分からない。
3	人に言えない。一人で隠しておかなければならないと思った。知られると、人が離れていくと思った。今でも、C型肝炎の事には触れないようにしている。
4	出産後だったので、昔の出産時に輸血した時に、感染したのだと説明を受けたと思います。
5	無症候キャリアだったので、ピンとこなかった。
6	当時は輸血していたため、原因は献血して下さった方の中に、非A型非B型の方がいたのではないかとのことだったし、その説明で理解していた。
7	輸血が原因のような説明だった。
8	前置胎盤で、帝王切開で出血多量だが、母子を救うためには輸血が必要であり、その時はそのおかげで2人共助かったと思っている。医師には感謝している。
9	ウイルスが家族に感染しないように、世間にC型肝炎になったことを知られないように、あまり表へは出ませんでした。でも、経済的なことを考え、パートにも出ましたが、帰ってから、夕飯も作れないほど、疲れてしまうこともありました。いつウイルスが暴れ出すのか、常に死を考えていました。
10	血液製剤で感染したことを知ったのは最近のことで、輸血をしたから、それでなったんだと思ってきました。
11	医師から説明を受けたというより、病名を知った時に、自分でどのような病気で今後どうかを先に調べ、それを医師に確認した。フィブリノゲンの名前も、使用した事も知らされなかった。
12	初めて分かった時、●●医療センターからの知らせには呆れた。性生活が不純な人がかかる病気であると、エイズの時と同じで、国が悪いのに患者のせいにした。
13	心臓に人工弁（金属製）を入れているので、インターフェロンによる治療はできないと言われました。
14	止血剤が悪かったのを、早く知りたかった。どこへ不満を持っていけばいいのか分からないのは不安でした。薬害肝炎弁護団の方々に救済していただき、有り難うございました。
15	一般の人間にとって、医学用語ばかりで理解できず、どのような病気なのか、どうすればいいか、明確な説明を受けられず、不安をあと立てるようだった。
16	大量の輸血をした時になる可能性が高いと言われ、出産直後から定期的に血液検査をしていたので、やっぱりかかったのかと思った。
17	予想外でした。
18	インターフェロンの治療がしにくい体です。他に良い治療法があればと思っております。
19	説明はなかったと思う。
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うつる病気だから、家族の内でも区別するように</li> <li>・関係機関に報告すること</li> <li>・生活の場では、常時消毒すること</li> </ul>
21	看護師だったため、病気について十分理解していたので、絶望感を感じた。
22	輸血後肝炎だと言われた。血液製剤の使用は、当初言わなかった。
23	S63年1月の肝機能検査で、GOT1947、GPT1968、ALP4531、LDH3332、LAP3330で入院して、輸血後肝炎と言われ、次に非A非Bと言われ、次に慢性C型肝炎と言われて、2007年11月に医療機関から告知され、初めて薬害肝炎だったと知った。
24	我が子と面会はしていなかったけれど、かすかに残る産声と、我が命があることの喜びでいっぱいでした。



No.	問3-1 肝炎が判明した時に医師から受けた説明-その他
25	投薬に関する説明なし。対処の仕方が変わっていたと思います。感染があるような病気だったら、次の子供や家族にも、もっと気を使ってあげられたのに、残念です。
26	C型肝炎の治療方法は、当時特別な説明はなかった。肝機能は今回正常。ウイルス抗体陽性のため、定期的な経過観察は必要(3ヶ月毎)。外来受診、尿検査異常なし。
27	C型肝炎は、日常生活では感染しない病気だということを、世間の人々に教えてほしい。
28	心臓手術後、手術前に入院していた大学病院内科に転院しました。当時内科の主治医に、「なぜ私が非A非B型肝炎になったのか」、手術をした大学病院に聞いていただきましたが、返ってきた言葉は、「それは残念。しかし、心臓が助かったのだから」というようなものだったと聞かされました。原因が分からないまま、現実に肝数字が3ケタになっているのを下げる治療を受け(強力ミノファゲン・タチオンを注射)、数字が安定したところで退院してしまいました。非A非B型肝炎が、この先どうなっていくのか、主治医から何の説明もありませんでした。
29	昭和58年当時は、医師に質問しても、はっきりした答えがなかったので、とても不安でした。
30	平成21年2月から、インターフェロン治療を6ヶ月しましたが、今はウイルスが検出されず、喜んでいますが、2週間の入院で、退院後の薬の副作用が強く、やむを得ず、14年勤めていた仕事を辞めました。
31	血液製剤のことは、医師からは直接聞いていない。カルテの開示を申し込み、それで判明した。
32	説明を受けた時は、輸血からかなと思った。
33	とても辛い思いです。考えると鬱になり、不安です。
34	非常に辛い状態で入院したので、その時は大変だと思いましたが、急性は治ると言われていたので、退院時、完全に治ったと理解していました。
35	原因は薬剤かもしれない。
36	この当時は何も分からなかった。
37	健康増進になればと、健保組合のカルチャーへ行って現状説明をすると、ロッカールームで着替えて、帰ってくると、玄関を出るまでついてきた。
38	出産時の輸血と判断していたと思います。
39	非A非Bと言われた時には、どんな質問をしても何の返答もなく、医師も何も知らないのだと認識した。ただ安静にするだけの治療法だったので、大した病気ではないと思った。
40	白血病治療中に、C型肝炎になったと言われたが、なぜなったのか分からなかった。
41	出産時に輸血した時、「輸血したから肝炎は覚悟して」と言われたので、産科の病院で肝炎になっていると言われた時は、輸血による肝炎だと思い、その後、内科に通っていた時も、肝炎の原因については考えず、病状や治療についてのみ考えていました。
42	私が憎むのは、出産時に何の説明もなく、陣痛促進剤を、点滴ではなく筋肉注射して出血多量にし、その後の処置も手間取り、自分の手に負えなくなってしまった医師である。生まれてそれまで健康な体で、病気など何一つしたことがなく、活動的であった私が肝炎になり、長期入院や通院等苦痛を伴い、生活が一転してしまったことが悲しい。
43	病院側では、10数年前から感染を知っていたのに、患者本人に告知しないことに、怒りを感じた。
44	術後20~30年後に、がんになりやすいと言われた。
45	医師から、性生活中で感染すると言われました。
46	当時、医師の説明に、血液製剤のことはありませんでした。
47	誰にも知られなくなかったです。救済の話が出なければ、夫にも言わなかった。早く死にたかった。肝炎検査は避けていたが、自分自身ではC型だろうと思っていた。
48	・医師から具体的な説明を受けたことがない ・S60年10月、産業医から「うつる病気(感染症)の患者が社内にいる」と職場内に広められた
49	早くて20年、遅くて30年で肝硬変やガンになって死ぬと理解(説明)した。

No	問6-1 肝炎患者が判明した時に医師から受けた説明—その他
50	輸血での感染と言われた。血液製剤の話は一切なかった。
51	慢性にならないように、血液検査を定期的に行うこと。
52	非A非B型肝炎は、急性のうちに3ヶ月以内で治る人もいると告げられ、その話にだけ唯一希望を見出し、頑張ろうと思ったのですが、当時の自分が痛々しいです。
53	黄疸入院最初の時、医師より歩いてはダメ、ベッドに寝ていなさいと言われ、尿は尿瓶のため、便は1日1回だからベッドから起きて行きなさいと言われた。食事の器は消毒するから、そのままにしておけとのこと。新聞やテレビもダメ。ただ横になっていたことが、一番大変だったのでしょうか。それが良かったとは思いますが。
54	C型肝炎について、情報が（知識）あまりなかったので、とにかく本を買って読んだ。
55	S63年当時、2つの総合病院に受診しましたが、病気についての説明はほとんどなく、当時新聞で目にしたインターフェロン治療の事を質問しても、ほとんど効果がないと言われてしまいました。肝庇護薬の投与と血液検査で、1年間過ごしました。私自身も、日常生活の多忙さから、C型肝炎と判明するまで、あまり深刻に考えないようにしていたと思います。その後、次の子供を出産しましたが、前の出産後に肝炎になったと説明しても、医師もあまり気にしていなかったようです。C型と診断されるのが怖くて、出産時に強い薬を使用したから、肝機能が下がったんだとか、自分で思い込もうとしていました。
56	C型肝炎のウィルスはいるが、ウィルスの数も少なく、弱いウィルスなので、心配しなくて良い。GOT、GPTも正常値。
57	肝炎と診断された時から、死は頭の中から離れたことはありません。いずれ肝がん。それが今日なのか明日なのかと、常に思っています。
58	出産直後に出血した時、産院の医師から家庭に連絡がなく、家族は、裁判にしたいとまで激怒しました。一夜が明けてから、家庭への連絡がありました。なぜ、出血時に連絡してくれなかったのかと思います。
59	S62年当時は、輸血による肝炎と説明を受け、「命を助けるためには仕方ない。命が助かっただけでも、いいと思いなさい」と言われた。
60	判明時は、血液製剤からの感染だとは知らなかった。
61	医師からフィブリノゲン使用の話はなく、20年間輸血のせいだと思っていた。
62	肝硬変になると言われました。
63	母子感染がほとんどないと聞いていましたが、第2子を出産するにあたって、かなり不安がありました。
64	このままいけば、5年後には死亡するかもしれないという医師の言葉に、不安と絶望感。疲労感のある体で病院通いと家事育児、仕事。本当に辛かった。
65	感染が判明した当時は、インターフェロン等の治療薬もなく、このまま進めば命に関わる恐ろしい病気だと理解した。血液製剤に関しての説明は、一切なかった。
66	まともな医師がいない。
67	最初は、輸血が原因だと思った。
68	私の1b型は治りづらいと言われ（インターフェロン）、ウィルスを抜くことが難しいと聞き、ショックを受け、更に母子感染していたらと不安になった。
69	医師からは病名だけで、詳しい説明は受けていない。当時は、それが当たり前だったと思う。
70	最初は急性肝炎なので、安静を心掛け、慢性へ移行しないようにして下さいと言われたため、治療法はないが、治る病気だと思っていました。
71	どの医師も、常に、血液製剤のために感染したのではないと言った。
72	なんで？やっぱり！どうしよう、などが頭を駆け巡り、考えがまとまらず、動けませんでした。それから、頭の中が真っ白になったことを、覚えています。
73	周りに肝炎患者がいなかったため、病名すら知らなかった。

No	問 3-1 肝炎発症が判明した時自医師から受けた説明—その他
74	第2子を出産して1ヶ月後に肝炎にかかり、1年半後に3人目を妊娠した時に、一応念のために病院へ、出産しても大丈夫か聞きに行った時、初めて非加熱血液製剤が使われた事を知りました。3人目の子は8ヶ月で早産。2時間後に亡くなった。
75	急性期には、医師より命の危険もあると言われて、3人の子供達も小さく、毎晩眠れないほど、これからの生活が不安でたまりませんでした。
76	出産時の出血多量の治療のせいかと思っていた。
77	初めて聞く病名であり、よく分かりませんでした。そのため、書店に行き、「C型肝炎」という本を買い、勉強しました。
78	国と製薬会社の重大責任であり、製薬会社も1人1人に謝罪するべきである。
79	出産時の輸血により、肝臓が悪くなった。とにかく、点滴をして、トイレ以外は絶対安静にするようにとの話だった。肝炎の詳しい説明はなかった。
80	自分の体の事より、生後1ヶ月の子供をおいて、入院治療は考えられず、上の子も2才を過ぎたばかりで、医師の説明もよく理解できない状態でした。
81	判明した時は、インターフェロン等の治療が一般に広まっていなかったため、年4回の肝機能検査を怠らず、GOT、GPTの数値が100を超えたら、治療に入りましようと言われた。
82	判明した時点で、血液製剤によるものと分からなかった。
83	症状があまりなかったため、深くは考えていなかった。
84	感染した当時は、自分の事よりも、とにかく初めて出産した子供の事に必死でした。そして、育児の事、これからの治療、入院後の家族の事を考え、絶望の日々でした。
85	私の場合、出産の時の止血剤（フィブリノゲン）は、必要ではなかったと思っています。他に方法があったのではと思います。
86	血液製剤を投与された事を知らなかったが、出産直後に急性肝炎になったのは、出産時の何かによって、感染したに違いないと思った。
87	未だによく分からないので、はっきりとした説明は、してもらえなかった印象がある。
88	輸血が原因で肝炎になったと、原告になるまで思っていた。肝炎の事は何一つ知らず、医師から病名を言われた時は、他の事は覚えていない。
89	その時は、1ヶ月程で治ると思っていた。
90	私が感染した時は、非A非B型と言われていた時で、治療法もなく、ただ進行を遅らせるように、強ミノ注射しているだけの時期があり、普通の生活ではうつらないと言われていたが、子供がいたので、うつさないようにと気遣って生活していました。
91	肝炎を発病した時に、あまり説明がなかったため、自分自身も自分の病気の事を考えていなかった。やはり、病気に対してもう少し、説明がほしかったように思う。
92	入院は3週間ほどと言われていたので、それだけで治るような病気だろうと思った。とにかく安静にして、毎日点滴をしていたら良くなるのだろうと思った。原因に思い当たる事がなかったため、うつる病気かと聞くと、非A非B型肝炎は未解明でうつらないとは思いますが、小さな子供は近づけない方が良いでしょうと言われた。肝機能の数値が安定しなかったため、3ヶ月2週間の入院になってしまった。やっと退院できたが、5ヶ月後に肝数値が上がった時はショックだった。もしかしたら、この繰り返しで悪くなり、子供達の成長が見られないかもしれないと、死を自覚した。血液製剤の説明は、医師から受けなかった。
93	医師より、専門医でないため詳細な説明はできないと言われ、●●病院を紹介された。
94	初めて診ていただいた医師は、C型肝炎の事をよく分かっていないようで、777と数値が出たのですが、少ないのではない事はないですね、と言っていました。なので、私もたいした事ない病気なんだと思っていました。それから肝臓専門の先生に代わり、大変な病気だと知りました。
95	私は出産医院、入院病院、投薬を受けた医院とバラバラなので、当時（30年前）は、そのような会話はありません。注射を受けた医師からは、輸血をしましたかと質問されました。

No.	問 6-1 「肝炎歴が判明した時に医師から受けた説明」その他
96	家族や人に感染させないかと心配です。
97	出産して、1ヶ月後だったので、出産した病院を訴えようと思った。これから一生病気と闘っていかねばならないと思うと、自殺した方が楽になれると思った。
98	非A非Bとの説明を受けた時点では、重大な病気との認識はなかった（激症化のみ注意する）。C型との診断説明を受けて、重大さを知った。
99	当時（S62年7月）、40日間の点滴治療で、黄疸などの症状が良くなったため、年に1回の検査で様子を見るようにと言われ、治ったと思いこんでいた。ウィルスの説明はなかった。
100	感染した時には、C型肝炎についての知識が全くなかったので、何か他人事のように思っていました。
101	何が起こったのか分かりませんでした。
102	C型肝炎を告知された時は、すでに肝硬変と言われた。もっと分かった時に知らせてほしかった。家族に感染されないように気を使った。
103	C型肝炎がどんな病気かも知らなかったし、訳が分からなかった。当時は輸血もしたので、仕方ないのだと思っていた。ただ、このまま放っておくと、5年後には重い病気になると言われた。
104	その当時は、病院のせいでこんな病気になったのに、治療のための医療費は自分で負担すること、精神的苦痛など、とても理不尽に思っていた。
105	お産の時に感染したのではないかと聞いてみたが、「それはない」と言われた。
106	輸血により肝炎になったと説明され、数枚のパンフレットを渡され、「これを読んでおくように」と言われ、本なども出ているので、自分で調べなさいと言われました。このままでは5～20年の命ですと図を書いて、慢性肝炎→肝硬変→肝ガン→死と説明された。
107	治る病気だと思った。
108	血液製剤を使ってC型肝炎になったというのは、ここ1～2年で分かりましたので、医師は知りませんでした。
109	最初、急性肝炎で入院した時点では、普通の肝炎のように、1～2ヶ月で完治の病気だと思っていた。当時、医師からも詳しい説明はなく、毎日点滴と血液検査の繰り返しで、治ると信じていた。
110	●大で手術後、第3内科へ行き、GOT、GPTの数値を下げただけで、ウィルスは残ったまま。外科手術でフィブリン糊使用。
111	C型肝炎を初めて自分で確認した（知った）時、医師は何の説明もなく、事実だけを告げられた。自分では、たいしたことはないと思っていた。
112	感染した時は病名だけで、分かりませんでした。
113	最初に聞いた時は、あまり聞いたことがなかったので、たいしたことはないと思っていた。それから大分時間が経ってから、大変な事だと分かった。
114	C型肝炎ですと言われても、初めて聞く病名だったので、どのような病気なのか、理解できませんでした。
115	当時は、単なる肝機能障害と考えていたらしい。
116	出産時の輸血、点滴が多く、その後すぐ血清肝炎で入院し（4ヶ月位）、C型肝炎が判明した時は、当時の血液製剤薬害によると思われ、そして、その後の糖尿もそれに関連していると言われた。当時、私は30才前で、糖尿には早すぎるので、その影響は大きいと言われた。
117	父が医師だったため、父から説明を受けた。主治医からは詳しく聞いていない。
118	肝炎がこんなにも危険な病気と思っていなかった。今さら逃げることもできず、二人三脚で一生付き合っていくものと覚悟しました。
119	輸血をしたための発病とは聞いたが、血液製剤が使われたことは、聞いていなかった。
120	肝炎数値が高いことで、以前何か大きな手術をしましたか？と聞かれ、出産時に止血、輸血をしたと報告。それでC型肝炎かな？と言われ、ただただびっくりするのみでした。



No	問 題 1 肝炎感染が判明した時に医師から受け取った説明—その他
148	肝炎治療のために入院した病院は、出産した病院と親密な関係だったので、肝炎を発症したのは出産が原因ではなく、私自身の衛生管理に問題があったような説明の仕方だった。
149	肝炎感染が判明した時は、まだどこで感染したのか分からなかった。
150	非A非B型肝炎で、安静にしていればすぐに治ると思っていました。何年経っても完治すると思い、ありとあらゆる治療をして治したかったです。
151	私死ぬの？あと何年生きられるの？頭が真っ白になりました。主人や子供達にうつっていないだろうかと、心配になりました。
152	当時は、まだフィブリノゲンが原因でC型肝炎になったとは、医師も分からなかったのでは？
153	今まで健康な体であると信じていたため、肝炎だと言われた時、何故自分かと思った。
154	本人の私より主人の方が、当時よりこの事を（C型肝炎）心配していた。
155	インターフェロンの治療を一度したのですが、効き目がなかったので、あきらめていた。
156	C型肝炎と言われ、そのうちインターフェロンとかいう話を聞かされ、もう治っていると聞かされるまでは、いつまで普通の生活ができるのかと毎日不安で、身のまわりの整理をしました。
157	当時は、輸血による感染であるという説明で理解した。
158	どうして肝炎に感染したのか、今回初めて知りました。当時、非A非B型肝炎であると医師から言われました。しかし、心臓が助けられたことで、肝臓の事はピンときませんでした。
159	知らずに一生懸命子育てをし、義父母の面倒をみていました。C型肝炎と分かってから、3ヶ月に1回の検診のみ。2年前肝臓科の先生に変わり、すぐにインターフェロンの治療に入りました。1ヶ月位寝たきり状態で、熱、痛み、意識不明になったりで、中断しました。10ヶ月後再治療に入り、現在続いています。
160	対策が後手だったように思う。
161	今後の人生における絶望感でいっぱい。
162	人生一生涯、自分を含め家族全員に苦勞をかけ、今現在も毎日の生活に困っている。
163	感染症でみんなに嫌がられる。
164	出産したばかりだったので、子供の事を考え、将来を悲観していました。
165	医師は、「命に関わりはない。献血ができなくなる程度」、「輸血の中にウイルスがいた」と説明。C型肝炎→慢性化→肝硬変→肝ガン→死だと理解していたので、かなり不満の残る説明であった。
166	インターフェロンが効かない型で、医師から気の毒と言われた。
167	平均年齢まで生きられないと、強いショックを受けた。
168	輸血による感染と説明を受けた。
169	症状が出ていないうちに、インターフェロン治療を受けた方がいいのかどうか・・・。副作用がでて、寝込んでしまうと困るのですが・・・。
170	判明した時は、何でなのか分かりませんでした。
171	家族に感染しないかと、色々な面で気を使うこと自体がイヤだ。
172	当時はパニックで、絶望的でした。理解するまで何度も説明を聞いていました。
173	インターフェロン治療があると知りましたが、その当日は高額だったため、諦めた。
174	肝炎→肝硬変→肝ガンになり死亡。大変な一生になると思った。
175	とてもショックでした。何が何だか分からなかった。

No.	問 3-1 肝炎発症が判明した時自医師から受けた説明—その他
176	産院の先生から、「出血が多いので薬を使います。肝炎を起こすかもしれないけれど、大丈夫。うちで診ます」と言われました（出産時）。
177	出産後判明するまで、何か自分の中で、点滴した後の体調の変化に不信感があり、病院へ問い合わせをした。ずっと納得ができず、今までの思いがやっと納得のいく結果だった。
178	まだその当時は、急性肝炎のうちに完治すれば、慢性化しない可能性があると思い、ひたすら安静に努めていた。肝炎が発症した時は、まだ血液製剤が原因と思わなかった。
179	治療法がないから、一生付き合っていく行かなきゃならないと、死の宣告を受けたのと同じ気持ちでした。
180	最初23年前、非A非B急性肝炎にかかった時は、数値が下がった時点で完治したと思っていた。医師も次の出産をしてもいいと言っていた。数年後C型肝炎キャリアと分かった時は、一生付き合っていく病気、何時悪化するかわからないと言われ、とてもショックでした。
181	医師からは、非A非B型肝炎で治療法がない、安静にすること、一生治らない、悪くなったら入退院の繰り返しになる、仕事も家事程度で、無理はしないようにと説明を受けた。病気になるまではとても元気で、パートの仕事もしていたし、子供達ともよく遊べた。何もかもできないと思った。「一生治らない」と言われたことに、ものすごくショックを受けた。
182	36才での出産だったので、出産で体が弱って肝炎にきたのかもしれないと言われたので、なるべく安静を保って養生すれば、おさまると思った。
183	覚えていないし、ただ、うつるので気を付けるよう指示された。
184	輸血をしたために、肝炎になったとの説明でした。
185	医師の説明の後、何で？ どうして？ と泣いた。肝炎＝ガン＝死が頭の中で駆けめぐり、当初は、自殺も考えるほどに辛かった。人にも話せず苦しかったです。
186	肝炎発症時はまだ血液製剤使用も知らず、慢性肝炎になるのは確率が高いのだと理解した。20年後に肝硬変、30年後に肝ガンになって死ぬのかと思うと、60才まで生きられるのかと不安に思った。
187	自分自身が医療者であるため、肝炎の知識があり、説明を受けなくても分かっていた。
188	肝炎→肝硬変→肝ガンへと進行していき、一方通行で死に至る病気である。感染症なので、気を付けるようにと指導された。各ステージはそれぞれ5年位で、寿命はおよそ15年とのことだそう。
189	子供にうつらないか聞いた時、仕事（調理補助）に就く時などに、血液に注意するよう言われた。同じ病院内（産婦人科→内科）にまわされたが、感染原因を聞いても、不明と答えるだけでした。
190	麻薬や、ピアスをあけたことがあるかとの問があった。
191	10年後、肝硬変、肝ガンになって死んでしまうのではと、毎日思っていました。
192	運が悪かったと言われました。
193	輸血による感染であると言われた。
194	C型肝炎のパンフレットを見せられる。20～30年で肝硬変、肝ガンで死ぬという恐ろしい内容。
195	小学校4年生の時だったため、よく理解できなかった。
196	深く説明してもらえなかった。安静にすれば治ると思った。
197	判明した時は10才だったため、理解していなかったのも、きちんと病気の事について知った18才の頃の気持ちで回答しました。
198	現在、最良の治療法があれば治療したい。
199	医師からの説明はなく、看護師より聞きました。後は自分で調べたりした。治療をしないで、ある程度の事を聞いた。
200	輸血時に医師から、「昔はB型肝炎の心配があったが、今はないので大丈夫です」と説明を受けて安心していたのに、「肝炎です」と言われてショックだった。

No	問3-1. 肝炎感染が判明した時に医師から受けた説明-その他
201	結婚したばかりでの病気発覚だったので、夫側の家族に申し訳なく思い、病気を説明した上で、頭を下げました。その時の心境は、将来への不安しかありませんでした。
202	人間ドックを受け、再検査となり、CTにより肝炎と気づき、現時点では治療しなくてもいいと、医師から言われた。
203	当時、周りに肝炎の人が誰もいなかったもので、産後1ヶ月後急性肝炎で入院した。すぐに治療して帰れると思っていた。
204	手術した時の輸血によってもらったのだと思った。手術の後、そういう説明は受けなかったから。
205	ウイルス性C型肝炎とは言われましたが、原因についての説明はなく、ちんぷんかんぷんで、不思議な気持ちでした。
206	輸血をしたので、それによる肝炎だとだけ説明される。
207	産後入院してから現在までずっと、肝炎専門の医者に診察を受けていますが、なぜ私がC型肝炎になったのか、全然教えてもらえなかったのが、今でもとてもショックです。15年間輸血が原因だと思っていた。真実を先生は早くから知っていたと思うので、教えてもらいたかった。輸血に協力していただいた方々が、申し訳ないと心配して下さっていた。自分の血が悪かったのではないかと、申し訳ないと・・・。
208	肝炎に感染した原因が分からない状態で、ウイルスの数も多かったので、治療ができないと思った。
209	H18年血液内科受診の時、慢性C型肝炎と初めて知らされるれたその時点で、原因は告げられず、私自身も「どうして？」とただあ然。H19年12月医療機関よりS63年1月の外科手術でフィブリノゲン使用のため、検査を受けるよう案内が来たため、原因が分かった。
210	非A非Bと言われた時は、病気に対してほとんど理解しておらず、慢性化するかもという不安は少しありました。C型肝炎と断定された時は、ウイルスと一生付き合っていくんだなと思いました。
211	お産をした病院で肝炎が見つかり、医師から、「あー、やっぱり肝臓が悪くなったね」と言われました。
212	医師から親が説明を受けていたが、直接にはなかった。
213	肝機能が上がっているの、内科を紹介された。
214	肝炎の病気は自分のできる限り調べ、理解するようにした。
215	止血目的に使用された薬品ということで、使わなければ大変な事になっていた可能性ありと理解した。
216	7人兄弟で私だけなぜ肝炎になったんだろうと、不思議に思った病気のことが、だんだん理解できるようになり、完治するよう闘うしかないと考えた。最初は原因が分からなかった。
217	急性肝炎で入院し、症状があまり良くなかったもので、説明の内容は、はっきり覚えていない。
218	感染判明時は原因が不明だったので、多分、自分は長く生きられないだろうと思った。
219	HIV感染と異なり、C型肝炎ウイルスの感染経路を特定することができないとのことでした。薬害HIV感染が問題になったため、検査をするように通知がありました。
220	感染判明後、20年後には発病すると医師に言われ、現在に至っている。精神的被害が多い。
221	一生がとても苦痛であり不安。
222	出産時の多量出血のための輸血ではないが、血液成分の入った物を入れて止血しましたとだけの説明だったので、別に大したことはないと思った。
223	肝性脳症にまで至り、親族が遠方から最期のお別れの（つもりで）面会に来てくれました。生まれたばかりの第2子の育児もできず、無念で泣いてばかりいました。
224	放っておくと、15年、20年で肝硬変、肝臓ガンへと進行するので、早いうちにしっかり治療しておかなければならない病気であると。
225	生後7ヶ月の手術後、本人は知的障害者なので、よく理解できてないと思う。
226	10年後、肝硬変から肝臓ガンになります。インターフェロンという治療方法がありますが、40%の人しか完治しません。副作用も伴うし、高額です（80万円？）。



No.	問 題 1 肝炎が判明した時に医師から受けた説明（その他）
227	薬が原因で感染したと思うと、本当にやりきれなかった。でも、その薬がなければ、今の自分はここにいないかもしれないとも思い、複雑だった。治療の副作用や、ちゃんと回復するのも心配だった。
228	ウイルスは検出されなかったので、問題ないと言われたが、再発の危険がないかなど不安である。
229	当初は、貧血による輸血のためだと説明され、当時の輸血検査にC型がなかったためとされた。
230	医師、病院などからの説明はなかったが、輸血による肝炎問題が生じた時、バイパス手術の際に出血が多く、輸血による感染であったのだろうと思っていた。輸血量は800cc。フィブリノゲン製剤、血液凝固第IX因子製剤等が使用されていたなど、まったく判らなかつた。
231	インターフェロンの治療があると聞いたが、その時は実費で、かつ、必ず治るとは言えないとのことで躊躇した。
232	出産時の輸血が原因であろうと言われる。
233	肝炎という病気について、全く知識がなかったために、あまり気に留めていませんでした。
234	30～40年後に肝硬変になる可能性があると言われた。
235	C型肝炎ということだけで、それ以外の説明は何ら受けていない。
236	大量出血のため、輸血量がとても多かつたし、新鮮血でもあつたので、輸血時の感染とばかり思っていた。

問3-6 肝炎の感染原因が、血液製剤だったことを知った経緯—その他

No.	問3-6 肝炎の感染原因が、血液製剤だったことを知った経緯—その他
1	特別措置法により、ネットで調べて
2	母子手帳に記載されていた
3	母子手帳
4	病院の関係者から電話があった
5	医療行為を行った病院
6	娘
7	分娩のとき血液製剤投与を確認した。ミドリ十字の点滴瓶だったので、看護師に何の点滴が聞いたところ、フィブリノゲンと言われた。その1ヶ月後に発病したため、血液製剤が原因だと思った
8	新聞の一覧で自分が手術をした病院が掲載されていた
9	医療機関の院長先生からの封書をもらい初めて知った
10	病院へカルテ請求し確認
11	418名のリストにあったから
12	以前の病院からの連絡
13	当時入院した病院から連絡があった
14	肝炎の原因となった病院より連絡があった
15	病院から連絡があった
16	入院した病院に問い合わせをしたらカルテがなく、製薬会社の窓口を紹介されて判明した
17	主治医からのアドバイスにより調べてもらった
18	厚労省による418リスト
19	肝炎の治療をした病院からの通知
20	肝炎の原因となった病院の医療機関からのエイズ検査依頼
21	病院のカルテ
22	インターネットで調べた
23	病院より電話
24	親
25	テレビや新聞などですが、私が疑いを持った時点では、まだ訴訟は起きていませんでした
26	●●病院からの連絡
27	病院から
28	第2子を出産した時の母子手帳の記録
29	友人

No	借入-6 肝炎の原因が、血中から判ったことを知った経緯 - その他
30	病院からの投与の通知
31	出産した病院より通知
32	国の指示による検査時
33	主治医を変えたことで、報道されるより前に母子手帳に記入されていることを知りました
34	主人が薬の関係の仕事のため、少しは知識や情報があるので
35	自分で気付きドクターに聞いた
36	医師にカルテを調べさせた
37	ホームドクター
38	治療した病院に問い合わせてわかった
39	母子手帳
40	企業から病院を通して告げられた
41	薬剤関係の仕事をしている友人の助言
42	当時の病院からカルテを取り寄せた
43	大学病院から電話で
44	手術した病院から連絡
45	友人より病院に確認した方がよいと言われて
46	母子手帳に記入されていた言葉と名前により
47	産婦人科医院の医師
48	病院に問い合わせ調べたら、カルテが残っていた
49	母子手帳に記入されていた
50	自分で病院に電話してカルテの開示を求めた
51	病院から連絡がきた
52	出産した病院のカルテ
53	姉より
54	親から告げられた
55	通っている病院の薬剤師
56	友人より
57	薬害肝炎訴訟報告と相談会に出席し、話を聞く
58	母子手帳への輸血の記載
59	肝炎の原因となった病院の薬剤師
60	エイズ検査

No	問 6 肝炎の発生原因が、血液製剤だったことを知った経路（その他）
61	親から「これが原因ではないか」と言われ
62	病院からの通知
63	手術をしていただいた先生にききました
64	出産時の主治医
65	病院より書面で知らされた
66	肝炎患者の相談会に行った
67	友人から聞いて知った
68	母子手帳の記載
69	手術を受けた病院より連絡があった
70	●●●病院の医師
71	肝炎患者会
72	出産時の記録を見て
73	病院医事課よりカルテがありますと電話があった
74	418人リストに入っていた
75	病院に確認をした
76	急性肝炎になった時、医師よりフィブリノゲンを使ったと言われたのを記憶していた
77	病院から連絡がありました
78	入院した時のカルテを見てわかりました
79	母子手帳に記載されていた
80	416人のリストから
81	最初の病院より連絡をもらい、厚生労働省に問い合わせる
82	血液製剤使用時、医師より肝臓病になる恐れがあると告げられた
83	母が感染していたので
84	カルテ開示を請求し、カルテを見て知った
85	母子手帳
86	出産時に医師より説明を受けた
87	母子感染なので母から
88	産まれた病院からの連絡
89	産科の主治医からの通知によって
90	母の記憶と母子手帳
91	病院

No	情報-6 肝炎の発症原因が、血を採ったことを知った経路（その他）
92	後に手術をした病院に行って調べた
93	大学病院から通知書
94	手術をした病院の医事課の手紙
95	親より思い当たる節があると伝えられました
96	医療機関よりの案内
97	厚生労働省からの通知
98	母子手帳に記入あり
99	母子手帳に記入があった
100	産婦人科の先生に告げられました
101	家族の話から
102	病院より手紙がきた
103	病院からの通知
104	親から
105	病院より連絡があった
106	親
107	手術した病院に資料請求
108	薬害肝炎訴訟弁護団の方からの連絡
109	カルテの記載で
110	出産した病院
111	カルテを見て初めて知った
112	病院からの告知
113	病院からの連絡（事務室）があり、調査を行った

問3-7 肝炎の感染原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと—その他

No.	問3-7 肝炎の感染原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと—その他
1	生きるか死ぬかの出産だったので、仕方がないのではないのでしょうか。
2	自分は無症候キャリアなので、今のところ深刻には感じられない。不幸中の幸いだと思っている。しかし、重症な方もいるし、重大な問題だ。
3	陣痛促進剤と二重の薬害だと思った。
4	私は、急性前骨髄性白血病でした。出血を止めるための治療が必要だったので、その時は仕方なかったという思いと、別の病気になってしまったという複雑な思いがありました。
5	死の恐怖にさらされ20年。子供が成長した分、その年の年数だけ自分の命の不安が大きくなっていくことに、情けなさを感じて生きてきました。どうしてそんな血液製剤が使用されていたのか、また薬害事件なのかと。出産時に、自分の身体にウィルスが入っていたことがショックでした。
6	この薬により命を救われたという思いがあります。昭和51年の段階では、医療機関としてはやむを得なかったと思いますが……。国としての責任はあると思います。
7	硬膜下血腫血時の治療だったので、私にとってもその時は、痛いことも一切分からなかった。記憶や感覚は一切分からなかった。
8	その時は、自分は意識がなくなっていた時なので、もし血液製剤を使っていなければ、今の私はいませんでした。
9	命が助かった事に感謝しなければいけない。全ては運命と、長い間自分に言い聞かせて生活していた。フィブリノゲンが肝炎に汚染されていたとしても、止血剤として効果があったものと信じていた。アメリカで1977年に、有効性がないとして廃止されていたと知り驚いた。
10	国、都、病院関係者から、直に謝罪を受けたこともなく、一生を奪われた苦痛を、どこに向けていいのか分からない。金などいらないので、自分の人生を、経験するはずだったすべてを返してもらいたい。
11	複雑な思いのまま、すぐには結論が出せなかった。
12	国、製薬会社より死の宣告を受け、心身共に奈落の底へ突き落とされた。認可に携わった人達を恨み、殺してやりたい気持ちでいっぱいだった。
13	肝炎が血液製剤と知った平成20年1月も、現在の心臓内科に通院中でした。平成6年から現在の心臓内科で時々採血を受け、肝臓の数値が安定していると聞かされたものの、平成8年4月頃、医師が「HCV陽性で軽度の肝機能障害あり」と言われたことをふと思い出し、頭の中が混乱しました。「採血上安定している」と言う医師の言葉と、何と言っても自覚症状がないにもかかわらず、体の中では少しずつ進行していると感じました。もしかしたら、大変な状況になるかも知れないと、時間の経過とともに強く感じました。
14	止血剤にウィルスが混入していた事実を知りながら、使い続けていた厚労省、製薬会社に怒りを持ち続けています。
15	私自身が弱くて、肝炎になってしまい、家族に申し訳ないと、20年間ずっと思ってきました。又、義理の両親、義兄の家族にも、肩身の狭い思をしてきました。薬害と知った時、少しほっとしました。
16	後になって、これほど危険な血液製剤だと判明したが、私が手術を受けた当時は、それを使わなければ、死に至ったかも知れないので、それを考えると、とても複雑な思いです。
17	現場ではなく、国や厚労省に、製薬会社に対して怒りを感じました。
18	世界は中止していたにもかかわらず、日本は役人と製薬会社との癒着を強く感じた。
19	肝炎であることを知らずに、献血を年に一度していたことが辛い。
20	命を救うには、その方法しかなかった。医者は、当たり前のように行っていた。他人事のように見ていたテレビの内容が、まさか自分にもあてはまっているかも知れないという驚き。何で騒いでいるのか、理解できていなかった。
21	フィブリノゲンが低下したため使用したので、仕方がないと思う。でも、C型肝炎はいらなかった。
22	出産時に出血が止まらなくなってしまう、病院の先生方全員が集まって、あらゆる手段を尽くして下さいました。その時、あらゆる薬を使ったと言われ、それでも止血できずに手術されました。もし、血液製剤が肝炎の原因になると分かっていたとしても、その時お医者さんは、止血できるならその危険を冒してでも、まず止血しようとして、薬を使われたらと思う。ですから、お医者さんには全く恨みを感じていません。でも、そういう汚染された薬であることが分かっているが、売り続けた製薬会社は、患者と医療関係者両方を裏切ったと思いました。

No.	問3-7 肝炎の発症原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと-その他
23	輸血によって感染したと思っていたので、命を助けてもらったのだから、仕方がないと思っていたが、カルテによって、血液製剤が原因だったことが分かり、またショックを受けた。
24	結婚生活破綻の原因のひとつになっていると思います。
25	インターフェロンにより、ウイルスが消えています。現在は気持ちが落ち着いています。
26	38才からずっと、人に知られてはいけない病気を背負って生きてきました。その間いろいろな健康食品を飲み、病院には行かなくなりました。医者に、冷たい仕打ちを受けました。ステビアを飲み始めて、かなりよくなりました。
27	感染した時は、まだ危険性や生死に関わる問題とは思ってもみなかった。
28	当時は、命と引き換え状態だったので、仕方がないと思っていた。
29	私の場合、3,800ccもの輸血を受けましたので、止血のために使用したものでした。カルテを見ると、1回では止まらず、2、3、4回と、何時間かにわたり使ってあったことから、やはり止血にはあまり効かなかったのだと思います。7グラム使用してありました。
30	帝王切開だったので、その時には不信感はありませんでした。2年前に知らされて、あの苦しみは理由があったのだと、初めて分かりました。医師は、精一杯やって下さったのですから、仕方がないと思います。製薬会社ですね。
31	原因が判明したことで、気持ちが晴れた気もしました。
32	22年間ずっと出産時の輸血による感染だと思っていました。病気になったのは、天災のようなもので仕方がなかった。命があるだけでも感謝しなくてはいけなくて、己に言い聞かせてきましたが、事実が分かった時は、あまりの展開にめまいがしました。
33	初回の連絡が来た時、病院に来てよし、保健所でもよしと言われ、保健所にも行きましたが、国からの連絡は届いていませんでした。
34	現在は、治療中を除いては、日常は不自由なく生活できているが、やっと子供が手を離れて、パートに出られそうな時に判明したので、結局は働かず内職のみで、病気の事も隠しての生活だった。
35	危険な血液製剤という認識が、医療現場及び医者にあったのか、今でも疑問だが、当時医者からは、患者のためには使いやすいものだった、危険性の認識はなかったと説明を受けた。ならば、この血液製剤に危険があるかも・・・と認識していたのは、国、厚生省が一番情報があって知っていたと思う。危険性の重みを感じずに、阻止しなかった国の体質だろうと思う。被害が広がり残念。
36	私は、昭和59年まで3年程看護師をしていました。その当時、日常的にフィブリノゲン等の血液製剤を出血時に使用していました。私も何度か、あの小さなボトルを点滴台下げたと記憶しています。そして、手術後、輸血後、肝炎ということ、具合の悪くなる患者にも接していました。1987年に胎盤はく離で死産し、2週間入院した時に医師から言われたのは、「最近、肝炎になる人が多い。必ず検査を受けてね」ということでした。新鮮血の使用については説明がありましたが、血液製剤については何も説明はありませんでした。その時の医師の困惑した様子がずっと気になり、何だか違和感を覚えてしまいました。新鮮血では、そんなに肝炎にはならないのではと、ずっと疑問に思っていました。2002年にフィブリノゲンの件が明るみに出て、自分への使用を確信しました。2007年、出産した病院に電話をして、フィブリノゲン使用が判明しました。その時、もやもやしていたものが晴れた気がしました。同時に、製薬会社の責任感のなさに腹が立ちました。
37	羊膜はく離での出血で、当時は、医師もそれが一番の止血方法だと思ったので実施したことで、あまり被害者意識はなかった。
38	その時の状況がどうであったか分かりませんが、使用しなければ出血性ショックで、今はいなかったかも知れません。使用しなくても変わらなかったかも知れませんが、そうは思いたくありません。その当時のお医者さんも、そんなに大変な薬との認識が、なかったと思います。
39	家族は私と同じ血液型でした。出血時に連絡が入れば、血液製剤を使う必要はなかったのではないかと、今でも思っています。車で5分程度の産院でした。医療に関わる医師を中心とした方々の、対応を疑う思いです。
40	血液製剤の説明は、当時、「青森で起こった事件は非加熱だったから。現在のは加熱されているから大丈夫。早く退院したいでしょ」と、先生から言われました。ただそれだけの説明です。
41	頭の中が真っ白になった。
42	大量出血のため、止血目的ではやむを得なかったのか？本当に血液製剤が必要だったのか？悩み続けました。その後、フィブリノゲンがいかに安全確認されず、過去に多くの事例があったにもかかわらず、国、臨床、特にミドリ十字が、利益のためにもみ消していたと思うと、大変な怒りを覚える。「私の人生を返して」と毎日考え、今日に至っている。

No	問 7 肝炎の発症原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと-その他
43	産科の先生が血液製剤を使ったことを、一言も説明がなかった。母子手帳にも記さないし、一言説明がほしかった。私は418名の1人で、病院にもマスコミが行った。病院側では、患者に説明しているはずだと言いつつ、聞いていないのやりとり。私自身一番傷ついた。とても疲れた。
44	闘病生活、転職せざるを得なかった事、内定を取り消された事、キャリアを生かせる仕事に就けなかった事。今もインターフェロンの副作用による食生活に、苦勞している事。人生が大きく変えられた原因が、国の医療行政、製薬会社のもうけ主義にあったと思うと悔しいし、二度と薬害の起きない社会にしなくてはと思った。
45	自分自身をけがされた深い屈辱感に陥った。
46	血液製剤が原因だと分かるまでは、自分が悪いのかと思っていた。出血が多いのを止めるのは、これしかないと言われてそう思っていたので、分かるまでは仕方がないと、正直思うしかなかった。
47	当時は止血目的に使用されていたので、仕方がないのかとも思いましたが、製薬会社の実態を知るにつけ、これはとんでもない血液製剤で、製薬会社がもっと早く回収していたら、防ぐことができたものだった。
48	国に毒を盛られたと思った。
49	病気を治すべき病院、医療によって、健康を奪われたことを強く感じた。何故、危険な薬を使ったのか、怒りが湧きました。
50	肝炎で入院した時、医師からの説明はとても曖昧で、納得できませんでした。
51	入院時は意識がなく、手術方法は全く知らされず、分からなかった。
52	私が、血液製剤によってC型肝炎に感染した事を知ったのは、2002年の夏ごろでした。それまで15年の間、この病気に罹ったのは、死産でこの世に産み出してやれなかった子供からの罰を受けていると思っていました。それは大きな間違いであったことを知り、子供への申し訳なさや、いままで家族にかけてきた、取り返すことのできない負担を思い、憤りを感じました。
53	頭が真っ白、先が真っ黒。全てが終わったように思えた。原因が、フィブリノゲン製剤だと分かっていたので、何もできず、泣き寝入りせざるを得なかったのが、本当に悔しく辛かった。これからどうなるのか、非常に不安で苦しかった。
54	当時は、それで仕方がなかったのなかと、思っていました。でも、時が経つにつれ、いろいろな情報が入るにつれて、人的だったのでは、という思いも湧いてきました。元気だけが取り柄だったのに、体に変調もあり、不安でいっぱいです。
55	まだ、C型肝炎という病気が知れ渡っておらず、当時、夫の両親と同居しており、姑は、病気がちな私を、疫病神のように扱った。家を出て、離婚も考えたが、夫も一緒についてきてくれたので、大事には至らなかった。
56	手術の時に大量の出血があり、この状況を抜け出すには、当時としては、フィブリノゲンを使用する他に、手段がなかったと思うので、仕方がないことだと思うが、C型肝炎ウイルスに感染していると分かった時の絶望感は、言葉では言い表せられなかった。
57	当時は、この方法で治療するより仕方がなかったと思う。しかし、もう少し早い対策をしてほしかった。ただ、ただ、怒りを感じる。
58	病気が判明した当時は、出産時の状況から製剤を使用したことは、仕方がなかったことだと思って、感染したことは運が悪かった、むしろ、出産時にこのような自分だったことを自分で責めて、病気に対しても諦め感の方が強かった。
59	手術時に輸血もしているので、ずっと輸血による感染だと思っていた。止血剤が原因と知り、輸血に協力してくれた方々からの感染ではなかったことが分かったことが、嬉しかった。
60	私が肝炎になった事で味わった苦勞や苦痛は数えきれないほどあり、なぜ私かと、何度涙を流したことか分かりません。これは、経験した本人でないと、分からない事だと思います。しかし、夫や親からも大変お世話になり、言葉では言い尽くせないほど、感謝しているのも事実です。
61	離婚し、1人で生活保護を受けて、年金での生活をしている。
62	出産時の大量出血により、血液製剤と輸血が投与されました(DICのため)。C型肝炎は恐い病気ですが、当時を振り返ると、医師や看護師の方々が一生懸命治療して下さり、命を助けていただき、大変感謝しております。
63	C型肝炎が報道された頃、出産した病院に問い合わせたところ、フィブリノゲンは使用していないと返答された。慢性肝炎は非A非Bの後遺症と思われました。それから5年後に通知が来た時は、愕然としました。実父と同じ肝ガンで死ぬのか・・・と、恐ろしかったです。



No.	問 7-7 肝炎の原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと、その他
64	自分の命を守るためには、当時は仕方がない方法だったと思うが、安全面を検証しないまま認可されて使われた事には、怒りを感じる。
65	出産時、血液製剤を使用していなかったら、私は死んでいたと思う。
66	出産時帝王切開手術で、当時は輸血8本しましたから、原因はそれだと思い、血液製剤が使われていたとは夢にも思わなかった。2度の流産。やっと授かった子供と私が生死の境にあり、親子共々助かり、宝をいただいたが、一生共にする病気になる、憎むこともできず、娘を得た事は、自分の命より大切です。インターフェロンは2回やりましたが、効果はありませんでした。副作用がとても辛いです。又、3回目に挑戦したいと思っています。複雑な気持ちで一杯です。
67	他人事と思っていた薬害の被害者に、自分がなってしまったことに、ショックを受けました。
68	輸血後の肝炎だと思っていて、それで命が助かったのだから仕方がないと、前向きに治療などして生きてきたが、血液製剤が原因だった時は、非常にショックを受けた。
69	25才。出産時の出血により、止血剤としてフィブリノゲンを投与されたことで、私と家族の人生は、C型肝炎との闘いになってしまいました。薬害相談のホットラインへの電話により、フィブリノゲンの投与によるものと分かった時の驚き。いい加減な使われ方により、C型肝炎に感染させられた悔しさ、空しさ、憤りを感じ、涙があふれました。絶対に許せないと思いました。
70	当時は、命を助けてもらったと思い、医師にお金を渡す程感謝していた。後になり、大変な薬剤だったと知り、愕然としたが、何処へ怒りをぶつけたらいいのか。それよりも、将来への不安が大きかった。
71	この病気がもととなり、現在他の病気にかかり、そちらでも体力とお金がかかり、生活は大変であり、精神的にもまいっている。
72	院長先生は、命を助けてくれたのだから、それで十分幸せ。
73	危険な薬だと知らなかったので、止血のためには仕方なかった。血液製剤で助かったと思っていた。薬害だと知り、必要な薬だと知って、自分の健康、人生を奪われて、腹が立った。
74	血液製剤を使用する医師としての勉強というか、医療をする立場と、その薬を使用する人達の横のつながりがなく、お金儲けのための犠牲になったと感じた。もっと、1人1人が責任をもってほしかったです。
75	止血について、医師から告げられた時、血液製剤について何も知らなかった。出産時に出血が多かったと医師が判断し、使用したのであれば、必要な治療だったのだろうと思っていた。「沈黙を越えて」の資料を読み、他の治療方法があったことを知った。安易に使用してはいけない薬だったことを認識した。私も家族も、健康と時間を奪われたと感じることはあるが、インターフェロンの治療で精神的に安定したため、どちらとも言えない。
76	感染を知った時には、肝炎に対する知識がなかった。●●病院の先生からの説明に納得できず、●●●大の●●●●先生より、「肝炎に対する勉強をして下さい。自分の身体の状態をきちんと知り、肝炎と向き合ってください」と言われ、肝炎の本を2冊買い込み、大変な病気であることを知る。
77	私は、S55年頃の医療関係者が保護されている時代に、医療過誤の隠蔽との二重被害と分かり、そのような悪事が放任され続けていることで、公が信じられない思いでした。
78	出産時、子供に感染していないか、不安になった。
79	心臓の手術ができたおかげで、今生きておられます。手術をして下さった医師には感謝しておりますが、長い間感染原因が分からず、疑問に思っておりました。法律が施行されてから主治医より、手術の時にフィブリン糊を使用したとの便りががあり、やっぱりそうだったのかと納得しました。
80	病気もしたことがなかったのに、どうしてこんな病気になったんだろうと、情けなかった。
81	国の薬事行政に対する不信感、薬を使用した手術担当医の不勉強さを、強く感じました。
82	産後の止血に当たり前のように使われているのであれば、肝炎のリスクが伴うのも仕方がないことなのかと、簡単に考えていた。まさか、こんなにも恐ろしい病気になるとは。肝炎も一過性で消えると思っていた。
83	出産時、出血多量のため血液製剤を使用しなければ、今の私はなかったかも分かりません。それを思うと、助けてもらったという思いと、病気になったという思いで、複雑な心境です。
84	出血量が多く、輸血しないと命が危ないという時だったので、医師に対して感謝していただけない、仕方ないという気持ちもあった。長く肝炎治療をしていると、あの時使わなければ、こんな辛い経験をしなくてすんだのにと思った。

No.	問3-7 肝炎の発生原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと・その他
85	出血多量で●●病院へ行った時、当時の先生に、「体の中には半分しか血がない。1日遅れていたら死んでいたよ」と言われ、輸血。そして、フィブリノゲンを打たれた。C型肝炎という病に罹り、治療が続いています。病と闘いながら生きて、家族と一緒にいます。
86	どうして、危険な血液製剤を国が許したのか？
87	当時、医師に、輸血をしなかったら命に関わっていた（死んでいた）と言われた。
88	手術の時に多量の出血のおそれがあると予測し、手術前後安易に使われた。
89	C型肝炎という言葉聞くのもイヤだった。自分の胸の中にしまい込み、考えないようにした。しかし、フィブリノゲンという言葉が母子手帳に書いてあり、愕然とした。訴えてやと思った。
90	血液製剤のせいで、次女を1年間育てることができず、長女も他人様に預け、子供達には辛い思いをさせてしまった。私も入院中は大変辛かった。若かったので、主人とも気持ちを通じ合わなくなってしまった。治療費、生活費、子供の預け費、経済的にも大変で、借金もした。
91	1人1人かけがえのない生命のはずなのに、生命や健康を守るべき立場の国や企業から、私の健康、人生、そして家族の幸せを奪われました。私には、生きる価値すらないような扱いをされたのかと思いました。
92	血液製剤を使わなければ、失血死していた可能性もあったのではないかと思います。
93	どちらとも言えないと、そう感じたのは紙一重です。
94	出血多量だったそうですので、後で知りました。身体を害するものとは思いませんでした。フィブリノゲンがどういふものかも知りませんでした。
95	肝炎になって21年も経って、原因が血液製剤だと分かり、自分のこれまで苦しんできた21年間を、病気と縁のなかった21年前の元気な身体に戻してほしいと思った。
96	これから先の病気について考えると、常にガンの事が頭から離れません。一生の病気です。でも、子供を産んだことは、全然後悔していません。
97	当時は、まだ害があるかどうか解らなかつたのではないかと、自分で勝手に思っています。詳しい事は分かりませんが、私の場合は使用されたのがわりと早かつたのではないのでしょうか？止血に使われても、仕方がなかつたのか？
98	感染後、産科の医師より、たぶん原因はフィブリノゲンだろうと聞いていたので、運命と思って受け入れた。
99	今現在無症候で、普通に生活できていますので、あまり自分がC型肝炎だということを、いつも考えている訳ではないですが、風邪をこじらせたりした時など、肝臓の数値等・・・少し怖さがあります。
100	悪いと知りながら使用させた学者、役所、国は、多くの人を苦しめている。決して許さないと考えた。
101	出産時、出血量が多く（輸血1,600cc）、意識も朦朧としており、もう少し血液が届くのが遅ければ、死んでいたであろうと。当時は、「助けてもらった」「子供が抱ける」という思いが先で、当時としては仕方のない医療行為ではなかつたかと。
102	35年も病院から縁が切れず、悔しい思いでばかりで過ごしてきました。又、副作用で長年糖尿にかかり、現在もインスリンをしているが、C型が判明（血清→慢性→C型）してしばらくしたら、インターフェロンの投与（当時は保険適用外）も医師と何度も相談したが、糖尿があるためリスクが高いと考えられ、断念した。そして、肝硬変、肝細胞ガンとなり、薬、検査、糖尿による医療に、何の補助もなく現在に至る。インターフェロンには負担援助があるが、それ以上進むと、負担額が増すばかりで辛いです。
103	予防的に術前に使われたので（手術の出血は少量）、主治医による人災だと感じた。
104	当時、医師は最良の治療をして下さったと、本当に感謝している。ただ、無害の血液製剤ならもっと有り難かつた。
105	昭和43年手術を受け、フィブリノゲンを投与され、止血剤として使われた。名前すら知らない薬剤を使われ、これから自分の体がどんなになっていくのか、精神的に不安だった。他の人は元気なのに、治してもらはずの病気が、それ以上に悪くなっていくなんて、考えられなかつた。
106	健康だった私が、インターフェロン治療により、状態が良くなった。今現在においては、あの時にはそうせざるを得なかつた状況であろうと思いつつ、その時にしかもらえない娘との時間を過ごせなかつた事や、精神的にも肉体的にも、いつも不安で辛い状態であった事を思うと、二度とこのような薬害があつてはならないと思うし、カルテのない方が、1日も早く救済されることを強く望むと共に、和解のために関わって下さった関係者の方々に、深く感謝いたします。

No.	問 7 肝臓の病変原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと—その他
107	血液製剤が使用されなかったら、もしかして今生きていなかったかもしれない。
108	完治の見込みなしと思い、長い目で先生と仲良くしようと思っていました。
109	フィブリノゲンが危険な製品なのに、なぜ許可し続けたのか、厚労省の態度が分からない。
110	患者からの申し出があり、初めてカルテを開示するのではなく、危険な血液製剤が使われていた時期が判明した時点で、せめて、残っているカルテぐらいは調べて、病院側から患者に連絡をとるべきではないかと感じました。
111	今は普通の生活をしているので不安は感じないが、再発する可能性があるので、病気になる。
112	複雑です。投与されなければ命が危なかったでしょうし、さりとて、新生児を抱えて1ヶ月で母乳も出なくなり、育児も困難になり、将来が不安でしたから、何故この子を産んだのだろうと、あれこれ良からぬ事も考えました。
113	当初は詳しいことを知らず、国や製薬会社の無責任な皆さんの実態もよく知らず、どちらとも言えない気持ちもあったと思うが、危険な製剤だという報告を得ながら、なお、その後何年も使い続けていたということを知り、信じられない思いでいっぱいです。
114	詳しい検査の結果、治っていることが分かったので、不安が消えた。
115	事故の外傷の止血のための使用であり、それがなければ死んでいたかもしれないと思うと、仕方がない部分もあるのかなと思うが、加熱製剤もあった事を考えると、もう少し配慮があっても良かったのかなと思う。
116	私の命を助けるために、懸命に手術して下さいました先生に感謝しました。看護師の方もとても親切にしてくださいました。私の命と引き替えに、子供の命を失った悲しみは大きくて、体調をくずしました。自分の命を助けるために使用した薬で病気になるのは、先生にも分からないことで、責任はないと思います。他の人にうつさないことが、一番気掛かりでした。
117	私はもともと骨盤が狭く、帝王切開で産む予定だったにもかかわらず、血液が用意されていなくて、出血多量があった時点で、血液の手配を始めたため、その血液が届く間、止血剤を使用していたとのことで、ものすごく憤りを感じましたが、そういう原因を作ったのも私だが、結果的に命を救ったのも私だと、医者に言われました。
118	自分が何かしたせいで、感染したわけではないという点では安心した。
119	当時、外国では血液製剤は中止されていたのだから、医師が製剤使用前に告げてくれていたら、手術時の数ヶ月前、主人は肝硬変で急死しなかったと、それが残念に思う。又、私も快復後に献血などしなかったのにと、二次、三次感染につながったのではないかと、罪悪感を感じます。
120	血液製剤について、家族も本人も危険ではないかと医師に言うも、国産の製剤で、ミドリ十字だから問題ないと言われる。
121	30年前の事で何も知らなかったが、体調にかなり影響があり、会社での出張や勤務にかなり不利な点が多かったと思います。例えば出張、高度の労働など。
122	当初、輸血をした人の中でも、病気にかかる人とかからない人がいると言われ、体の弱い人がたまたまかかると思われていたので、原因がはっきりして、やはり私自身のせいではないことに、ほっとすると同時に、私がかかったことに怒りを覚えた。
123	今インターフェロン治療が終わり、体がすごく楽になった。これまでの何十年は何だったのかと思います。
124	インターフェロン治療を受けるために、休業しなければならず、この治療費と給与補償はないのかと思った。
125	病気を通じて感謝、思いやりなど、かけがえのない心の宝をいただいたので、私にとっては戦友のような感じですが。組織や人を恨む気持ちはありませんが、これも国との和解があつてのことだと思います。
126	あの時は、輸血しないと助からなかったもので、仕方がないと思います。
127	ショックな思いもありましたが、持病の治療のためになったということもあり、複雑な思いです。
128	25年以上前の事です。2人目にあたる担当医が、「手術輸血したら、なぜC型肝炎になるのかな？」と不思議に思っていたことは覚えています。命を助けてもらっていますし、治療のためですから仕方がないと思いました。ただ、治れればうれしいとは思っています。
129	20年以上治療に専念し、ガンも手術もしましたが、時間の大切さを強く感じます。自分の周りの者にも大変な苦労をかけてしまいました。

No	問6-7 肝炎の発生原因が血液製剤だったことを知る当時、感じたことその他
130	健康な体に戻りたいと思うばかり。生活費の助けになるようにもっと働きたいが、長時間の仕事ができないため、1日4～5時間で月に15～20日位。1ヶ月の給料は少ないけれど、治療費が要るから頑張って働いています。
131	29才から52才までずっとこの病気との付き合いで、突然血液製剤を使用したことを知り、ショックでした。何のために自分は生まれてきたのだろうと、泣いた日もありました。
132	なぜC型肝炎になったのか分からなかったが、テレビや新聞で見なかったら、一生分からなかっただろうなと思いました。
133	血液製剤を打って、出血が止まったかと言われると分からない。打たなかったら死んでいたのか？よく分からない。でも、国と医療関係者達は、危ないと分かっているが使用させたことは許せません。
134	たぶん、出産の時に感染したと思っていたので、やっぱりそうだったのかと思った。
135	危険製剤が何ら説明なく使用され、その説明がなされたのは16～17年経過した後のことだった。この事は絶対に許せないことです。だけと、治療は病院の世話にならなければならないと、複雑な心境です。
136	後半の人生を返してほしい。
137	毎回の検査の結果を聞くのが怖い。
138	緊急事態であったため、仕方ないと思っています。
139	心臓病で命は助けていただきましたが、非A非B型肝炎と医師に言われ、手術以来ずっと不安でした。仕事もままならず、自分の弟と共に自営業を細々と営業していますが、妻も家を出ました。離婚です。心臓は助かりましたが、肝臓による不安と恐怖で、現在も心配です。心臓と肝臓で、一生を奪われてしまいました。本当に残念です。
140	肝炎の症状があつて受診した時点では、C型肝炎のウイルスは検出されず、非A非B型肝炎として治療が始まり、S63年5月～H13年5月まで、C型肝炎としての治療等は受けず、内服薬と2ヶ月位に一度の血液検査を受けるだけでした（開業医）。クモ膜下出血の手術を受けた●●●●●病院から、血液検査を受けて下さいと書面での通知をもらい、検査を受けて、C型肝炎と診断された。やっぱりそうかという疑いは、決定的なものになりました。
141	その時は、自分の命を救ってもらったと喜んでました。何の説明もなく、今思えば色々症状がありましたが、無我夢中で生活してきました。義父母の看護から、送り出すまでの闘いも頑張りました。今は家族に支えられ、頑張っています。
142	帝王切開で全身麻酔から覚めてから、「出血がひどかった」と言われたので、その時の処置としては仕方ないと思っていたが、しなければ、違った人生が歩けたのにとの思いはあります。
143	肝炎を発症して9ヶ月入院しました。病気の説明を聞き、転院をお願いしましたが、断られました。
144	医師からは、輸血の中にウイルスがいたと聞いていたのに。
145	いろいろな病気ができて苦しんでいる。糖尿病、心臓、肝臓。
146	一律救済の前は、期限で切られそうだった。病院は、使ってはいけない時期に使用した。国と病院に殺されるかと思った。
147	私がこの病をもらってからは、特に実母に大きなダメージを与えてしまった。自分の病と母の病、子供を授かったのに、この病のために2人中絶することになった。その後、第2子を出産できたが、子供に感染するのではないかと、不安が続いた。
148	未熟児であったため、1日生きられるかも分からなかったと親から聞かされました。今生きていることに感謝しています。
149	無責任です。命の大切さをまったく分かっていない。
150	自分の身にかかった一生の問題だ。家庭の中で笑顔が消えて、体力がないと暗くなっている。気が付くと性格が変わったように思う。明るく過ごさないと、顔に人生が表れてくる気がする。
151	当時は治る可能性があったと思っていた。

No.	問もーア 肝炎の原因が血液製剤だったことを知った時、感じたことーその他
152	血液製剤とは何なのかさえも知らなかった。私の人生は、こんなはずじゃなかった。家族、特に子供達に大変な思いをさせた。発症した時は劇症肝炎で、一時は危篤になった。もしかしら私は、血液製剤とは何なのか、何で病気になったのかも知らないまま、死んでいったかもしれない。発症してからこれからの人生、常に病気との闘いになる。インターフェロン治療にしたって、何故自分の体を痛めつけて受けないといけないんだろう。こんな治療しかないのか。受けないと病気は進行する。そうしたら受けるしかないだろう。何故こんな思いをしなければならぬのかと思う。危険きわまりない血液製剤が、世の中に出回ったことが許せない。
153	何故、肝炎なんて病気にかかったのかとずっと思っていた。医師に問題があったのではと思ったこともあったので、真実を知りたいと思った。
154	子供は無事に生まれたので、それだけでも良かったと思ひ込むしかなかった。
155	持病により、いつも生死の境にいて、生きているのが不思議といった状態を経験したので、何があっても、そんなこともあるのだと思った。子供は43才の子供だったので、産院の方々は（何でまたそんな不注意で妊娠、と思われたかも知れませんが）、人為的な選択は、命に対してするつもりはなかった（自分も生かされているので）。授かった命には心より喜び、感謝していました。
156	生まれてくる子どもを亡くしたら、自分は生きているという価値はありません。こんな薬物は酷です。私の娘は今年23回忌です。
157	親や兄弟姉妹に、肝炎の病気は誰もいなかったのに、なぜ私は肝炎になったのかと思ひ続けていたので、その原因が分かって、なぜかホッとした。
158	昭和62年4月、子宮筋腫で、止血剤を1gずつ使ったのが、今に至っています。人間の血の数値が14→7（半分）になったので、フィブリノゲンを使った。
159	国と製薬会社の利害関係で、人の生命を奪う狂った人達だと思いました。不信感で、世の中がひっくり返ってしまいそうでした。目には目、歯には歯という言葉がぴったり合います。とんでもない！許せない！
160	病気になった本当の理由が分かった時は、ショックと同時に、今までの経過が納得できた。20年以上も経って事実を知るのには、時間が長すぎたと思う。もっと早く分かっていたら、違った人生を歩んでいたかも・・・。ちゃんと治療を受けて、自分の健康と真剣に向き合っていたと思う。
161	医療現場の医師、看護師の方々は、必死で私を助けてくれようと懸命でした。しかし、その現場に汚染された血液製剤が、止血効力もないのに止血剤として当たり前前に使用されていたことに、がく然とする。他国で使用中止の時に、日本でも中止してくれていたなら、私はこんな人生を送らなくてもよかったのにとすると、悔しくてしかたがない。
162	C型肝炎ウイルスに汚染された血液製剤を製造し続け、病院に売りさばっていた製薬会社に怒りを感じた。
163	2000年の現状として、肝炎はまだ周知されておらず、なめられている疾病だと強く感じた。
164	当時15才であり、薬害が憎いというよりも、病気の重大さ（深刻さ）に心を奪われ、薬害に対する思いは湧かなかった。
165	仕返しをしたいと思った。憎んだ。当時、出血多量で血液製剤を使用した産科医師が、「何で止まらないのか」と怒鳴っていた。製薬会社や厚生省（当時の天下り役員）の責任追及がされていない。国の責任ということで、曖昧にしているのは、今までに亡くなった方々に対して申し訳ないし、私としても許したくない。
166	当時は輸血感染だと思って、命が助かったのだから仕方がないと、自分を納得させていた。止血するために使われた血液製剤で感染したことは、納得できなかった。しかも、効果はなかった。
167	止血目的に使用されたにもかかわらず、結果として出血はおさまらず、輸血をした。止血効果もないものを使用され感染したこと。そして、その血液製剤が危険なものであったことを、テレビの報道で知り、大変悔しい思いをした。
168	自分自身が病気になる（病気を理解する）前は、肝炎問題や血液製剤について全く無知で、興味すらありませんでした。病名を聞いて病気を理解していく中、なぜ、私の体にウイルスを入れてしまったのか？防げなかったのだろうか？と疑問に思うようになりました。これからの長い人生、日本の薬事行政についても、もっと勉強したいです。
169	何も感じなかった。そんなに悩んでいない。
170	その当時、血液製剤を打っていなかったら、命があったか分からないと思う反面、その薬しかなかったのか・・・と思う気持ちが交錯しています。今自分のおかれている状況が、無症候性なので、そう思うのかもしれませんが。
171	色々な意見で大変だった。肝炎になった原因が初めて分かり、これが原因でこんな大変な事になったのかと感じ、製薬会社、病院に憤りを感じた。

No.	問6-7 肝炎の感染原因が血液製剤だったことを知った時、感じたこと、その他
172	当時、薬害肝炎訴訟の問題をテレビ等でやっていたので知っていましたが、病院に行ってみるとカルテはもうないと言われ、あきらめていました。しかし、再度病院に行くと相談してみると、医事課という所に、自分に投与したという記録が残っていて、感染原因が分かりました。
173	悔しかった。
174	現在、インターフェロン治療により、身体は良くなりました。でも、あの時医師が、家族や私に血液製剤の危険性など説明したとしても、命が助かる事が優先で、許可したと思います。
175	手術後1週間で悪寒、発熱、嘔吐があり、何がどう悪いのか全然分からない状態が、何ヶ月か続いた。
176	止血剤を5本打っても止血できなかったから、輸血をしたのでショックです。平成元年12月に止血剤を使用しましたが、その時には、使用したら肝炎になるのが完全に分かっていたのに、それでもなぜまた使用していたのか分からない。そのため、仕事もできないし、治療費もたくさんいるし、お金をどんどん使って勤めにも行けないし、経済的に家族に大変迷惑もかけ、とても肩身の狭い思いもたくさんしました。
177	当時（生後2日目）、生命に関わる手術で、成功率が半々だったのを必死に助けて下さった先生にはすごく感謝していて、病院側も国が使用禁止にしていれば使わなかったと思うので、病院に対しては、ただただ感謝しています。
178	山口さん、出田さん、福田衣里子さん達ががんばってくれたから、毎日テレビを見ていた。
179	お産の後体がおかしくなり、あちらこちらと病院を変えては調べてもらい、国立病院、最後には大学病院と何度も何度も入退院の繰り返し。その時は膠原病だと言われました。原因が分からない。輸血をしたからだと思い、先生にも何度も聞きました。納得がいかず、新聞で血液製剤の事を知りました。でも、どこで聞けばいいのかも分からず、何年もそのままでした。昨年、病院から電話をもらい、やっぱりと夫と2人で話しました。
180	投与後、子供を2人出産したので、子供に影響がないかととても不安。
181	自分の事より周りの人にうつしてしまっているのではと思いました。なったものは仕方がないので、受け止めるように努力しました。早く見つけられたのは、親と原告団の長い間の努力だと思い、感謝しました。
182	フィブリノゲンを使用されて30年経過して発病しましたが、最初はそれを使用しなければ出血多量で死んでいたからと、感謝していました。
183	当時は、生きるためには必要な処置だったのだろうと信じていましたので、仕方がないと思っていた。
184	S62年6月第3子出産時、止血目的に使われた。他に方法はなかったのか？今現在、インターフェロン治療をH21年6月より受けていますが、他の病気治療も一緒に行っていて、毎日体がだるく、これから先仕事に就けるのか不安です（年齢の事もある）。
185	出産後、出血が多く、すぐ気を失ってしまったので、当時のことはよく分かりません。
186	1986年以前の血液製剤にウィルスが混入しているのが分かっていたのに、繰り返される薬害。どれだけの人々が悲しい、辛い思いをしないといけないのでしょうか。とても残念で悔しくてなりません。
187	とても苦しく残念であり、限りある人生が悲しい。
188	私は正看護師です。第2子出産時、医師不在時に陣痛促進剤を（子宮口2横指開口の時点で）静脈ラインより側注され、激痛と共に出産し、子宮破裂しました。子宮は出産から1ヶ月目に（止血の可能性があると考えられ、温存目的で様子観察していましたが）全摘後、それまでずっと使用していたフィブリノゲンを投与されました。無念です。それから人生が大きく崩壊しました。
189	手術前から危険な状態であり、99%助かる見込みがないと言われたが、輸血により命を救われたと思い、その1ヶ月後に急性肝炎（非A非B型）になった時も、仕方がないと思った。その後C型肝炎となったが、薬害肝炎問題も自分とは関係がないと思うようにしていた。
190	多量の出血のための、やむを得ずの処置だったと思い、病院を恨んだりしていません。
191	輸血も同時に受けているので、いろいろ複雑です。
192	その時の私の出血状態から考えると、使用せざるを得なかったと思う。ただ、子供の感染は気になった。そして、私は今、子供の成長を見守っていける幸せを感じています。2人目を妊娠した時、出産してもいいと言われ、無事生まれました。医師が処置してくれたことは、良かったと思います。

No.	問題7 肝炎の感染原因が血液製剤だったことを知った時、感じたことその他
193	どうして20年以上たった今頃（2008年）、自分のC型肝炎の原因が分かったのか、どうして今まで知らされなかったのか、はっきりとした原因が分からないまま過ごした20年以上のやりきれない気持ちを思い出し、国や政策、製薬会社に対して、本当に腹が立った。
194	原因となる製剤があることを、知っていたにもかかわらず、その治療法を選択した自分を責めた。深夜で失血ショック状態で、判断能力がなかったとはいえ、悔しい。
195	C型肝炎の告知を受けた時、なぜ、このような病気になったのかが分からず、当時、信頼の置けるかかりつけの医師に、再度検査を受け、確認までした不安が、感染原因がはっきりしたことで少しは楽になりました。
196	必要なものとは思ったが、せめて、もう少し早く使用を中止してくれれば、私は肝炎にならなかったかもしれないと、原因を知った時は、しばらく落ち込みました。
197	そのような血液製剤が使われていることにショックを受けましたが、早い時期に病院からの知らせで検査を受け、肝炎になったことがわかり、不幸中の幸いと思いました。なったのはどうしようもない事実なので受け止めなければならぬし、隠せないで、本人に関わる人全てに話をしました。
198	体質が変わり、病気前にはなかった食物アレルギーがあり、食すると呼吸ができなくなることがある。すべて原因があるのでは？と考えてしまいます。

問3-9 肝炎感染後、経験したこと-その他

No.	問3-9 肝炎感染後、経験したこと-その他
1	この病気の事を隠さなければならないという気持ちが常にあり、周りに理解のある人はいても、一生背負っていかなければならない。いつ肝硬変に、肝癌になるか不安だが、悩んでいてもしょうがない毎日を、頑張ろうという気持ちもある。
2	長いこと治療していますが、あまり考え込んだことはありません。
3	配偶者以外に病気のことは話せないで、周囲は知らない。
4	仕事を選ぶ時。1日の仕事は体力的に辛いので、半日しか働けない。
5	感染後は病院の先生に「年2、3回は肝臓の検査を受けるように」と言われましたが、病院には、子供の友達の親など地域の人があります。私の事で子供がいじめられてはと思い、家で無理をせずに、ずっと検査をしていませんでした。
6	閉鎖的な町に住んでいるため、周囲には知られないようにしている。
7	両親の介護を長い間体験したが、その間疲れやすい身体をおして、やらなければいけない時が、一番辛かった。自分の身体を気にしないで生活ができれば、どんなに良かったかと思う。実母を施設に預けて、入院しなければいけなかった時は、非常に辛かった。
8	会社の仲間に薬害の話をしていたら、上司が、C型肝炎の人は調理師には絶対になれないなどと言われ、仲間にも「お～怖い」と言われた。娘が看護師をしているという女性だけが、話をよく聞いてくれました。それから、自分がC型肝炎だというのが嫌になりました。11月末に首になったので、会社にも行かなくなり、ちょうどよかったと思います。
9	病名を知られることについての不安があって、いつも心が安定しない。
10	歯医者に肝炎であるというと、嫌な態度をされた。
11	インターフェロン治療中は、家族の仲が悪くなったりした。意志の疎通ができなくなってしまった。
12	つとめて周囲には話さないようにしていた。身内には心配をかけるので、悟られないよう元気そうにしていた。協力は甘えになるので、理解されないのは当たり前と割り切っていたので、不満や苦痛の原因にはならなかった。子供には、申し訳ないと思う事がいっぱいあり、思い出すと涙が出る。
13	肩身の狭い思いで、毎日暮らしております。
14	主人は県外で仕事をしていたこともあり、又、病気をしたことのない彼にとっては、治療の苦しさは理解できません。
15	他の人に知られたら、仕事が続けられないので（肉体的な仕事のため）、隠さないといけない。誰にも病気のことは言えない。
16	肝炎に感染したために、出産ができない結果となったのが、非常に辛い日々だった。
17	生活に無理しないよう、心掛けている。
18	インターフェロン治療を遅らせたのは経済的理由ではなく、入院や家事、子育てができなくなる事など副作用の不安からです。
19	体力は同じ30才位の人よりはないと思う。おじさん達に、「まだ若いんだから大丈夫」と言われると辛い。
20	兄の見合いの時、私が肝炎であることを問題にされ、私が頑張っ元気になるうとしていても、世間の人にはもうダメな人間だとしか見ないのかと暗い気持ちになり、更に、兄で問題になるのなら、私の子供が結婚する時、母親である私が肝炎であることは、もっと問題になるのではないかと、自分が生き残って良かったのかと、悲しくなりました。
21	以前、ある歯科医院で肝炎の事を告げると、肝炎患者の人は来てほしくないと言われ、ショックでした。現在通院している歯科医院は、同じ事を告げても、快く治療していただいています。私は、人への感染を心配して告げたのに、初めの歯科医院には、大変驚きました。
22	歯科医で、診療を断られた（2軒）。
23	主人がC型活動型で、私からうつったと言っている。
24	近所（友人も）で嫌なうわさが出るのが怖いので、病気の事は話したことがない。そのため、通院している事も話せない辛さがあるし、具合が悪くても、本当の理由を言えない辛さもある。



No	問 9 C 肝炎感染、経過した事とその他
25	肝炎ではなく、他の原因で体調がすぐれなかったり、寝込むことはあります。
26	家族以外は、感染の事は秘密にしています。
27	以前経験した辛く情けない事は、思い出したくない・・・というのが本音です。
28	病名は家族以外には告げていない。
29	パートで一昨年まで看護師をしていましたが、職場の同僚には、C型肝炎は感染が弱いと分かっているけど、病気の事は話すことができませんでした（上司には、面接時に話しました）。隠しているという自分の気持ちの弱さや小ささがとても情けなく、なんだか申し訳なく、自信を失うこともありました。でも、同じ病気で明るく頑張っている方に出会ったりすると、私も前向きになることができました。しかし、周囲への感染予防に必要な以上に気を使ってしまう、疲れてしまうこともありました。肝炎患者は、不条理な劣等感を持って、日々生活していかなければいけないような気がします。
30	出産後1ヶ月で入院となりました。長女（2才）、長男（0.1才）を抱え、家族の身体的、精神的な負担は、想像を絶するものだったと思います。義母は疲労が重なり、大腸ガンでほぼ1年後に他界しました。私は、今でもその苦痛から、うつになることがあります。
31	病気の事は、なるべく人には知られたくないし、話さないようにしています。なぜなら、以前歯医者にて、とても嫌な思いをしたことがあるからです。まだまだ偏見はおおいにあります。
32	治療中、具合が悪いと、仕方なくタクシーを利用して病院に行ってしまう。結構タクシー代がかかる（往復）。
33	感染後、職場復帰。職員、知人、友人に病気の事を話し、いろいろ配慮してもらっていた。●●に転居し、インターフェロン治療後、就職活動。病院に看護助手として内定。後に病気の事を話したら、内定取り消しとなる。その後、他の病院に勤めることになったが、病気の事は、職場では話さないようにしてきた。退職してからは、意図的に話さないことはなくなった。
34	出産後に感染したのですが、当時は主人の理解がなく、家事、育児がとても辛かったけれど、誰にも相談できず、1人で耐えていたことを思い出すと、とてもお金で解決できる問題ではないと思う。
35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の嫌なうわさは聞いていないが、子供の友達の母親（看護師をしていた）に、自分の子供と私の子供とのつきあいを、遠ざけられたことがある（肝炎の話をしてから）</li> <li>・人との付き合いは好きなのだが、肝炎だと分かれば嫌がられるかもしれないと、肝炎の話ができない（過去の経験から）</li> </ul>
36	家事ができず、寝込む日が多く、小さい子供の面倒はみられず、離れ離れになり、実家に約1年子供を預けた。子供の学校の行事も不参加が多く、家族に大変な迷惑をかけた。そのことが、今も一番心苦しい。
37	両親が責任を感じている。国が責任をもって感じるべきだ。
38	動ける時に動きすぎて、その反動で動けなくなり、寝込んでしまい、周囲の人の理解がなく、仮病だと思われるのが辛かったです（子供の学校行事、運動会、学年レク、遠足、学芸会等）。
39	健康診断を受けたくないという経験がある。
40	朝、時々起きれないことがある。
41	三女1人だけが、ある程度肝炎を理解しているようです。
42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科医院で、歯の治療をするのに、問診表にC型肝炎の有無についての質問があり、正直に記入したら、治療を断られた</li> <li>・病院に入院した時、他の患者さんとは違う扱いを受けた。ばい菌扱いをされた感じです。</li> </ul>
43	当時の治療方法としては、横になって寝ているということが、一番と言われ、来る日も来る日も寝て過ごす毎日。足の筋肉が落ち、弱ったことが悔やまれる（遠距離、団体行動不可能）。
44	インターフェロン治療と訴訟するまで、以前の医師を探すので、タクシー代（体調不良のため）やらで、今でも借金があります。
45	出産時に感染して、内科で3ヶ月入院して治療を受けた。退院して、治療しながら子育てを行ったが、体が疲れて洗濯、掃除等、ひとつひとつの家事を休みながら行い、辛かった。そのうち、子供が動き回るようになり、子育てが大変だった。唯一の楽しみは、子供の昼寝の時間でした。だるくてだるくて仕方ありませんでしたが、H3年に、●●●大でインターフェロンを行い、完全には治りませんでしたが、それから体調がすごく楽になりました。

No.	問 6-9 肝炎発症後、感じたこと—その他
46	75才の義母、80才の義父、83才の義祖母を抱えているので、治療の成果をひたすら祈りました。主人と2人の子供（大学生）に辛くあたる日々があり、涙する毎日でした。現在もスマイリー10mg、セルシン2mg、デパス5mgは毎日服用しないと、不安です。
47	感染後、早い時期にインターフェロン（出産後4年後）を1回やり、2回目もやりましたので、結果は出ずとも、肝機能が落ちついています。日常生活は、仕事も健康な人と変わらないと思います。年とともに肝機能が下がっていくのかと、それがとても心配です。
48	38年＝私と家族がC型肝炎と闘ってきた年月です。そして家族には、心配と迷惑をかけた年月です。そして、これからもこの闘いは続くのです。健康を奪われた、仕事も続けられなくなった、この苦悩が分かりますか？
49	産後、急に自分の身体が宙を浮いたようになり、フラフラと、毎日がとても苦痛であった。原因が分かり、更に将来に対しての不安が広がった。しかし、全国原告団として活動することで、弁護士のサポート、原告団同志の結束に、どれだけ支えられてきたかを、今強く感じている。
50	医療関係者の人には、すすんで感染の事実を打ち明けているが、一度だけ、歯医者で露骨な差別を受けた。私以外の人には、かなりきついと思う。
51	家事に無関心だった夫が、よく手伝ってくれるようになった。
52	入院時、幼児を母親や姉たちに預かってもらって、養育してもらいました（0才）。他の家庭にもご迷惑をかけてしまい、一生の心残りとなってしまいました。
53	夫とは離別。肝炎が直接の原因とは思わないが、関係がないとするのはウソになります。表面に出せない、出されない中で苦しいものが多々ありました。夫の家族等の関係の中では、十分に理解を得られないまま、許されるような負い目を抱く付き合い、次第に疲れました。肝炎の事を世間は知らなかったから、子供に十分に接しきれない身体を、とても苦しみました。母親として、一番可愛い幼い時代に、身体が悪くてながめて過ごしたことは、今も悲しいことです。
54	心不全の持病がありますから、肝炎のみの症状とは言えないと思います。現在85才と高齢で、肝炎の進行も遅いと思いますので比較的安心してはいますが、鼻血が出たり下血したりすることがあって、その他血液に対しては、家族など介護する人に感染させないかと心配になる。
55	仕事に行きたくても、週に3回病院へ通院していると、仕事にも行けなくて苦痛だった。
56	母親は子供に寝姿を見せるものではないと頑張っていたが、仕事と家事に追われて、横にならずにはいられなかった。ダメな母親だと自分を責めていたように思う。健康ならば、もっと十分な事ができたと思うと悔しい。
57	仕事をしているので、自分の病気の事は、本当に親しい人以外には話していません。C型肝炎は、うつる病気だと思っている人もいます。
58	肝炎に対する国の対応が遅い（救済）。20年余りこの気で苦しみ、未だに治療費等の無料化、障害手帳交付等もなく、インターフェロンの効果もなく、肝臓で苦しんでいる人の救済を、早くお願いします。
59	肝炎と診断される前、家族に怠けていると思われることが、とても辛かったことですが、診断後は支えてもらったことも事実です。
60	私の周囲（友人）はちゃんと理解していて、協力してくれました。夫の両親には、病気になったことさえも責められました。理解するということが大切なので、みんなが理解することが大切だと思います。
61	疲れやすいのは勤勉でないからだど、自分自身でも思いこんでいたところがあり、後悔と反省が多かったです。肝炎と分かってから10数年後、離婚しましたが、私の体調も遠因だったと思います。
62	自分自身、わりとポジティブに考えようとしています。体がしんどいのは病気のためと、なるべく思わないようにして、他の楽しい事を考えようとしています。
63	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親戚と同席の時、遠回しで食事を別にされた。水炊きとか寿司等、とりばしに気を付けている。</li> <li>・肝炎後、すぐに糖尿にもなり、兄弟姉親戚等、周りに病人がいないので、怠け者とか言われた</li> <li>・30才過ぎで、周りに肝炎とか糖尿の人がいなかったため、よくいろんな意味で差別された</li> </ul>
64	3人の子供のうち、上の2人の出産時、妊娠中、出産後、感染について非常に気を使った。特に、長男妊娠時、インターフェロンの治療中で、出産すべきか迷った。地元を避け、両親の親しい姫路の産婦人科医に、場合によっては墮胎も考えて相談しに行ったら、「せっかく授かった命なので、片腕でも産んでやりなさい」と言われた。もう1人に相談しに行ったら、流産しかかって、そのまま姫路で入院し、強ミノの治療をしながら、出産までお世話になった。

No	問9 肝炎治療、経験したこと—その他
65	C型肝炎から現在肝臓癌になりました。輸血さえしなかったら、こんな病気にかからなかったのに。いくら思っても残念です。血管は細くなり、採血の度に検査針でつついても逃げてしまい、その度に3、4ヶ所をつつかれ、痛い思いをしています。すべてフィブリノゲンのせいです。このように苦しんでいる状態です。
66	子供が、出産時の出血でC型肝炎になったのは自分が原因だと、精神的に傷ついている。話題が出るたびに落ち込む。
67	同居の義理の父が、私より後にC型肝炎であることが判明した時、私から感染したのではないかと問われ、不愉快な思いをしました。
68	歯の治療をするのに、人に感染させてはいけないと思い、治療を我慢していたところ、もう手遅れ状態で、何本も歯を抜くことになってしまった。
69	体力に自信がないため、少しの体調不良でも過敏になり、「全般性不安障害」になり、現在も心療内科で治療中である。
70	今は24時間暇ですので、しんどい時は1日中寝ています。外出中に急に疲れて出るので困ります。
71	子供が私に、「自分が生まれなかったら、病気にならなかった」と言うことが何度かあり、「そんなことはない」と応えるのですが、負担に感じているのかと思うと辛い。
72	新しい生命保険に入れない。
73	子供を亡くしたことにより、体調不良になりました。今もまだそのための治療を受けており、年に2回のエコー検査、肝機能検査も受けていましたから、すぐに早期治療を受けることができ、悪化することのないように、年を重ねてこれたと思います。たくさんの人に支えていただいて、今があります。
74	主人が転勤族のため引っ越しを繰り返し、何人もの医師にかかりました。検査の結果が悪いと怒られたり、普通に生活していましたが、あなたは病人なんだから、普通の人がすることすらできないんだ、と言う人もいました。そんな中で、ある1人の先生と出会いました。検査結果に一喜一憂していると、医学の世界ってすごいんですよ。みんな寝る間も惜しんで研究しています、大丈夫です、絶対に治る薬ができますよと、いつも励ましてくれました。その言葉どおり、インターフェロンができました。
75	今まで3回治療を強要されましたが、その都度自分で健康管理をすると断り、もう30年が過ぎました。ウイルスと共に、食事、運動、生活を主体にしたボランティア活動を、これからも治療の一環として、していきたいと思っています。
76	たとえどのような症状があっても、生活、仕事を優先はしないと生活できなかった。また病名も、生活のため、家族以外に告げたことはない。
77	夫が感染してしまい、自責の念を感じます。
78	この病気の苦しさは、人には決して理解されないと思います。
79	病名は今では誰もが知っているのですが、自分が肝炎であると隠す必要がなくなったが、人からは見えない病気なので、怠けていると思われるのが辛かった。
80	退院後は体を休め、治療することに重さをおき、漢方薬を何年も飲み続けた。
81	病院に行くとき、うつる病気なので嫌がられないかと心配。近所の人に知られないかと心配。近所の病気に行くと、知っている人が「どこが悪いの」と聞かれるので、インターフェロンも1日おきに打ちに行っていましたが、ひと駅先の病院まで行ってました。
82	病気をしてから、特に健康管理について、人とよく話すようになりました。諸々の病気を持っている上に高齢ということもあって、家族がより気を付けてくれます。家族愛が増したといえますか、私を元気づけてくれているように思っています。苦しさはあるが、このような家族に支えられて、病と闘っております。
83	私の場合は、産後に急性肝炎を発病し、その後キャリアではあるが、肝炎としての症状は全くありませんでした。
84	医者から、いつも注意するように言われます。今後は安静にするように、あまり無理をしないように、GOT、GPTの検査を受けるようにと。とかく無理をしますと、体調不良と体全体が痒くなります。又、伝染を心配し、僕が妻との性生活を拒否したことが、離婚の遠因になりました。愛する人に感染させることはできません。肝炎発症時に、医者か看護師にsexはしないように言われました。当時はB型肝炎も疑われた記憶があります。
85	潔癖症の自分が「ほこりでは死なないから」と自分を納得させて、家事も手抜きばかりとなった。

No.	問 8-9 肝炎感染後、経験したこと—その他
86	自分の体調は、自分にしか分からないと思うので、体調の悪い時、気分の悪い時など、素直に聞いてもらいます。今は主人頼みです。よくしてくれます。
87	全て体調を基準において、行動を決めていくようにしているが、旅行、研修等出張の時など、きつく感じます。
88	58才で発症し、会社を退職せざるを得ず。収入がなく、医療費もなくなり、妻のわずかな給料で生活していましたが、親戚から借金をして医療費を作りました。この生活が22年続き、現在もわずかな年金で暮らしていますが、今度入院になれば、入院に余裕がありません。あきらめる以外にありませんね。
89	病院窓口で、C型肝炎の検査を頼んだ時、さっと席を去られた時にショックを受けた。
90	去年10月にインターフェロン治療で副作用が強く出て、体調が悪化して以来、私自身の心の内を全て家族（特に夫）にぶつけました。それ以来、家族皆が協力的に、私に接してくれるようになったと強く思います。自身の病と実母の介護、子育て、主人の仕事（大工）の手伝いを続けてきて、現在は精神的に疲れ、精神科治療も受けています。自立支援で週3回月、水、金各2時間ヘルパーさんに家事を助けてもらって生活しています。去年10月に主治医から、5年以内に肝硬変か肝がんになると言われていて、今は、少しでも楽な最後を迎えられるよう、願うばかりです。
91	子供に病気の事を話す時、治療を受ける話をする時が、すごく辛かった。今まで、病気の事を自分1人で抱え込み、胸の奥にいつもあったから、子供の成人と同時に、もう1人は結婚が決まり、その時に話したが、すごく辛かった。
92	急性肝炎にかかった時、同居する夫の両親に体調不良を理解してもらえず、怠けていると思われ、非常に辛かった。今は症状が落ち着いているので、このような事はありませんが、病気の事は、会社の人など他の人には知られないようにしている。
93	持病がありながら、色々身体のことを考えず働き過ぎ、やりすぎた。健康が普通の人の半分以下でも働ければ嬉しいし、動ければ嬉しいと思ってきたが、良かったのか悪かったのか。良い事もあり、悪い事もあり。身体には、酷使したことを心よりお詫びしている。これからは、精神的に考えるのではなく、身体と仲良くし、身体をいたわり、自分の中で調和のとれた生き方をしていきたいと思っています。
94	私は現在通院もしていません。今年6月まで●●●●に1人で住んでいましたが、別居（約15年）していた夫と生活をするに。家族間で話し合いの上、共に住むため●●●●に引っ越しましたが、夫の借金、住宅ローン、税金滞納等、自分の選択した今を後悔しています。治療に専念などできる状態ではありません。
95	家族に病気をうつしてはいけないという気持ちで、いつも不安な日常生活を送っていた。職場の健康診断で検査の数値を知るのが、怖くて仕方がなかった。生命保険にも入れず、生活の不安をいっぱい抱えての20年だったと思う。薬害が新聞、テレビで報道された後、自分の被害を知り、しばらく精神的に不安定になった。出産後、しばらく入院したことを知っている近所の人から、声を掛けられドキドキした。「うわさがたつかも知れない」と思い、あまり触れないようにしていた。仲の良い人に自分から話をした時、「やっぱりそうだったんだ」と声を掛けられた。報道の力のすごさにビックリ。遠く離れている学生時代の友達からも、心配した便りをいただいた。あの時の市民の反響はすごかったのだと、つくづく思う。
96	現在は、周囲の人々もカミングアウトしている。ただ、インターフェロンの副作用で、うつ状態が続行しており、治療中であり、非常に苦しい（家計的にも）。
97	肝炎感染時に6ヶ月入院。その期間に主人も病気になってしまい（精神的）、家族がバラバラになり、子供3人は夫の母と私の母にお願いして、みてもらいました。とても辛くて、どうしていいか分かりませんでした。
98	体がきつい時、食事の用意がづらいと出前を取る。何度か続くと家族のイヤな顔になる。がんばって作ろうと心では思うのだが、できない時、このイヤな思いはどこに捨てにいけばいいのか？と思う。
99	家族は健康なため、病人の気持ちは分からないので、具合が悪くても言わなくなった。
100	仕事を持っているが、治療のために休むことができず、辞めなければならないのか不安である。病気は会社の一部上司しか知らせていない。上司に迷惑がかりそうなので、不安である（医療関係の仕事）。
101	あまり目立った症状がないため、家族に理解、協力が得られず、怠けていると思われるなど、ずいぶん辛い思いをした。病気だと認めてもらえず、病院にも、治療費がかかるので行きづらかった。
102	肝炎対策として、ペグインターフェロンを収入に応じて1万、3万、5万円と治療費を助成していただき、皆様と国に感謝しています。この注射は副作用がひどく、勤務ができるか心配です。68才という高齢のためでしょうか、つらいです。でも、後3本頑張ります。
103	例えば、歯医者に行くにしても、わざわざ遠い病院に行ったりと苦勞した。C型肝炎と書くのが辛かった。

No.	問 6-9 肝炎に悩まされたことその他
104	当時、インターフェロンなどなかったため、治療で次々とお金がかかり、カードローンなど使用した。当時は主婦だったため、若い頃の貯金を崩しローンを払い、本当に苦しかった。両親がローンを払ってくれたが、体もしんどいお金も楽ではなく、本当に悲しい気持ちでいっぱいだった。
105	インターフェロンを受ける前は、GOT、GPT数値が上がってきて、少し倦怠感がありました。手術して10年は何も知らず、献血でC型肝炎と知らされてからも、GOT、GPTの数値は低く、医師からも様子を見ようということで10数年。強ミノとウルソで治療を続けてきました。その間は体調にあまり変化は感じられません。
106	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人に迷惑をかけないよう、公共の乗り物に乗っていません</li> <li>・具合が悪くなるのが怖いです</li> </ul>
107	周囲には、C型肝炎だということを知られないようにしているため、苦痛に思っている。
108	嫁ぎ先が農家のため、仕事をしなければ風当たりがきつく、体がだるくても無理して働くと、後が大変で、寝込む日が続き、大変な思いをしました。お産の時に死んだ方が良かったと、何度も思ったことがありました。でも、子供も成人式を迎えます。とてもうれしいです。
109	会社も事情を分かってもらえて、休みや勤務先も通院できるよう考慮してくれて、精神的にも負担が軽く、治療を続けることができ、仕事も続けて頑張ることができた。
110	もともと持病を持っていたので、肝炎が判明しても、生活に変化はなかったように思います。
111	何年か前に1人で病院まで行って、電車の中、タクシーの中で具合が悪くなり、大変な思いをしました。それからは、夫が仕事を休んで病院に連れて行ってくれます。月に1回、大きい病院。後は近くの病院で、週に3回点滴、注射をしてもらっております。家族に迷惑をかけています。
112	インターフェロン治療中は、仕事を半分にセーブして、家にこもりがちでした。感染が分かった当時は配偶者がいましたが、感染が分かってから、配偶者への感染の不安などから離婚しました。
113	日常生活には問題なく、検査入院10日程度を何度か経験。年に1～2回、定期的に体力低下で仕事不能となる。
114	なった人にしか分からない部分もあるが、まずは病気の事を受け止め、前向きに生きるようにしようと思いました。
115	医療従事者だったので、なおさら周りに気を使った。
116	私のまわりの人々は、みんな親切だったのを感じています。
117	半端な体調なので、いつも病気の事を気にして、思い切った行動ができない。そんな自分に割り切れなく、イライラすることが多く、ストレスになる。
118	周囲の人に病名が分からないようにしている。
119	肝炎と分かったのは10才の時で、子供でした。覚えていないというのが正直な話で、ただ、毎月病院へ行くのが辛かったし、いやだったことを覚えています。
120	医療職のため、病院全体で私を気遣っていただき、1年間休職扱いにまでしてくれて、感謝しています。やはり、職場環境がC型肝炎にとって最大のものであり、今後の仕事上の立場も気になる。
121	子供は脳性麻痺なので、横になっていることが多く、あまり苦痛は感じていない様子です。
122	昭和56年肝炎になり、退院後は色々な経験をしましたが、2、3年後から生活、食事に気をつけたので、症状はなくなりました。
123	一般の人はC型肝炎とB型肝炎の違いがよく分からない上、家庭内感染すると思っている人が多い。弁明するのも疲れるので、病名の事はあまり自分から言わないようにしている。
124	やはり、日常生活が不自由だ。
125	朝起きる時に、経済的な事、いつまで生きられるのか、いろいろ考えてうつになる時が多い。今は仕事をしていないので、怠けているみたいで・・・。

No	問 3-9 肝炎発症後、感じたこと-その他
126	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉体労働ができなくなった</li> <li>・思い切りスポーツができなくなった</li> <li>・食べ物を気にしなければならなくなった</li> <li>・いつ具合が悪くなるか分からないので、旅行などを避けるようになった</li> <li>・アルコールを我慢しなければならない</li> <li>・たくさん食べなくてもすぐに苦しくなるので（お腹がいっぱいになる）、食事会に行くのが苦痛になってきた</li> </ul>
127	<p>以前は、C型肝炎に感染していることを、隠す気持ちが働くことが多かったのですが、最近では、大々的に取りだたされるようになり、周囲の型のいたわりを感じるようになった。以前は、マイナス要素が強かったし、感染原因が明確化されていなかった。</p>
128	<p>治療中、治療後しばらくは、落ち込みやすかった。</p>
129	<p>生まれた直後に感染したので、具合が悪くても、肝炎と結びつけて考えたことがなかったので分からない。</p>
130	<p>インターフェロンを打つようになって、特に苦痛が多くなった。</p>
131	<p>誰にも知られたくないので、夫、子供にしかC型肝炎を伝えていない。</p>

問3-10-1 肝炎に感染していることを知った当時の気持ち—その他

No.	問3-10-1 肝炎に感染していることを知った当時の気持ち—その他
1	急性肝炎で即入院だったため、治療に専念した。
2	たまたま行った人間ドックで分かり、使用時から13年も経っていたので、こんなことがあるんだとびっくりしました。ただ、吐き気や倦怠感を感じる事が今までであったので、それが肝炎のせいだろうと分かり、少し気持ちが楽になりました。元白血病患者としては、まだ病院と縁が切れないんだなと思いました。
3	「退院しても、10年後、20年後に慢性になり、肝癌になっていきます。必ず年2、3回検査をして下さい」と病院の先生に言われました。このウィルスが身体にある以上、いつか身体の中で暴れだし、肝癌で死ぬんだと、目の前が真っ暗でした。辛かったのは、子供の年と自分の命の長さが、反比例していくことでした。子供には絶対に感染させてはいけないと、心に刻みました。世間にも絶対に知られないようにと思い、後ろ向きな心で、家の中は暗かったです。
4	現在、肝癌その他が急激なスピードで進行中であり、その治療を早急に確実にしてほしい。時間がないのである。
5	肝炎に対する知識が乏しかったから、本を読み勉強した。病院や肝炎の会などが主催する講演会にできるだけ参加した。一生抱える病と覚悟し、うまく付き合っていこうと、自分と家族に言い聞かせた。医学は日進月歩。いずれ良い治療薬ができると思った。
6	不安なので、マラソンをパタッとやめた。
7	息子が高1で、娘が5才（保育園）。借家住まい、貯金なし。働きたいのにできなくなるなど、お金のないのが辛かったです。入院している時、シーツに少し血液が付くと、見舞いに来てくれた人に感染すると思い、看護師に何度も取り換えてもらっていました。何故こんなことになったのか、原因が分からないから怖かった。ベッドの足元や頭の所に、「血液」と書いてあったので、血液の病気なのだと、何となく分かったためです。あの時の気持ちは、相当酷かったです。
8	いっそ、国が殺してくれた方がまだましだと思ったことは多々ある。それができないのなら、国民全体を肝炎に感染してもらい、国民全員でこの苦痛を分かち合えればと、考えたことも多々ある。
9	第2子出産後の発病だったため、途方に暮れた。あの当時のことは、もう思い出したくないほど辛いことだった。
10	被害を受けたショックよりも、この先この病気とどのように向き合って生きていくか、生まれたばかりの息子と家族にとって、何がベストなのか、しっかり考えなければという気持ちが、とても強かったように思います。もちろん、不安や恐れでいっぱいの時もありましたが、「負けたくない」「病気にも、弱い自分にも負けたくない」「病気では死なない、寿命で死ぬのだから」と、自分に言い聞かせていました。
11	インターフェロンを2度受けましたが、その時は元の体に戻ったかと思いますが、数年後に、又、数値が上がり治療。10年、20年と年数が長くなると、進行も早くなると言われました。今後、再発しないかと不安な日々を送っています。
12	・子供達が小さかったので、死んでいられないと思った。子供達を残して死ねない。 ・離婚した 肝炎を発生してからまる22年が過ぎ、当時の気持ちはきつこうだったと思う。
13	当時、医師からの十分な説明がなかったため、この先身体がどのように変化するのか、大変不安であり、毎日の生活も落ち込んでいました。家庭内が、暗くなっておりました。
14	結婚して子供ができてから、肝炎が分かったので、どうやって家族を養っていこうか悩んだ。
15	25才で出産して、当時の辛い気持ちが答えをはっきりできず、アンケートの回答の訂正が多くなってしまった。
16	産後の辛さは、自分がだらしないからだだと情けなかった。しかも、夢であった職場を去らなければならない程、体がだるかったのは、薬害、血液製剤であったと知った時は、無念の一言だった。
17	1日1日を無理しないようにセーブして生活してきたので、やり残した事がいっぱいあるように思う。やりたかった事、身体優先のため、あきらめた。子育ても精一杯できず、子供にとっても可哀相な思いをさせたことへの、責念の気持ちがずっと心に残っている。
18	当時、白血病だったので、更にC型肝炎になったことで、本当に生きて家に帰れるか不安になった。
19	あきらめ

16	問 6-10-1 肝炎に罹患していることに関する当時の気持ちとその他
20	出産時の出血で肝炎になってしまったため、その時生まれた子供が、「ママが病気になったのは私のせい？」と泣きそうな顔で聞いてきて、「違うよ。その時の治療のせいだから、〇〇ちゃんのせいじゃないよ。元気に育ってくれて嬉しいんだよ」と言って、抱きあって泣きました。その時私は、絶対に肝炎では死なない（死ねない）と思いました。肝炎が原因で死んだら、この子が自分のせいでママが死んだと自分を責めてしまう。絶対に、そんなことを思わせてはいけないと思いました。
21	C型肝炎になったことで、主人との関係が悪くなった。
22	平成22年1月には83才。高齢者ですが、あと2、3年は頑張りたいと思います。
23	肝臓癌で死ぬのは怖い。
24	肝炎と言われても、人事のような気持ちで聞いていたように思いますが、将来が不安になり、子供も産めないのではないかと、とても不安になったことを思い出しました。
25	肝炎を患った時期から、回復の方向に進んでいても、10年間は3ヶ月おきに肝機能検査を行ってきた。その後は6ヶ月おきになり、2000年からは1年おきに検査を行っている。検査結果を聞きに行くのが怖くて、不安がいっぱいである。
26	その当時は、それほど重大な病気とは思っておりませんでした。
27	病気と共に生きるだけ生きる。
28	4才で感染が分かり、子供には病気の説明はしてこなかった。ただ、自分の血液は自分で始末するようにとだけは、十分話してきた。歯ブラシ、針、カミソリ、鼻血など。中学1年の終わりから1年間治療し、以後、ウィルス(-)で経過が良く、部活動もできるようになってきた。本人は今のところ、深刻に考えていない。今は、受験勉強で余裕がないようです。
29	どうして！私が何かした？検査結果の宛て名を何度も確認したが、私の住所と名前に間違いなかった。主人はC型肝炎の知識が全くなく、勉強しようともしなかった。一緒に生活する上では、いろいろ意見の違いが出てきた。
30	子供を死産した後、その状況から自分が立ち直ることと、上の子供（2才）の世話で、ほとんど余裕がありませんでした。また2年後には、次の子供を出産しましたので、本当に多忙な日々だったと思います。私が肝炎で気持ちが沈んでしまったのは、平成9年。落ち着いていた血液検査の結果が悪化し、再度検査を受け、その際、C型肝炎と診断された時です。それまでは、「もしかしたら・・・」と思いながら、他の原因で一時的に肝機能が落ちただけだと、自分をごまかしていました。色々な情報で、C型肝炎は深刻な病気ということは知っていましたので、自分がそういう病気だということを受け入れるのが、とても辛かったです。又、平成元年に次の子供にも恵まれましたので、その子供に感染したのではないかと不安がありました。そのため、診断を受けた後は不眠気味となり、2年程神経内科を受診していました。その間は将来の不安で、絶望することもありました。若い頃、看護させていただいた肝ガンの患者さんが思い出されて、仕方がありませんでした。肝臓破裂で腹部に血液が溜まり、亡くなられた方。肝性脳症で、夜中に突然書道をしていた優しい患者さん。静脈瘤破裂で長期入院されていた方等、本当に壮絶な闘病でしたので、友人とは、「肝炎だけにはならないようにしないとね」と話していました。その方達と自分が重なり、自分から逃げ出したくなる時もありました。主人と相談し、子供には18才になったら（高校卒業）話して、検査を受けてもらおうということに決めました。そして、2008年2月、大学受験を終えた子供に話しました。葉害肝炎の原告の方々が、国と和解した直後でしたので、子供も、肝炎の事を少しは理解していたようで、泣きながら話を聞いてくれました。夏休みに検査をして、ウィルスは陰性ということが分かり、家族皆で喜びました。今は何かにつけ、相談に乗ってくれ、励ましてもってくれています。
31	取り敢えずは、母なし子にならなくて良かったと思いました。ただ、日が経つうちに、子供が歩くまで生きられるか、学校に入るまで・・・等々、常に死と隣り合わせでした。生きていたいと思いました。
32	肝炎のために、7ヶ月入院しました。死ぬに死ねない。子供達のことを思うと、入院中も泣いてばかりの日々でした。
33	当時、長女2才、生まれたばかりの子を残し、長期入院していました。今思い出だけでも辛いです。身内に大変迷惑をかけました。
34	発病以来約27年間、月1回の割合で通院、検査。薬は毎日飲んでおり、一時は肝硬変一歩手前と言われ、入院治療を勧められましたが、費用等の問題があり、食事療法とか漢方の針に通ったりして、何とかGOT等の値が100以下になり、現在も通院しております。
35	とてもショックで、希望がなくなり、死んでしまいたいと何度も思いました。しかし、2人の子供のために、20才までは必死でやってきました。今は、2人とも23才、28才になり、子供達の事は、少しホッとしています。
36	当時の国の責任者も同じ苦しみを味わってほしい。
37	肝硬変、肝ガンになって死んでしまうんだと、目の前が真っ黒になり、病気と闘う気力がなかったです。



No.	問3-10 肝炎に罹患していることを知った当時の気持ち—その他
38	知った当時の気持ちではなく、知ってから治療をして、ウイルスが検出されなくなった期間の中で、感じた気持ちで回答しました。知った当時だと、肝炎についての知識が少ないので、ここに挙げている気持ちのほとんどが、考えてはいませんでした。
39	肝炎の事は、まだよく分かっていなかったため、療養すれば治ると思っていました。ただ、子供が3才と小さかったので、外へ連れ出してやれず、不憫に思いました。当時は、肝炎という病気でも、人に話すことに後ろめたさは持っていませんでした。
40	見かけは元気そうに見えるので、「何故仕事ができない！」と家族に言われたりした。二度と治らないと知り、入院中から夫と不仲になり、自営業も廃業。それまでやっていた茶道教室、ピアノ教室も病気が治る保障もないのでやめたり、他にも着付け、華道もして、一部資格を取得しておりました。書道も、あと7年位で教室を開けるころまでできていたので、思い出すと、今でも悔しさが込み上げてきます。私達夫婦と子供の道も断たれた悔しさは、想像を超えます。夫とは、急性肝炎発症から1年で離婚しました。
41	出産して1ヶ月検診で、数値が上がっていることが分かり、即入院でした。絶対安静で、ベッドに横になっていることしかできなくて、ひとりて涙がこぼれていました。産科の病棟に入院したので、同じ病室の人達は、赤ちゃんにおっぱいをあげたり、うれしそうにしているのに、私はなんで？という気持ちでいっぱいでした。一番辛かったのは、母乳を飲ませてあげられないことで、母乳は出るのに、冷やしてわざと止めなくてはいけないことでした。主人、家族の人達、実家にも子供はお世話になり、迷惑をかけて申し訳なかったです。
42	肝炎と聞かされても恐ろしい病だとは、何も知らなかった。両親は血圧が高く、血圧の心配、又、伝染病として結核、エイズ、ハンセン病と、我が世代は聞かされていた。ずいぶん誤った伝え方を国民にし、大変な病気を引き起こしたということに、怒りを覚える。
43	感染当時は、よく病気について理解していなかったため、必ずみんながんになるのではと、落ち込んだ時もあった。
44	和解すれば、生活保護は打ち切られ、借金返済をして、残金がどのくらいあるのか不安であり、支援法が頼りである。
45	当時は、肝炎という病気がどんな病気なのか、詳しくは知らなかったと思う。とにかく、何とかして治りたいと思った。ただ、子供が小さかったので、子育てに夢中になり、生き甲斐にもなり、励みになりました。主人も理解があり、家事など助けてくれました。
46	出産後、1ヶ月目の出来事だったので、上の子供と3人で死にたくなりました。
47	病院を訴えようと思いました。
48	母子感染している可能性が強いので、その子供の今後の健康状態が気になる。子供にもその可能性があることや、検査を受けることが言えないでいる。
49	自分の体は大変な事になっていると、新聞、テレビ報道で知りました。どう動けばいいのか分からず、たまたま隣町に肝臓の専門の先生が赴任してきて、色々相談しました。1ヶ所では納得できず、隣の県に行き検査をして、同じ結果でしたので、近くで治療を始めようと決めました。子供も1才半でしたので手もかかり、自分の体の事が不安で一杯でした。インターフェロンも試験段階で、未知のものである(試験的にやっていた方もいました)。専門の先生がいた事は、とても心強かったです。何でも話をする事ができたこと、幸せに思います(今はご病気で亡くなりました)。
50	肝炎を初めて知った時は、この先どうなるのだろう?の気持ちでいっぱいでした。
51	肝炎に感染したと知って、本人はもちろん、周りの人(夫、夫の実家、親戚)全員から、もう死ぬのではないかと思われ、それからずっと、「体の弱い人」というレッテルを貼られている。自身は、肝臓の勉強をしたりして前向きに考え、生きてきました。周りの人々からの変な目線や考えに、何もかも嫌になったが、離婚をしても、自分1人では生きていけないと考えて、嫌いな人々の中において、耐えるだけの今までの人生でした。肝炎=耐えるです。
52	出産時に感染してしまった人は、自分の事だけではなく、子供の問題もあるので、精神的にも肉体的にも、とても大変だと思います。人生で一番幸せな時期が、一変して絶望的になるのですから、それを受け入れて前向きに生きていくには、本当に大変なことでした。ただ、私が一番恐れていたのは、その事の実質を子供が知り、罪悪感を持つことだけは、あってはならないと、いつでも明るく、息子を授かった喜びや幸せだけを話してきました。
53	どうしてこんなに体調の悪い毎日が続くのだろうか?どうしてこんな病気になってしまったのだろうか?自分が不摂生をして病気になったのなら仕方ないが、何も悪いこともしていないのにと、悩みました。この当時は、まだ治る病気だと思っていました。
54	出産後の突然の入院であり、慢性化すると治らないと医師に言われ、絶望した。
55	ガンにだけはなりたくなかったので、47才になったら死ぬつもりでした。そのつもりで、警察に調べられてもいいように、エコーに書いた。そうしたら、怒られた。今は笑い話だけれど、あの時は真剣だった。

No	問6-10-1 肝炎に感染していることになった当時の気持ちとその他
56	死んでしまいたいと思ったのは、IFNという辛い治療を受けたにもかかわらず、完治しなかった時です。生きていても、家族のお荷物になるだけではないかと考えました。
57	今から思うと、肝炎に対する知識が何もなく、無知そのものであった。
58	色々思い、表現できないくらいでした。幼い我が子の成長を確認するまでは死ねないとの思いと、自分自身の心は深い底のない沼に沈められたような、重いうつの時間が増えて、明るく振る舞うほど、孤独感でいっぱいでした。
59	感染から13年経過して告げられましたが（2000年）、高額な治療費と副作用が厳しい治療を、諦めなければならないことが悲しかった。週2～3回の強ミノの注射は、2年間続けたが、あまり効果はなく、血小板が減少した。病気に対する焦りと不安が、いつもつきまとい、何かでごまかしていたように思う。
60	肝炎になったことを考えてくよくよしても、仕方のない事ですし、できるだけ病気の事は考えないように、自分の身体をいたわりながら、毎日を過ごしていきたいと思っています。
61	早く治療して治してほしいと思った。
62	大変な病気になってしまったと、悩みに悩んだ。人に感染する病気という事と、5～10年で肝硬変になると本に書いてあり、恐ろしくなった。3人の子供をおいて死ぬことはできないと思ったが・・・。フィブリノゲンではないと思っていたし、ましてや、その事さえ知らずにいた。当時は、人に感染する病気イコール死と考えており、怖かったし、大変な病気になったと、どうしようと考えた。
63	出産直後に体調不良で入院。肝炎と診断され、半年近く入院。母乳を与えていたので、子供も肝臓の数値が高く、治療。2才の長男もいたが、家族バラバラな生活が始まる。病気の不安と同時に、精神的にもすごく落ち込み、周りの人々にも負担をかけ、申し訳なく思った。子供にも淋しい思いをさせ、この頃はとても辛かった。
64	全てが肝炎に振り回されているようだった。保存血1パックの輸血で感染したと思っていたので、ただウィルスが消えることだけを考え、ウィルスが消えたら、元の元気な体になると思っていた。小さかった子供達が、私の体調をいつも心配している姿が、余計に辛い気持ちだった。
65	生まれたばかりの娘を残し（2才の息子も）、2つの病院に入退院を繰り返しました。職場復帰するまで2年かかりました。36年前で、C型肝炎という病名もなく、慢性肝炎、非A非B型肝炎と言われていました。出産の際の輸血が原因だと思い、薬害である認識は全くありませんでした。思い出すのも辛い。思い出したくない何年間です。
66	まさか治らない病気だとは思わなかった。
67	感染していることを知った当時は、家事や子育てに一生懸命で、病気の事を詳しく知ろうとも思わなかったし、死に至る恐ろしい病気であるとは知りませんでした。病気になった本人の気持ちは、他人には分からないと思います。インターフェロンの副作用はとても辛かったけれど、その辛さも健康な人には分からないことです。家族のために、妻、母としてのやるべき事を毎日、時には無理もしたと思いますが、やって来られたかなと思います。
68	肝炎に感染しているのを知ったのは、22年も前のことで、記憶が多少ゆるくなっていた部分があったが、アンケートを書いていくうちに、いろいろ思い出して、書き直してしまいました。出産1ヶ月ちょっとで急性肝炎で入院となり、それから6～7ヶ月の長期入院！結婚して10年目で授かった娘とも1ヶ月で離ればなれで、毎日病院のベッドで泣いていたように思う。子供にお乳をあげた記憶もなければ、抱っこしたりおんぶしたりもしていない、悲しい母親であるというトラウマがある。
69	インターフェロンがどのくらい効くのか？この先の肝ガンへの心配、再発への心配。
70	肝硬変、肝ガンにもなったが、見た目がどこが悪いの？という感じです。軽い買い物袋ひとつ持って帰る時、その時は十分持たつつもりが、夜になると足がつり、死にものぐるいで、夜中によく悲鳴をあげているのが辛いです。10分位でおさまる時はいいのですが、痛み止めや湿布等をして、4～5時間つたままの時は、本当に死ぬ思いで辛いです。当時は、お酒も飲めない私が何で肝炎になったのかと、信じられない思いと同時に、幼子3人を育てながら、生活のため仕事と育児で忙しすぎて、医師から肝炎のことを聞き、どうしたらいいか死にたい気持ちになりました。体が思うようにはいかず、辛かったです。
71	まだ独身だったので子供のいる今とは違い、守るものがない上、仕事上死とは背中合わせだと感じることもあったので、病気になったこと、それにより死ぬかもしれないことなどへの恐れよりも、なぜ肝炎やエイズの恐れのある薬剤が安易に使われたのかということへの怒りの方が強かった。入院中の入院費も、なぜ、病院でうつった病気なのに私が負担するのか、納得がいかなかった。主治医はお見舞いの花を持ってきたが、ピントがはずれていると、腹が立った。主治医の上司は、血液製剤で感染したとは限らないとわざわざ言いに来て、私を怒らせた。24才の若い娘だからバカにしていると思った。父が医師ではなく、皆知らない人達ならば、訴えたかった。その病院の院長夫人は、「●●●●●●●●●●はきつい仕事だから、辞めるのも潮時でしょう」と言った。すべて忘れられません。父が医師で尊敬してきたので、日本の医療のお粗末さに初めて気付かされ、医療の質とは医療に携わる人、1人1人の人間としての質も問われていると思いました。

No.	問3-10 肝に感染していることを知らなかった当時の気持ち—その他
72	第1子出産後の1ヶ月健診採血で、急性肝炎が分かりすぐ入院。1ヶ月の子を親に頼み半月入院。いちおう数値は下がり(100台)退院したものの、疲れやすく、十分子供の世話ができなかったことが悔しかった。母乳から子供に感染するかもと言われすぐ中止。母乳で、健康な子供に育てたいという願いは断ち切られる。以後、強制的に母乳を止めたのが原因かどうか分からないが、乳腺症になり、平成19年には乳ガンが見つかり手術。抗ガン剤、放射線治療をし、今はホルモン剤服用。その副作用なのか不眠、ホットフラッシュ、気分の落ち込み、関節痛に悩まされる。今は肝炎の数値は一応落ち着いていますが、20年過ぎた頃から悪くなるとも聞きます。これからどうなるのか、乳ガンを含めとても不安に思い、日々生活しています。
73	手術を受け、その時に使用されたフィブリノゲン。20年経った今も病気の怖さから逃げられません。定期的に行う腹部エコーウィルス検査。病院と縁が切れません。肝臓ガンというレールの上に乗っています。インターフェロン治療と副作用と高額医療で、決心がつかない現状です。現在の医学で、安心して受けられる治療を望みます。薬害が繰り返されない国づくりと、インターフェロン治療費の助成額、期間について、前向きに進んでいただきたい。
74	当時はウルソの増減、強ミノと、数値が上がらないよう、治療に先生を信じて、時間ができると体を休めるよう心掛けて、運動量も減少させていました。
75	結婚後、初めて授かった第1子流産の際、DICを起こして、「命と引き替えの輸血です。肝炎発症の可能性はありますが、了承してもらえますね」と主治医に言われ、輸血して一命をとりとめました。その後肝機能が500〜と高い数値に。強ミノの点滴投与を受け続け正常値に。止めると1,000〜まで数値ははね上がり、又点滴・・・を何度も繰り返して、入院は7ヶ月に及びました。それまで、風邪など寝たら治る病気しか知らなかった私は、治らない病気を受け入れることができず、投げやりな気持ちになったこともありました。退院後も近くの病院へ通院し、点滴投与を続けましたが、数値は100より下がらず、医師に「治らない病気なんだから、この程度」と言われた時が、一番ショックでした。兵庫医大では「いくらでも治療方法がある」と言ってくれ、希望を持つことができました。そこで、以前通院していた病院で使われていた点滴が、ミノファーゲンではなく、ノイファーゲンであったため、肝機能がおさえられなかった事を知らされ、通院していた期間が無駄であったと悔やまれました。又、何度も確認したのに、「強ミノと一緒に」と断言し、ノイファーゲンを使用していた医師に対して、怒りさえ覚えました。
76	肝炎に感染したのは26年前。お産の(輸血)後1ヶ月後に黄疸と全身倦怠感の症状が出たので、産院で検診。GOT、GPTが2,000程度あり、劇症肝炎でした。その後3ヶ月近く入院。その時は肝炎の恐ろしさを全然理解していませんでした。その後、新聞やテレビ報道で、この病気の恐ろしさを知りました。近くの病院では、そのうちいい薬が出ますよと言う先生の話で、あまりこの病気の事は気にしていませんでした。
77	生まれて3年後にはもうC型肝炎(感染)だったので、普通の体力がどれくらいなのか分からないので、つい頑張ってしまう、後が疲れる。「もとの体を返してほしい」の、もとの体が私にはないので、辛く思うことがあります。ありました。
78	感染を告げられた時は、何故私が・・・? どうして? という気持ちで信じられませんでした。昨年の1月までは、自分は輸血による感染だと思い込んでいましたが、血液製剤による訴訟ならば、もしかして私もそうかと思い、駄目でもともとで手術した病院に行き、カルテが残っていたのでびっくりしました。
79	まだ働けていることに、感謝しています。病気のために、仕事をなくしたらどうしようと考えたことは多々ありますが、働かせていただけて感謝しています。埼玉にいたことがあります。歯科の先生に治療を断られた時は、悲しかったです。
80	私がインターフェロンを始めた頃は、3人に1人の割合でしか効果がないと言われました。でも、先生の「絶対に治る薬ができる」という言葉に、全く不安はありませんでした。1本目のインターフェロン後、あまりの苦しさに逃げ帰りたい気持ちでしたが、絶対に治ると言う言葉を信じて、乗り切ることができました。医者は技術だけではないと痛感しました。私は、その先生と出会えたことによって、勇気をもって病気と付き合うことができました。
81	残念で悔しい。命の短さに辛い思いである。毎日毎日どきどきして生きていくことの苦痛。国に人生をもぎ取られたと思った。子供に移植を願い出ましたが断られ、妹(本人)も苦しんでいた。子供との移植問題。互いに苦しむと思う。もう少し国の力がほしいと思います。死を待つだけです。医師からも話があり、子供も自分が原因であることを知っている。
82	最初に肝炎であると知った時は、子供を死産し、その上二度と子供の産めない体になり、そのことの方が私にとってはショックで、肝炎に感染していることなど、どうでもいい気持ちでした。
83	告知後、長い年月も経過し、もはや後期高齢者の仲間入りです。この上は、いずれの病にしろ、最後まで自力で歩けることを目標に、日々健康を心掛けた暮らしをしています。
84	病気のことでの相談相手は、感染してから1人もいない。自分の人生を、もとの体を返してほしい。
85	当時は、非A非Bという何だか分からない病気だということで、不安でしようがなかった。何をどう治療すればいいのか、どんな事に気を付ければいいのか。ただ、高カロリー、安静、点滴と言われ、本当にこんな事で治るのか分からなかった。

No	問6-10 肝炎に感染していることを知った当時の気持ち—その他
86	子供達、主人にC型肝炎が感染していないか、とても心配であった。
87	もう24年も前のことですが、当時はまだ若く結婚したばかりで、夫の給料も少なかったので、入院費や普通に通院しても、検査代もバカになりませんでした。インターフェロンも当時は保険が利かなかったので、1回3万円×週3回×月4回×6ヶ月のお金はなく、あきらめていました。保険が利くようになったと友人から聞き、平成13年に治療しました。医療費の自己負担の軽減や、所得によってですが、自己負担なしにしてほしいです。
88	これまで人に迷惑かけることなく、真面目に生きてきたのに、どうしてという思いでした。それと同時に、家族の誰でもなく、まだ自分でよかったと自分を納得させる思いでした。経済的不安もあり、すぐにインターフェロン治療など、考えることもできなかつた。
89	当時は死の恐怖（劇症肝炎）もありました。子供も小さく、母として妻として嫁として、何にも役に立てない自分を責めて、イライラする毎日でした。けれど、夫の優しさや子供の笑顔、周りの協力のお陰で、徐々に元気になりました。当時は、検査数値にも一喜一憂して、先の見えない治療に苛立ちもありました。誠意ある医師に出会うと、涙していました。
90	当初は自分自身が若かつたし、子育て真っ最中だったので、病気の数字のことよりも、必死で生きていたことだけを思う。
91	これまで18年間、とても疲れやすく、いつも体がだるく、家事も思うようにできず、自分で愈げ者だと思い込んでいたのは、そうではなく肝炎に感染していたせいだと思った。よく夫婦喧嘩もした。時間を返してほしい。
92	感染を知った時、肝炎から肝がんになると言われ、あと何年生きられるんだろうかと絶望したが、他の病院で天寿をまっとうされている方もおられますし、悪くなるまでに、まだC型肝炎が分かってから日が浅いので、良い薬ができるかもしれませんからねとっていただき、心が楽になりました。
93	C型肝炎になる前は、人との付き合いも億劫ではなかったが、インターフェロンを打ち治療し、なぜかそれから体力が落ち、元気に生活している方が羨ましかったです。お産の時に大量出血し、生命が助かっただけでもいいと思わなければと、当時は思い、頑張ってインターフェロン治療を続けました。毎回高熱が出てとてもつらかつたけれど、当時の会社と家族に支えられて、頑張れました。専業主婦だったら、治療できませんでした（高額）。
94	インターネットや本で病気の事を調べたりすると、つらい気持ちになった。自分には、「きたない血」が流れていると思って、落ち込むこともあった。1人目の出産の時の感染なので、2人目の子供に感染していたらという不安があった。
95	ここ数年肝炎の治療をしていないので、はっきりしたことは分かりませんが、気持ちはゆらいでいる。
96	心臓病と肝臓のダブルパンチで、本当に希望を失いました。妻との離婚もありました。自分が心臓病になったのが原因ですが、仕事も十分にできず、疲れるのです。そして体が痒い。医者からも十分注意するよう言われ、ビクビクハラハラの状態でした。現在も不安です。肝炎になった時、風呂の制限があり苦痛でした。肝臓で約1年程、心臓手術した病院に入院しました。入院中、展望が全くなくて、七転八倒でありました。医者から感染を伝えられた時は、本当に絶望的でした。心臓を助けられて、こんな事を言うのも申し訳ないのですが・・・。
97	当時、子供は中学生と高校生でした。ただ、子供のために何としても生きなければと思いました。
98	今は家族（特に主人）に守られて、頑張っています。感謝しています。
99	肝炎がある自分とない自分を比べることはできないので、現在の自分を丸ごと受け入れて、生きていこうと思っています。疲れたら休む。ただジーンとして休養することで少し元気がでてきたら、動き出すようにしています。自分の気持ちを上げることを大切に、モチベーションを下げるようなことは、考えないようにしている。
100	いくら完全に治ったとしても、身体の中にウィルスが100%いなくなるとは信じられません。現に今、医師はありませんと言われますが、数値が発症前より高いので不安です。
101	体調に変わりはないが、検査値は高値を示していて、自分の知らないところで病気がどんどん進んでいき、死んでしまうんだと思った。毎日、「自分があと数ヶ月の命しかない」という夢を見た。
102	今は心配してくれる主人がいて心強いが、1人になったら心細い。又、主人も体の不調がよくでるので、とても心配。
103	第1子を出産したばかりで、どうやって生きていって良いか、強く不安に思った。でも、やらなきゃいけないことがいっぱい、その気持ちが強かつた。
104	主治医から、放っておけば慢性肝炎、肝硬変、肝臓ガンと進行していく病気だと言われ、怖かつた。

No	問3-10-1 肝炎に悩んでいることを知った当時の気持ち—その他
105	私は白血病で亡くなった娘のドナーになるため、検査を受けました。検査の結果、医師から、「お母さんはC型肝炎に感染しているので、ドナーにはなれません」。とてもショックでした。その時は、自分の体より娘を助けてあげられない悔しさでいっぱいでした。つらい治療にも弱音をはかず、一生懸命生きようとした娘は、H19年1月3日21才で亡くなりました。悔しい。とても悔しいです。許せない。
106	生後すぐの子供を抱いて、毎日点滴に病院に通い、その時肝臓がすごく腫れていて、血液検査でもすごく上昇していて、よく歩いて帰れたと思った。どうして肝炎なのか、子供は何か健康に育てる事を一番に考え、自分の事は後回しになった。出産後に体調を崩したのかと考えたが、やはり、出産時にした点滴が頭にあった。病院へ何回か問い合わせた。苦痛を分かってもらえず、辛い日々を送った。1ヶ月検診の時、出産時の病院へ行った時に黄疸が出ていて、小児科の先生がびっくりして、産科の先生に相談に走って行った。ますます病院に不信感を抱いた。生活費、医療費と生活がきつい。
107	このまま病気が進行するのを待ちながら生活するのか？子育てはできるのか？不安でたまりませんでした。
108	とにかくショックだった。手術の1ヶ月後に肝炎を発症した。約3年間寝たり起きたりの生活だった。家族も大変だった。私も辛かった。
109	医師に、長生きしなかったら働きに出ずに、なるべくグータラしていなさいと言われていたので、子供達が小さかったので、無理をせず体調を気遣いながら、子供達が大きくなるのを見ようと思った。
110	色々な病歴があるので、質問にあてはまらないものがあります。1人の子供も失って、自分も肝炎になってしまって、何が言えますか。この質問は、原告にとって失礼です。
111	当時、入院は2ヶ月位と言われたが、4ヶ月過ぎても退院できず、生きて病院から出ることができるのかと不安だった。
112	出産時、胎盤剥離で、残念ながら子供は死産して、母親（私）も相当危険な状態だったと、聞かされておりました。その当時、肝炎の怖さは自分なりに知っていたつもりでしたが、ひきかえに命をいただいた事に対して、犠牲あっても命だったのかなと、仕方なく自分なりに納得しておりました。
113	肝炎と知り、医者からインターフェロンをしないと、後には肝硬変になり、その後は肝ガンに進行する」と言われた時には、絶望的な気持ちになり、「死」が常に頭から離れない日々でした。しばらくは誰にも言えず、泣くことしかできなかった。私なりに少しずつ本を読み、インターフェロンが全てではないと思うようになったり、この病気で仲良く生きていこうと思ったり、感情に波がありました。
114	とにかく将来の不安が大きく、いつまで生きられるのか、ガンになるのでは・・・と、いつも頭から離れない生活を送っていた。せめて、子供が成人するまでは生きたいと思うことが、生きる望みだったと思う。いつも検査数値に一喜一憂しながらの生活は、苦痛そのものでした。
115	運良く（？）急性肝炎で発症していることが分かりました。当時、長男（小学1年生）、二男（生後1ヶ月）と離れて、入院生活をしていました。その時の色々な心配。義母や実姉に子供達の面倒をみてもらっていたが、父親と子供達の関係も（嫉を厳しく言う人だったので）心配で、居ても立っても居られぬ状態でした。
116	まだ10代だったため、とても苦しかったです。
117	体もそうですが、心もボロボロになった時があります。みなさんもそうだと思います。何をしても元気がなければできません。子供の運動会には行けず、大人になった子供に「大人はうそつきだ。僕はそう思う」と言われ、返す言葉もなく。私も一生後悔して生きることとなりました。
118	死への恐怖。子供がまだ小さかったので、将来への不安。ただただ泣くことしかできなかった。
119	それまで病気をしたことがなく、健康な体に産んでもらった親に感謝していたが、一生付き合っていかなければならない病気になる、病気が進行してガンになるかも知れないと思うと不安で、親に申し訳ない気持ちだった。3人の子供のためにも治療をして、早く元気な身体を取り戻したいと思う反面、ほとんどが治らない病気と聞いて、悔しく不安な思いだった。
120	どっちみち死ぬのに・・・。一時は意欲がなくなったことを思い出した。
121	当時は子供を産んだばかりで、新米ママとして頑張るつもりが、退院後1ヶ月入院。肝炎の病気がどんな病気か知らず、すぐ帰宅できるものと思っていたが、数値がなかなか良くならず、子供にも会えず、何でこんなことになったのか、何度も暗くなってから泣いた。数ヶ月後、母が会いたいだろうと娘を連れてきてくれたが、この頃になると、うつる病気なのかも知れないと思い、すぐに娘を連れて帰ってもらった。久しぶりに見る娘は、キャリーバックいっぱい背が伸びていて、ビックリした。可愛い娘に何もしてやれず、とてもつらかった。
122	その当時は、体調が変化しなかったもので、特に感じなかった。ただ、病院に定期的に検査に行くのが、時間をとられるのでいやだった。

No.	問3-10-1 肝炎に感染していることを知った当時の気持ちをその他
123	知った当時は娘が高校1年生で、私立女子校ということで、お金もすごくかかっていました。又、仕事も忙しく、自分の事より、しなければならない事の方が多かったように思います。
124	C型肝炎だと言われてもピンとこない。今度は、病院で検査したら肝硬変。先生の話もよく聞こえず、何を言われているのかすら覚えていなくて、家に帰るまでボーッと怖くて眠ることができず、あっちこっちの病院の先生に話を聞いてもらい、やっと落ち着いた。C型肝炎の治療にインターフェロンがいいと病院に行ったけれど、私には無理だと言われた。だから、治療していません。
125	出産し、親となった喜びもつかの間、体調を崩し、5ヶ月の入院生活を送りました。主治医から告げられた病気の事。特効薬もなく、確実に寿命は10年位縮まるであろうとの説明に、泣き崩れた時のことは、今でも忘れられません。ベッドでの安静生活の中、考えるのは「どうして?なんで?これからどうなるの?」、そんな事ばかりでした。子供も抱けずに辛い日々でした。21年以上経っても昨日の事のように思い出される。思い出したくない出来事です。
126	なっていたんだなと思ったが、親が肝炎になっていない事は、すごく嬉しかった。不安で仕方がなかったですが、逆に、周りが厳しく、自分だけが不幸じゃないし、一番苦しいのは母だと思った。
127	本人が知的障害者のため、親の心配や動揺で、不安は感じていたようだが、質問のような細かな感情は特になかったと思う。
128	11年前の出来事で、現在は完治していますから、あてはまらない答えが多くなりました。家族や兄弟の協力も強く、私の性格が明るいのが幸いしたと思っています。
129	家族の協力がないと、肝炎とは闘えないですね。現在治療中です。
130	10才の時にどう感じていたか、正直覚えていません。ただ、自分の仕事(役目)として、病院で検査を受けていました。
131	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝炎になったのは悔しかったが、私には子供が3人いる。なんとかして、子育てをしなければならないという気持ちがあった。</li> <li>・話を聞いてくれる友がいたことが救いだった</li> </ul>
132	医療の進歩に大きく期待しています。インターフェロンもそのうち内服で済むようになれば、痛い思いをしなくても済む。
133	治療して治らなかった時、自分にもしもの時に、子供の事が心配だった。
134	感染者以外には、理解できないと思う。
135	初めての病院に行く時、問診票にC型肝炎と記入するのがいやだ。特に歯科、外科。
136	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2子、第3子をもう出産していたので、子供に感染していないか、とても不安だった</li> <li>・今後、病気が進行し、家族にどの位迷惑や心配をかけるか不安だった(体調や金銭面)。</li> </ul>
137	ウィルスが検出されなかったので、検査をした医師に、「もう完治していて、普通の人と変わらない」と言われたが、本当に再発する可能性がないのか不安だ。
138	できるだけ進行を遅らせて、少しでも長生きをしたい。子供もまだ結婚していないので。
139	肝炎に感染している疑いがあると知らされた時は、それほど深刻な病気であるとは思っていなかったのですが、黄疸が出たりして、苦痛な病気だと思いました。
140	大工という体を使う仕事をしていましたが、体を気づかうあまり、休みがちになってしまった。忙しくても体が思うように動かず、仕事ができなくなる不安でいっぱいでした。
141	自分が肝炎になるとは夢にも思わず、ショックで夜も眠れない日々が続きました。まして家族(嫁、孫達)に理解してもらえるのか、同居したばかりだったので不安で、今でも心配しています。

問3-10-2 最近数週間の気持ち—その他

No.	問3-10-2 最近数週間の気持ち—その他
1	職場の上司に、この病気の事を伝えてある人は何人かいるが、健康管理の担当の方が変わるたびに、知られてしまうのが辛い。誰も病気の事で「辞めた方が・・・」と言う人はいないが、本当にこの職場にいていいんだろうか？自分から辞めるといふのを、待っているんじゃないかと、時々不安を感じる時がある。
2	もう入院したりしたくない。元気で毎日過ごしたい。今、39才ですが、肝炎になって17年なので、進行していくことが怖いです。
3	今はGOT、GPTがいいので、少し安心している。年4回検査をしているのが苦痛。でも仕方がないですね。今は、検査しかないので、いつまでもGOT、GPTがいいように願います。
4	肝炎感染が判明した当時は、炎症の進行により、肝硬変、肝癌に移行するとしても、20年以上先の事だと思っていたが、既に27年が経過し、これから先どうなっていくのか心配です。エコー検査の度に、癌ができていないかドキドキしてしまう。身内に肝硬変から肝癌になって亡くなった人が3名いる。その亡くなり方を目にしてから、余計に心配である。医療従事者でも、肝炎について正しい知識が徹底していないと感じる。特に、歯科では必要以上に、医師への感染を恐れられている気がする。
5	会社勤めもなくなったので、今度は身体が悪くなったら安心して入院することにします。給付金を有り難うございます。とても嬉しいです。いただけるよう努力して下さった方々に、感謝しています。
6	告知直後から現在まで、放置し続けてきた国に対しての怒りに、変化があるはずがない。
7	インターフェロン治療後、ウイルスが検出されず、半年に1回程度の検査のため、今は前向きに病気と付きあっている。
8	インターフェロンの治療のお陰で治癒したため、現在は、あまり病気だという意識は持たなくなった。しかし、いつか再発するのではないかという不安は、いつも心の中にある。
9	来年、インターフェロン治療を予定しています。副作用、薬の効果等、とても不安です。ウイルスが1Aというデータが、あまりないのも不安の一つです。
10	子供達も成人し、これからは今まで私を育ててくれた母(81才)の世話をしなければならないので(今の事が分からない、物の区別、分別もつかなくなってきた)、死んではいけないが、内心は疲れる。前向きに生きようという気持ちは十分あるが、体力、気力が追いついていけない時もある。
11	何をしても根気がなくなり、長続きせず、飽きっぽくなってきた。人生の楽しみもなくなり、この先のことを考えると、何のために生きているのか・・・もう、嫌になってきた。もう終末だと考えることがあります。
12	和解金も、自分のためではなく、家族のためにとっておく。治療もしたいが、一度仕事を辞めなければならず、治療後の仕事のことが心配。又、治療しても完治するとは限らない。
13	現在は、ウイルスが検出されないが、今後のことには不安がある。
14	平成19年、夫は癌で亡くなりました。それまで、経済面で支えになってくれていたのですが、会社も左前になり、治療費とローンで途方にくれました。C型肝炎の症状で、経済力等何の役にも立たないと思っていましたが、私がやらなければと掃除パートをしていたら、少しずつ底力が出るようになりました。しかし、出費をまかなうことはできず、借り入れしてしまうことになりました。今は1人で、誰も支えになる人も特にいませんが、自己管理に努めていますが、不安がまったくないわけではありません。
15	弁護団、原告団の皆さんと励ましあいながら、気持ちを楽にできたと思う。治療の講演会などに参加でき、少しずつ希望と元気をいただけた。
16	現在はインターフェロン治療中でウイルスが消えているが、いつまた発症するかもしれないという不安はある。ただ、受ける前よりは、将来に希望が持てた。
17	疲れやすい、夜起きていられない。早く寝るわりには、疲れがとれない。自分がやろうと思った事が、疲れていてできないことがある。イライラする。このサイクルの悪循環で、ストレスがたまる。家族にあたってしまうことがある。そして落ち込む。最悪。
18	あきらめ

No	問6-10-2 最近3ヶ月間の気持ち—その他
19	3回のインターフェロン治療で、今は落ち着いているので、このままであってほしいと思っています。肝炎になったのが29才で、30代、40代という人生で充実した時期であるはずの時を、肝炎治療中心に過ごさなくてはならなかったのが、残念です。子供達の成長を心の支えに、頑張ってきたという感じです。ですから、インターフェロンでやっと落ち着いた体調が、このままであってほしいと切に思います。治療中、家族、特に子供に「ママが死んじゃったら」という、他の子のしない心配をさせたことが、可哀相でなりません。今現在は、家事もこなせているので、治療の大切さを感じます。でも、経過観察中で採血するたび、数値が気になる生活から抜けられないのは、負担に思います。
20	朝夕夜中と体温計を見るたび、今は良し、また熱かと弱気になってしまい、微熱が続き、朝目覚めた時は、今日も命を頂けたと感謝です。ここ1〜2ヶ月前より、腹部に水が溜まりはじめ、予約日外に、近くの医院に事情を話し、エコー、点滴を受けている。
21	私は1型と診断され、インターフェロンの治療も、高齢で難しいと医師から伝えられている。
22	仕事ができなくなったら、どうしたらいいのかわからない不安。
23	現在、インターフェロン治療中なので、身体的にはとても苦痛だが、希望を持っている。
24	最近送られてきた肝炎の本で、同じ時期にC型肝炎になってインターフェロン治療を受けた方の経験を読み、自分はインターフェロンは受けないという選択をして、まあまあ元気で生活も楽しく、親の介護を10年やり、子供を2人育ててこれて、幸せなのが分かった。治療の選択は、とても重要な事だと思いました。
25	H21. 5. 1より3回目のインターフェロンの治療中です。72週の予定ですが、白血球、血小板、好中球が減少し、ギリギリの状態での治療です。全身の倦怠感、かゆみがひどく、辛い治療の毎日です。
26	進行が進み、死を待つのみです。
27	第2子の男子が、ウィルスは発見できないが、体内で感染したことがあるということで、少し不安に思っている。
28	治療法の進展に希望を持ちながらも、同時に不安を抱えている日々です。
29	最近、肝臓が悪くなっているようで、糖が200位になってしまっていて、困っています。インターフェロンでは完治しないと聞きますので、私はやらずに死のうと思います。
30	今後の病気の進行具合がとても気になる。
31	最近になって、急に気持ちが変化するということはありません。1日として、肝炎の事を忘れて過ごす日はありませんが、一時期のように、思い詰めるということもなくなりました。私はウィルス量が多く、1b型と治りにくいタイプなので、来年行う予定のインターフェロン治療も、あまり期待しないようにと、医師に釘を刺されています。苦しい思いをして、治らなかった時のことを考えると、不安になりますが、チャレンジしてみようと考えています。
32	子供も大きくなりましたが、欲は続くもので、孫を見るまでは元気でいたいと思います。これからは段々悪くなる道を歩いていくでしょうから、少しずつ身の回りの整理も始めようと思っています。
33	インターフェロンの辛い治療を、今年の1月まで受けました。今はウィルスが検出されない状況ですが、患者会の人から、再発したとの情報も多々あり、私も再発することがあるのか？不安は尽きることがありません。
34	今は、完治目指して前向きに進もうという気持ちはあります。しかし、一度再燃しているため、不安はあります。
35	検査をするたびに数値が気になり、いつ肝硬変と言われるか不安である。いつも肩こり、腰の痛みがあり、マッサージや気功治療を受けている（年に3、4回）。保険適用になれば良いと思う。
36	非A非B型肝炎と知らされた時は、どのような病気かピンとこず、禁煙をして、酒は週に2回ビール小瓶と言われる、5年ほど辛抱しましたが、慢性肝炎と言われ禁酒。食事でも油脂類や塩分、その他肝臓に悪い物は食べないように指導され、今も不自由な生活をしております。
37	ペガシス、コペガスの治療中だが、ウィルスがなかなかマイナスにならない。1bの私は、効果がないのかと不安になる。肝硬変から肝ガンの治療をDVDで見たら、麻酔が効かないとか。10分間、地獄の苦しみを覚えてしまった。ガンが1つできれば、また次々にできるとかで、そういう話を聞くと、耐えられなくなり、不安になり、誰とも（友達）付き合いたくなくなり、死んでしまいたいと時々思います。20年も経ったので、とても不安です。



16	問3-10-2 最近の期間の気持ちとその他
38	16年前、1回目のインターフェロン。7年前2回目。インターフェロン+レボトール治療を受け、ウイルスがマイナスとなり、現在までマイナスが続いている。しかし、2回目は1回目と段違いに副作用が強く、76本で中止しました。特に、食物アレルギーが極度に悪くなり、何を食べてもいいのか分からず、ノイローゼ状態でした。●●時代の主治医が、アレルギーの専門医なので受診。カモガヤのアレルギーが血液検査で判明。食事指導を受け、アレルギー対応の食品を取り寄せ、●●のアレルギー専門医に体質改善と症状緩和の薬を処方してもらい、少し改善される。しかし、外食はできず、家で気をつけて調理したもので、アレルギー反応がでて、起きていられない時があり、勤務交替してもらうことも時々あり、良い方法かないかと探していた時、電位治療器の体験会にであい、40回通って、症状が今までより改善されたのを実感したので購入。自宅で1日1時間特殊電子療法(フットケア)を続けているうち、体力もついてきて、アレルギー症状も前よりずっとやわらいできて、少しずつ食べられる食品が増えた。漢方薬を飲むことも、少なくなりました。しかし、1日中食べる物に気を使う状態は続いていますし、特に、好きだった果物(りんご以外)は食べられず、甘い料理、菓子、佃煮等はいまだにダメで、ビート糖を使って、自分で調理したものでないとダメ。ウコン、あくの強いもの、血合いの多いもの等、量と回数を考えなくてはならず、レトルト食品、半製品、大豆油を使ったもの等、まだまだ気にしなくて良い生活にはほど遠いです。老後のことを考えて(施設では、複雑なアレルギー対応の食事は作れない)、自宅でヘルパーに来てもらい、私が大丈夫だと思える食材と調味料で作ってもらうしかないかなと、老人住宅を建てました。安保徹さんのアレルギーの考え方、自己免疫力の本を参考に、主治医は自分だ思うようになりました。しかし、肝炎にならなかつたら、こんなことにはならず済んだのにとの思いは、一生消えることはないだろうと思います。
39	肝炎に感染した当時の気持ちと今の気持ちに、ひらきがあると思う。感染当時はまだ若く、治療薬の開発の期待があり、まだまだ生きる意欲がありましたが、長年の経過により(23年)、自身の病状も一段と進み、「いよいよの時」を意識し始めて、絶望を感じることもあります。ただ、この事実を受け入れるしかないで、いろいろな感情があっても、前向きに生きていこうと思っています。相変わらず、家族には迷惑をかけていますが、そのことはずっと申し訳なく思っています。こんな薬害が二度と起こらないように、皆で知恵を出し合って、薬害防止に取り組んでいきたいと思っています。
40	C型肝炎のCMが気になるが、また毒を入れられるのではないかと不安。
41	今、インターフェロン投与中で、ウイルスは消えています。でも、インターフェロンを終えたら、またウイルスが復活するのではと、不安でいっぱいです。副作用もきつく、止めたいと思う時もあり、新薬ができるのを待っています。
42	今は数値も平均になりました。やはり、自分でインターフェロンとか治療に専念したので、治ったと思いますが、家族の協力なくしては、できませんでした。仕事を辞めたり、子供に迷惑をかけたりした結果です。
43	近年は、インターフェロン治療などで、ウイルスを排除できる薬が開発され、治る人が増えてきました。これからの薬のより向上によって、私も治るのではないかと、期待を持っています。甲状腺の異常、シェーグレン症候群をずっと患ってきました。それが原因で、今年目がぶどう膜炎に罹り、緑内障を発症してしまいました。失明の危険を伴う状態でしたので、内科医が慎重になり、インターフェロンの治療は、暫く見送るということになってしまいました。GOT、GPTの数値は良くなっているのですが、肝炎発症から22年の年月は、体に大きな負担を与えていると思います。
44	H21年4月から強力ミノファゲンを毎日打っています。今までも、数値が上がると強ミノを打ってきました。ウルソも服用した時期もありました。医者は、強ミノが効いていると言っています。金額もそうですが、毎日通院することは、仕事にも支障をきたし、仕事柄、人目を避けながらの治療は、非常に辛いです。かといって、インターフェロン療法をするには、仕事を辞めなければならない状況にあり、医者インターフェロンを勧められています。現実は無理です。もう、血管も見えなくなってきましたので、生活の保障がない限り、今の私には、インターフェロン治療はまだ「夢」です。
45	一度は感染して肝炎治療をしましたが、治療後は健康状態も良く、数年前までキャリアとして過ごしてきました。いつウイルスが活動を始めるのか、びくびくしながら生活してきました。幸いにして、ウイルスは現在マイナスですが、絶対大丈夫という保障はありません。これからもこのままウイルスがマイナスのままであるように折りながら、生きていきたいと思っています。
46	肝炎になって20数年。なかなか治らない病と知るにつけ、改めて肝炎の恐ろしさを感じる毎日です。
47	今回が3回目の治療となるが、過去2回のインターフェロンだけの治療と違い、薬に体が慣れて、楽になったのと違い、ひとつ副作用が軽くなったと思えば、別の病状が現れ、来年の8月一杯まで、このまま仕事は続けられなくなるのでは(時間も短いし、周りに助けられながらやっつけてはいるが)?と、いつもそういう思いになりながら、仕事をしている状態です。自分は治りたいので、この治療を頑張っているんだろう?と、自分に言い聞かせながらも、一方では落ち込んだり、精神的に不安定です。
48	嫁に、「うつつたら困るので、孫にキスとかしないで下さい」というような事を言われた。血液でしか感染しないというのを、もっと伝えてほしい。
49	インターフェロン治療をH8年に6ヶ月、H18年に5ヶ月受けました。現在はウイルスが消え、経過観察中です。
50	原告を守る国の責任上、支援法の内容が最も関心がある。

No	問3-10-2 最近1週間の気持も一応の他
51	感染時より良い医師に恵まれ、完全には治りませんが、いろいろ相談にのってもらい、インターフェロンの治療も3回受けることができました。主人にも、精神的にも経済的にも助けられています。やはり、肝臓専門医に診てもらったのが、一番安心だと思います。最新の情報も教えてもらったり、講演会なども聞いてもらっています。大変有り難いです。病気になってしまった以上、相談できる人がいることと、経済的な安心が一番の問題だと思います。
52	今の体調がずっと維持でき、生涯終わることが一番ですが、肝機能も年と共に低下する。それがどのような状態になるのか、すごい不安です。今は家族の心配もでき、安心していられますが、進行した時の自分は耐えられるだろうか、今は原告の人達とメールでお互いに話している。今は、先の事は考えずに、1日1日を大切にしています。
53	1年のインターフェロン治療を、今年6月に終了。ウィルスは残念ながら消えなかったが、落ち着いた現状が、この先ずっと続けばいいと思いつつも、やはりチャンスがあれば、ウィルスを完全に消したいと思っています。100%に近い完治のできる薬を作ってください。
54	最近、2回目のインターフェロンをいつ頃始めるかと悩んでいます。主治医には、患者自身に任せる（数値が悪くないため）と言われている。明日にでも始めたい気持ちだが、今現在の体力に戻るのには、投与の何倍もの月日がかかるので、それでためらっている。そのため、気持ちが落ち込んでいる。
55	今現在、インターフェロン治療で治癒したので、こういう回答が私にはできますが（問3-10-2）、現在も病気を抱えている方は、これから将来、病気を受け入れて、前向きに生きていくことになるのです。そう考えると、1日も早く、1人でも多くの方に治療を受けてもらい、治っていただきたいと思っています。
56	私の38年間を返して下さい。私の健康を返して下さい。肝がんの手術を2月に受けてからは、検査結果を聞くまでの気持ちは、以前とは全然違います。切羽詰まった状態で、後がありません。完治は考えられず、現状維持が最善の方法です。また「がん」ができていたらどうしようとか、死への恐怖がとても強くなっています。いろいろ考えて悩んでもしょうがない。精一杯生きようとするようにしています。そして、1週間に3回のミノファージェンの注射と薬を飲み、体力の回復に努めています。
57	完治のため、2度目のインターフェロン治療中です。期間が1年～一年半と長く、体調に波があり、しんどい時はくじけそうになります。ペグの注射を打つと具合が悪くなり、高い治療費を払って、何をしているんだろうと思う時があります。予約でも、病院はとても混んでいるし、毎週行くだけで疲れる。周囲の理解と協力がないと、治療を受ける事は難しいです。
58	なるようになる。
59	現在、3度目のインターフェロン治療（72週）の60週目で、ウィルスは16週目よりずっとマイナスのため、この治療でのウィルス排除に望みをかけています。主治医からも、今回は著効できると励ましてもらっているため、精神的には安定していますが、もし失敗であれば、かなり落ち込むと思われしますので、心境の変化は治療結果に左右されることを、付け加えたいと思います。
60	和解後より、国、企業に対する腹立たしさが強くなってきた。これから先の体調を考えると不安になる。何としても、治療費の無料化と健康手当のような支給の2点を、是非考えてほしい。
61	老いた親に対する、子としての責任を優先したい。一番必要な時期に、子供の父親との離別は、我が身から下ろしたくない荷物なのですが、そんな事情をおして、インターフェロン治療に入る事を強要されるかのような助成費のあり方には不満です。今の現状は、各自の努力や体力により異なるが、国の不備により、皆一様に感染させられたのですから、一様に被害者としての手帳を下さい。医療が何であろうと、肝炎のためのものならば、費用が無料になる配慮を、国で弁済していただきたいです。過ぎた苦しみの日は戻りませんが、せめて、自身が受けたい方法を、無料で選択させてもらいたい。
62	肝炎対策基本法が成立した。すべての方々に感謝したい。安心して治療に入れる日が、早く来ることを願います。
63	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターフェロンが効果のない人には、新薬の開発に力を入れてほしい</li> <li>・肝癌で苦しんでいる人の救済に、力を入れてほしい</li> <li>・障害手帳を交付してほしい</li> <li>・治療費の無料化を是非おねがいします</li> </ul>
64	病気の方は現在落ち着いているが、少しずつ進行しているようで、将来への不安が大きい。
65	弁護士の方をはじめ、多くの方が体の事を心配して下さったり、「一刻も早い治療を」と言ってお下さるし、自分でも分かっているのですが、目の前の家族（夫）が病気だと、自分の事は後回しになり、毎日しんどい中で、働くことさえまもなくなくなると、このまま死んでしまうのか、後に残った夫はどうなるのだろうか、肝ガンで亡くなった父の最後の姿が浮かび、不安で押し潰されそうになります。
66	インターフェロン治療中で、5ヶ月目に入ってから、抜け毛、皮膚の痒さなどの副作用が出てきて、かなり辛い日々があります。ウィルスは未検出（4ヶ月目）になったので、頑張らなければと思います。あと6ヶ月インターフェロンを受けるのは、かなりの気力と体力が必要です。

No	問10-2 最近1週間の気持ち（その他）
67	近頃は、肝炎とも長い付き合いになったし、年もとったので、これも運命だったのかなど、少しは思えるようになった。肝炎の完治は無理でも、これから先はうまく共生して生きて行こうと思う。「そのうち、すごい薬が発明されるかもしれないな〜」なんて、ちょっと気持ち的にも、穏やかになったりしている。
68	私の場合、治りにくい種類のC型だそうで、過去2回程治療をしましたが、マイナスになってもすぐにまたプラスになります。おまけに太っているので、ますます治りにくいらしいです。このまま同じ状態なのかなと思ったら、辛い時もあります。
69	インターフェロン治療をしてウィルスは消え、今もその状態は続いているが、疲れやすく、無理ができない。仕事も最低限の量（時間）でしている。本当は、働かずにいるのが良いのだろうけれど、収入と働くこと（社会生活への参加）は、私には必要だと思う。夫も定年間近で、老後の不安も増してきて、笑って日々を過ごせていないのが現状です。
70	目の病気を持っています。一度インターフェロン治療を受けましたが、眼圧が上がり、怖くなって24週で諦めました。今は強ミノを週2〜3回、ウルソ、グリチロンを服用しています。これから先も続けていくつもりですが、いろんな面で不安がないと言えはウソになります。
71	今は、あとどれくらいの命なのか、分かった時点で早く知りたい。そして、残された時を悔いのない日で終わりたいです。医学の進歩で、肝硬変など治せる薬が見つければいいのですが・・・。私にはインターフェロンもダメだし、いつ再発するか。それまでに良い治療が見つければ・・・。でも、あまり長生きすると、今後の治療費が払えなくなり、子供達に負担がかかるならば、早く死を待つ方がいいです。
72	インターフェロン以外に完治の方法はないのでしょうか。どの段階でインターフェロンを使用したらいいのか、副作用は？又、日常の食生活などで注意することなど、気軽に相談できる医療体制を確立してほしい。
73	C型肝炎から突然肝臓ガンと知らされ、どうとう来るべき時が来たのだと腹をくくりましたが、本心は、今後病気との闘いを思うと、全身の血が引く思いでした。私はまだインターフェロンを投与していません。副作用が怖いのです。沢山の副作用を考えると、治るより、自分の人生がここでまた狂わされてしまうのではないかと、すごく不安です。年齢から言うと、インターフェロンは30%の可能性があるとされています。もう一度話を聞き、来年度にインターフェロン投与と覚悟を決めました。
74	インターフェロン治療により、1年に一度の健診で良くなっている今の状態を感謝している現在において、不安がないわけではないが、知った時々の状況では、感じ方もだいぶ変化しているように思う。
75	治療病院も変わり、脾臓を摘出し、血小板を13万まで上げ、インターフェロンに入り16週目です。完全治療に向かって頑張っています。まだまだ分かりませんが、笑顔で楽しい生活ができることを祈っています。
76	12/7より入院し、インターフェロン治療を初めて行うことになりました。効くか効かないかより、今の状態で、落ち着いて仕事や家事ができる体に戻れるか不安。今より悪くならないことを望んでいます。
77	元の体を返してほしいと思っても、仕方がないこと。人生を狂わされたとも思ってみても、仕方がない。どの質問にもそう思います。11月に考えた時と、今日12月14日に考えた気持ちもそうですが、くよくよしていても仕方がないので、明るく前向きに生きようと思います。時にはしんどくて、起きあがるのが辛い時もありますが、誰も皆少しは苦しい事があるので？と思い、自分のできる事は（親の介護を含め）、やっといこうと思っています。伯父が亡くなり、伯母の事をみていたので、遅くなりました。
78	常に希望を持ち、あきらめずに治療に取り組んできたことが、完治につながったと思います。入院中に、昭和から平成に変わったので、闘病生活は20年に及んだのかと、今さらながら、よく頑張ったと思わずにいられません。ただ、主治医に「これ以降は大丈夫。でも、この時点までにスイッチが入ってしまったかもしれないので、経過観察はかかさずに」と言われ、完治したからと有頂天にならずに、油断することなく、経過観察を怠らないようにしようと、心に言い聞かせました。あと、主人に感染していないかと、主人が体調不良を訴えるたび、心配になります。
79	週2回のインターフェロン、強ミノの点滴は大変です。点滴後、ひどい寒気、微熱。やっとの思いで家路につきます。もちろん、家事一切できる状態ではありません。当日は、何もかも済ませて病院に出かけます。帰宅したらすぐに床に入ります。体の苦痛ばかりか、医療費も1回1万5千円。それに交通費と、何もかも大変です。
80	最初から闘ってこられた原告団の皆さまには、心から感謝しております。
81	医師から治療は移植しかないと言われてから、「まさか、こんなに早くそこまで」という思いと不安、迷いで毎日悩ましい日々です。
82	新しい生命保険に入れない。
83	幸いにして、インターフェロン治療でウィルスが消えたので、現在は肝臓に関しては心配していない。

No.	問 10-2 最近の自らの気持ち—その他
84	出産の翌日に肝炎の疑いがあると言われ、治療をし続けてもいっこうに良くならず、この子が3才になるまで、5才になるまで生きていられるのだろうか、毎日不安でした。自分の体調が悪いのは、もちろん辛いことでしたが、こんな体で主人や娘に苦勞をかけていることを思うと、胸が張り裂けそうな思いで、自分が押し潰されそうでした。金銭的な心配をせず、治療に専念できるよう、そして、心のケアもできるような体制が、整ってくれることを祈ります。
85	家族（子供）の協力が無い。姉2人とその子供達で妹（本人）をみているので、子供達に対し、腹立たしく思う。
86	いずれにしても、国民病という汚名返上。二度と被害が起こることのないよう、願うのみです。
87	現在、2度目のインターフェロン+レボトール治療中で、今のところウィルスは検出されずです。残す6ヶ月の治療を絶対に頑張って、もとの健康な体になりたいです。副作用が辛いですが、負けません。
88	元気なうちにしたいことをし、見たいものを見て、生きていこうと思う。先が見えない感じがする。将来がないように思う。
89	2009年10月1日から2回目（1回目はH7年）のインターフェロン治療を開始したところであるが、経過観察の検査で、私のウィルスはインターフェロンに抵抗性が強いかも知れないと主治医から聞かされた。一応1年半継続治療するつもりでいた方がいいとのことで、治癒の可能性は、約70%とも言われている。治癒の可能性にかけて、今後治療を続ける気持ちでいるものの、様々な副作用が見られる中で、治療期間最後までがんばれるかどうかという不安と、治癒しなかった時の失望を想像すると、複雑な気持ちで毎日を過ごしている。
90	将来、肝臓や肝硬変になるのではないかと不安に思っていますが、一応治療も終わり、ウィルスがなくなり、少し安堵しています。
91	週1回の休みは、通院のため、上司に都合をつけてもらい取っています。休日といっても、治療のためだけの休みで、自分の時間はなく、精神的ストレスが溜まります。仕事をせずにはおれず、元々弱いところを人に見せるのは嫌いな人間なので、無理にでも元気なふりをしていることに、疲れてしまうことがあります。肝炎だと保険に加入することも難しく、肝炎以外の病気にかかった時など、年齢的なことを思うと将来不安です。
92	病気の進行が病気になります。
93	現在は、身体がだるいのか、そうではない理由でしんどいのか、どちらも分からないので、もう気にしない。下半身マヒなので、現在両杖で歩行。
94	いつ肝硬変に進んでしまうのか、毎日気になります。恐ろしいです。
95	これからの病気の進行状態が心配です。C型肝炎が、風邪のように治る病気でも怖いのに、死ぬかも知れない恐ろしい病気をうつされたらと、思われているんじゃないかと思ってしまいます。病気が分かった時、主人にうつるんじゃないか心配だと言うと、主人は笑って、「うつるんやったら、もうとっくにうつってるやろ」と言ってくれました。知らずに過ごしてきた時期がありました。家族の誰にもうつっていないで幸いでした。C型肝炎について、国民の方々は、簡単にはうつらない病気だと知ってほしいです。私が言っていることはできないので、テレビなどで、広告のように説明を流してほしいです。
96	2～3年前より体調がすぐれなかったけれど、最近は旅行などに行き、いい気を取り入れようと努力しています。今のところウィルスは落ち着いています。またいつ出るか不安ですが、頑張っています。病院の先生は大丈夫とおっしゃいますが、こればかりは分からないと思います。
97	死は恐ろしい。自分から死を選ぶことはしたくない。病気になったからには、病気とうまく付き合っ前向きに努力するしかないと考え、諸々の病と闘っていく所存でございます。
98	不況により、自営業が大変なのですが（経済的）、十分に仕事ができないのと、体が十分ではないので、転職もできません。すぐ疲れます。心臓も弱ってきていますし、死んでしまいたいのですが、母が94才で存命中なので、子供として死ねません。体が弱いことが、本当に苦痛です。自分は労働するのが好きな人間なのです。
99	H20年10月～H21年3月までインターフェロンの治療を受けて、現在ウィルスは検出されない状態が続いていて、少し体力が戻ってきました。ただ、血小板は8万台で、10万を突破できないでいるのが、唯一気になることです。
100	治療のため、病院以外家で過ごすことが多いので、一時電話に出るのがイヤ、人に会うのがイヤ、もちろん外出もできなかった。友達からも遠ざかり、自分に自信がなくなってきたと思う。
101	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数値が悪くなっていないか気になります</li> <li>・ インターフェロン（リバビリン）をもう一度受ける時期が、近づいているように感じます</li> <li>・ 仕事の責任があるので、後継者として子供に仕事を継いでもらうことにした</li> </ul>
102	家庭内の生活の中で感染を考えると、大変気を使う。何かの拍子にに出血した時、キズ絆は何時もポケットに持って歩く。22年間1回も旅行に行くことができなかった。体力がなくていかれない。

No	問 3-10-2 最近の自問の気持ち—その他
103	私は感染がすぐ分かり、早期治療によって治したけれど、感染した時に抱いていた死の恐怖等の感情を、現在も持っている人達。私は体調不良はなかったけれど、普通に健康な生活を送れない人達がいるのは、けっこう辛いことです。
104	くよくよしないように心掛けている。
105	実母の病状が、最後の看とり段階になってきたが、自分の病状が悪化した場合の不安。1人親で1人娘である私は、最後までお世話して見送りたいと切に思う。私自身は、周りの家族やヘルパーさん、その他に助けられながら、楽しい時間を少しでも作るようにしているが、楽しむ時間の限りが少なくなった。このごろは、疲れや不安が重く悲しい。つらい検査や治療が怖い。死ぬことについては怖くない。少しでも子供の成長を見ていたい。
106	どれくらい病状がでたら、治療に入れればいいのか分からない。副作用等の事を聞くと、このままでいた方がいいのかと思う。
107	自分の体よりも、娘の事ばかりで頭がいっぱいです。まだ悔しい思いでいっぱいです。許せない思いでいっぱいです。
108	インターフェロン治療を受けることについて不安があるので、相談にのってくれるカウンセラーみたいな人がほしい。色々不安な事や疑問を解消したい。
109	インターフェロン治療を受けて、副作用に苦しんで、どうしてこんな辛い治療なのか。毎週熱がでて、食事がとれず細くなり、他人が見ると病人と分かり、電車の中でも避けられるように感じた。どのようにしたら副作用が軽くなるのか。運動を取り入れたり、食べ物を無理して食べるようにしたが、それで1年間続けたが、体力ギリギリまでしないとだめだと思った。ウィルスはとても強い。無理して元気なふりをしてきたが、体力的にも精神的にも本当に限界だった。
110	私もこの数年の間に、インターフェロン治療になると思うけれど、現在仕事をしており、副作用が心配で、なかなか受ける決心がつかない状態である。
111	とにかく体がだるい。食欲がない。病気とうまく付き合っていこうと、明るく笑顔でいようと思っ生活しているけれど、いろんな事を考えると不安でたまらなく、気持ちが落ち込んでしまう。その繰り返し。インターフェロンの治療を来年の夏から始めようと思う。けれど、副作用が体にどんな影響があるのか考えると辛い。ウィルスを排除するのが効かないタイプだ。体力的な不安もさることながら、精神的な苦痛の方が大きい。インターフェロンの治療を受けて、ウィルスが排除されたら完治すると言われていたが、治療を受けてみないと、治るか治らないか分からない。自分の体を痛めないといけない治療を受ける。何も知らない人に、治療を受けない人に、そんなに簡単に「治療を受けて完治する」なんて言ってほしくない。副作用が少ない治療法ができてほしいと、強く臨む。
112	精神と肉体と調和させて、生活していきたい。運動も徐々にできるようになりたいし、やっといこうと思っている。食事療法はますます進化させていきたい。生き方を自分が選択していこうと思っっています。
113	急性肝炎で入院してから、ついこのままで慢性肝炎だと思っ、定期的に血液検査をしていたのですが、この問題でテレビで大きく取り扱うようになって、主治医から、もっと詳しい検査をしたらと言われ、その結果が自然治癒で、いつの間にか治っていた事にとっても驚き、同時に喜びとホッとした気持ちがあり、とても信じられませんでした。他の人には本当に申し訳ないのですが、今は死の恐怖から解放された気持ちで、第2の人生だと思っ、大事に生きていこうと思っっています。
114	この質問は、完治している人には無意味です。人それぞれいろいろな人生を歩んでいきます。私も原告団ですが、過去を振り返っていません。
115	現在、ウィルスの検査では一で、肝機能の検査でも正常値なので、普通に生活しています。
116	弁護団の先生方、原告団、支援者に感謝しています。でも、まだ和解になっていない原告もおりますので、1日も早く和解ができるようにして下さい。法案は皆の努力でできましたが、どんな内容かは、まだこれからだと思いますので、原告団の1人として、今後もできる事に参加させて下さい。私は、自身の足元を、またつくり直します。正直な気持ち、つらいです。
117	薬害肝炎と知ってから、精密検査を受けたら、肝硬変に進行していることが分かり、ショックで涙が止まらなかった。運良く大学病院で治験を受けることになり、現在も治療中である。何もしないでただガンを待つよりも、何かによがって、少しでも生命を長らえたいという気持ちでいっぱいです。検査結果にドキドキしながら、本当にウィルスがなくなるのか、不安の中での生活です。通院のたびに主人は仕事を休み、家族に迷惑をかけていることが負担になる。これからの生活も不安がいっぱいだが、いろんな人に支えられていることに感謝しながら、前向きに行くことでしか、希望が持てないのがつらい。早くこの病気が治る治療が見つかることを、常に願っっている。
118	最近、ガンらしき影が発見のため不安です。今度の診察で説明がある。
119	現在はウィルスは一なので、肝臓のことでクヨクヨすることはありません。うつ症状に伴う身体的疲労がしんどいです(服薬も含めて)。

No	問10-2 最近数週間の気持とその他
120	今でこそ落ち着いて人生を考えられる。月日が流れたせい？私のような人が、こんなにも多くいらした現実を目の当たりにして、他の人もがんばっているのだから、私もがんばれるところまで。この目で見られる、この手の届く大切な人のために、笑顔でやしさがんばろうと思います。
121	ペグイントロンとレペトール併用療法を受け、55週目。治療がこれほど辛いとは思っていなかった。白血球、血色素ともに減少。6ヶ月頃から甲状腺の機能低下と更進を繰り返している。もし再発したとしても、もう治療はしたくない。治療する前の方が、体は悪くても今よりは動けた。
122	副作用が心配だが、治療をして、これから残された時間を前向きに生きていきたいと思う。
123	現在は、完治と言われているが、果たして本当なのか・・・と思う。将来、私が年をとり弱っていくと、又、肝臓が悪くなるんじゃないかと思っている。この病気が本当に完治していたかは、私が死ぬ時にはじめて分かるのではと思っている。
124	インターフェロンは7月で1年間の治療が終了しました。先日、6ヶ月目の検査で検出せずの結果が出て、ほっとしています。まだ3ヶ月に3本検査に行くのは、やはりイヤですね。毎月の検査、毎週の病院通いから解放されたのは救いですね。
125	こんなに苦しい病があるということを知りました。まるで、ボディブローみたいに後で効いてきます。
126	インターフェロン治療は終わったけれど（1年）、味覚障害で味が分からなくなるとは思わなかったので、治療前においしいものをお腹いっぱい食べておけば良かった。味が戻るのには、たぶん来年2月から3月頃までかかるだろうと言われている。夏もずっと1年中皮膚の乾燥、あかぎれ、ひび割れ、薬、クリーム、リパテープを手放せない。筋肉のこわばりもあるけれど（リウマチ）、食べ物がおいしくない方が辛い。
127	複数の持病があるためいろいろな制約を受け入れ、生きてきましたが、C型肝炎という病気がまたひとつ増え、心身共に疲弊した感があります。これから先、何年自分で動くことができるか、生きることができるか。体調の悪い時は、いろいろと考えるようになりましたが、病状が悪化しないよう、家族のため、自分のため、自己管理をこれからもやっていこう、やらなければとも思います。
128	来年、インターフェロン治療を受けるために、今は検査など受けているところです。3度目のチャレンジです。今回は近くのかかりつけ医と肝臓専門医に治療をお願いしました。やはり、専門医に診てもらえるのは、心強いし安心です。なんだか治りそうな気がしています。頑張ります。
129	完治しているので、前向きに過ごしている。
130	良い結果が続いていることはとても嬉しく、病院への通院がとても大変で、仕事もハードなので、周りに迷惑をかけることも多々ありました。
131	自分自身しっかり受け入れて、前向きに治療に専念しています。私自身「のさり」だと思い、いろいろな経験（本当はしなくてすんだことですが・・・）が今後何かにプラスになればと思っています。
132	2度目のインターフェロン治療途中より、うつ状態になり、身体的には腰を曲げ、手は握り拳状態で歩行もかなり困難。会話もしなくなっています。泣いてばかりだったのが、最近少しは笑顔も出始めたものの、身体症状は相変わらずなので、本人はつらい精神状態が続いているようです。
133	肝炎が完治してホッとして、2年目に乳ガンになりましたが（58才でC型肝炎、60才で乳ガン）、現在は再発もなく（8年間）、明るく前向きに行きたいと思います。
134	小学校5年生で告知を受け、高校1年の時にインターフェロンを受けました。おかげで今は健康を取り戻し、病気だったことを忘れるときもあります。このアンケートを見ると、今も苦しんでいる方達に、早く健康になってほしいと願うだけです。
135	現在、ペグインターフェロン治療中。8週で一になり経過観察中。再燃を怯えているが、医者レベルの医療従事者用の情報開示がしっかりないと、患者は不安が多い。何で一の者が何%あり、その場合はどういう治療を行うのか。最悪の場合は何%で、こういう治療を行うなど、医学書を事前に購入（40,000円分）し、副作用をあらかじめ学んでいたため、あらゆる副作用について、即対応可能となった。これは非常に大きいものである。患者自身が必死に病気の勉強をしっかりと、専門医と同じレベルまでもっていかなければならないと、今日の病気を通して感じている。
136	私の場合、感染してもう30年程になるけれど、辛い症状が軽く、やまずれば病気であることすら忘れる程でした。つらくて大変な思いをしている方も知っています。自分は幸せな方だと思います。
137	インターフェロンの治療が効かず、今はただ新しい治療法を待つ毎日で、いつ悪くなるかととても不安。子供達の事が一番心配。
138	生きている事が不安と思うのは、とても葛藤であり、憤りである。

No	問3-10-2 最近3箇月の気持ち（その他）
139	薬害肝炎救済法、肝炎対策基本法等で、法の整備がある程度整ったことにより、将来の不安が多少解消され、安心感が出てきました。
140	私は病気への心配が募り、うつ病になってしまいました（一年前に診断されました）。家族にも迷惑をかけ、毎日毎日、体が動かないことを悔しいと思い、生活をしています。こんなにきついなら、死んだ方がいいと考えることもあります。

問6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して

No	問6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
1	C型肝炎に感染することを知っていたのならば、許せない。
2	国から許可が出ていれば、使用しても仕方がなかったと思う。
3	当時使用した医師は、責められないが、その原因が明らかになった今、素直に使用を認め、協力する医師であってほしい。ごまかしたり、協力できない医師は許せない。
4	医師は国、会社に比べて、責任は相当軽い。
5	当時、最善の処置をしてもらい、命を助けてもらったと思っている。肝炎感染止血効果なしの認識や、製薬会社との関係が分からないので・・・。
6	医者から輸血でと言われ、薬害訴訟の事は私には関係ないと思っていました。平成20年に突然病院からの通知で、フィブリノゲンを使ったと知りびっくりしました。
7	生存するための手術の際の事故なので、特別な感情はありません。
8	あの当時、山梨では使用することが当たり前だったので、仕方がないと思っています（私のタイプの白血病のみ）。病気を治そうとしてしたことで、肝炎になることは皮肉な結果ですが、病気は治ったので感謝しています。
9	その当時の最適な治療をしてくれたので、個人的には意見はない。むしろ、命を救ってくれて感謝している。
10	ミドリ十字は、色々な薬害を起こしている会社なのに、どうしてこの会社と取引をしていたのか、聞きたかったことです。
11	命を救うために、ベストを尽くしてくれたと思う。当時は、医師もフィブリノゲンが有効だと信じて使用したはず。医師に対して、全く恨みはない。
12	当時はやむを得ないと感じた。
13	国で許可したので仕方がない。
14	使用した止血剤が悪い事を、知らなかったのですか？知っていた人が、近くにいたのではないですか？などの気持ちになるほど、心がひねくれました。
15	殺したいほどの憎しみがある。当時、体調の不具合や治験の診査を無視した医者に対して、せめて家に直に謝罪をしてほしい。
16	医師は、フィブリノゲン製剤を投与したら、どのような結果になるのか、知っていたのではないかと思います。
17	認識があったかどうかは分からないが、止血剤として使わなければ、死亡すると考えたら、やむを得なかったと思う。
18	フィブリノゲン製剤に対しての勉強を、もう少ししてほしかった。
19	緊急時の使用でやむを得なかったと思う。
20	その時、フィブリノゲンを使用しなければ、私の命が助からなかったのであれば、仕方がなかった事であったし、感謝するべきですが、ちゃんとした説明がほしかったです。
21	弛緩出血だったので、止血剤を使用したのは仕方がないと思ったが、なぜ血液製剤を選択したのかと思う。もう少し、様子を見てから使っても良かったのにと感じてしまう。
22	当時は、普通のことだったのだと思う。その後、肝炎の治療を親身になって下さったので、感謝している。
23	薬の使用、感染の事、今後の事について、自らきちんと話してほしかった。厚生省の批判だけではなく、自ら医師としての責任を、もっと自覚してほしい。
24	医療に従事されている方々に、こんな惨事は、もう二度と絶対に起きてはならない事です。これから先、長い年月の間に、また同じ事が繰り返されたとしたら、使用するのは最終現場である医療機関です。新薬ができれば、まず、我が身我が子に置き換えてみて下さい。はっきりとした、しっかりとした安全、安心ということを、人の大切な命を預かっているということをお願ひします。
25	「止血のために、当時は良かれと思って使用した」ということでした。それで命拾いをしたことは事実ですが、その出血の原因は何だったのかと今でも思います。



№	問6-2 フィブリノゲン製剤が原因で因子製剤を使用した医師に対して
26	止血剤として国が認可している薬だから、医者は信用して使っていたと思う。別に、医者は悪いとは思わない。
27	1982年に出産により、非加熱製剤のフィブリノゲン2g使用。なぜ必要だったのか、憤りを感じた。1977年に、アメリカでは中止されている。多くの人の人生を狂わせてしまった責任は、どうとるのか。
28	その時の最善を尽くしてくれたと思えたので、感謝している。
29	手元にカルテ式保管されていた事実を踏まえて、各種報道機関で公表されていたものですから、患者側への使用報告がほしかった。当方の追求調査で判明した。医師への信頼感を失う結果となった。
30	もっと処置に責任を持つ。
31	フィブリノゲンの使用については、一度も説明がなかった。止血のためにやむを得ず使用したとしても、内容を正しく説明してほしかったです。
32	「心臓は助かったのだから・・・」と、先生はおっしゃるけれど、じゃあ肝臓はどうなってもよかったですか？ 今も手術前に受けた「心疾患説明図〇〇大学医学部第一外科」が手元にあります。フィブリノゲン製剤の事については、一切触れていません。書かれている事は次の事だけです。 ①心室性頻拍→突然死、生活制限 ②カテーテル テイピング 右心室 三尖弁～流出路 ③発作手術中に起こる、心表面直接部位が決定 ④人工心肺 心内幕？ ⑤冷凍手術 心筋切除 ⑥三尖弁の手術の可能性 ペースメーカー
33	フィブリノゲン製剤を使用したにもかかわらず、使用していないと言われてしまった。20年も前の事で、忘れてしまったのかもしれないが、目の前が真っ暗になってしまった。幸い、別の病院に入院した時のカルテがあったので、給付金を受けることができた。使用した事を、隠さずに言ってほしい。
34	私の場合、医療ミスで因子製剤が使われたので、医者を訴えたい気持ち。
35	医師自身も薬の勉強をしてほしい。
36	出産時、命を救うためには仕方がなかったと思うが、悔しいです。
37	投与時、医師は危険製剤であることを知らされず、使用したと考えられ、責任は問えないと思われる。しかし、その数ヶ月後、数年後に、フィブリノゲンが肝炎の原因と判明し、それを認識した時点から、投与した患者に対し追跡し、事後対処してほしかった。
38	当時はノンAノンBと言われていた時代で、使用は他に手段がなかったもので、仕方がないと思う。
39	医師に対しては、命を救っていただいたことを、非常に感謝しております。でも、薬害になることが分かっていたら、他の方法で助けてもらいたかった。
40	仕方がないとは思いますが、使用するにあたって、説明がほしかったです。
41	418名リストの中に私の名があり、肝炎になった原因が分かりました。院長には、早く知らせてほしかったです。残念です。悲しいです。
42	昭和57年当時に、止血剤としては、仕方がなかったものと考えます。
43	あの時は急で、そうせざるを得なかったかもしれないが、医師は、この製剤の危険性を知っていたのか知りたい。
44	説明は聞きましたが、その状況が良かったかどうかは疑問です。
45	体に危険が及ぶことが分かっていて、使用したとしたら、許しがたいことだと思う。
46	使用当時は、多く使用されていたとはいえ、他の薬剤があったことは間違いないので、もう少し慎重であってほしかった。
47	当時、他に止血剤はあったのでしょうか。医師の対応がどれほど誠実だったか、夫は語りぐさにしていました。
48	医師は、懸命に私の命を救ってくれた。あの状況で助けられ、感謝している。助産師は、日常的にフィブリノゲンが使用されていたと話してくれた。

No.	問6-2 フィブリノゲン製剤ないし原因製剤を使用した医師に対して
49	投与前に、家族の者には「肝炎になるかもしれない」と医師から言われた。しかし、生きるか死ぬかの時に何の選択肢もない。医師は、輸血のリスクを言ったのか、フィブリノゲンのリスクを知っていたのか、どちらか聞いてみたいと思う。今後、医師は薬に対する勉強も必要かと思う。
50	命を救ってくれた方です。感謝の気持ちしかありません。
51	製剤が認可されていたので使用したのであり、特に意見はありません。
52	出産時、出血が止まらない中で、医者はまず、止血することを第一に考えていたと思うので、その時、医師がフィブリノゲンは肝炎の原因になるかもしれないと知っていても、使われたと思いますし、私を助けるためだったので、医者には全く恨みを持っていません。
53	医師に対しては、責任はないと思う。その時点では、この方法しかなかったことであろうから、投与以前の問題だと思います。
54	医師は、緊急時に良く効く薬剤を使い、人命を救助したいと考えるのは、当然のことだと思います。私の場合は、出血多量で運ばれ、そこで意識低下した状態で使ったので、それは仕方がないことで、私を助けてくれたのだと思います。それよりも、出産時に、自分の時間の都合で、説明もなく、陣痛促進剤を筋肉注射した医師が許せません。
55	人の命を守る立場にある医師が、国、製薬会社とグルになって隠ぺいし、私自身10数年間も放置されたことに、怒りを感じる。しかも、手術後の診察を、今後も引き続き同じ医師に依存しなければならず、患者の弱さを痛感している。
56	フィブリノゲンを投与してしまったことは悔しいし、悲しいけれど、その当時、死と直面していた私を助けて下さった先生に、恨みはありません。
57	国が認可した製剤で、医者に責任は問えない。
58	手術時の多量出血のための使用で、医師に対しては特に何も感じていない。
59	私の出血量を考えると、1992年の1月、フィブリノゲンの怖さを承知していたとされるドクターは、無理に輸血行為をしないでほしかった。意識はしっかりしていたので、副作用を教えてほしかった。
60	5、6年前、初めてC型肝炎を知り、フィブリノゲンが原因だったなんて、分かるはずもなく、意識も朦朧としていたのですが、その時の医師は、フィブリノゲンを使ってはいけないことを、知っていたのでしょうか。今となっては遅いのです。
61	もっと安全性を確かめてから、使用してほしかった。危険な製剤であることが分かった時点で、すぐに使用をやめてほしかった。
62	お産の時、止血剤として投与されたが、何の根拠があったのか。
63	医師には責任はないと思う。
64	結果的に、初期であるのに手術に失敗し、退院前日に大出血して、フィブリノゲンを使われ再手術。お腹はひどい傷。血液は汚れ、絶対に人には知られないようにと神経を使い、病院にも行かなくなり、健康食品を何種類か使っている。顔で笑って心で泣いているような生活でした。手術した病院に電話して、フィブリノゲンを使った事聞き、「辛い思いをさせました」との医師の言葉を聞き、涙が出ました。私を担当した医師ではないのですが、その時は身体の力が抜けました。
65	大出血で運ばれたため、死の危険があり、当直の医師は助けようと必死なのが分かっていたため、止血の効果があると思われる製剤を「使用しますよ」と言われ、任せるしかなかった。仕方がないと思う。
66	医師個人ではなく、病院に対して責任を問いたい。
67	手術前の説明で、使用する可能性を聞かせてもらったが、医師としては、ベストの選択だったのだろう。少し悔やまれるが・・・。
68	その時の最善の治療を考えて下さったわけなので。その後、肝炎感染について、書類を提出して下さったおかげで、製薬会社から主治医に、そしてすぐ連絡を下さり、早い時点で裁判も終わり、重荷を背負わなくて済み、感謝しています。
69	医師は知らなかったもので、しょうがないと思っている。
70	知らせてくれて、カルテも残しておいてくれて、今は感謝している。
71	仕方がない。

No	問6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅲ因子製剤を使用した医師に対して
72	医師は、危険性を認識して使用するべきであり、肝炎になった時、もっと適切な処置をとるべきだったと思う。
73	当時は認可されていたものだったので、使用については、仕方がなかったと思う面もある。当時、私は出血多量でショック状態だったため、生死をさまよい、死産してしまった。
74	命を最優先に行ったこととっております。
75	私は34年も前の事ですので、命を救ってくれた医師に対しては、感謝しております。
76	他の方法はなかったのですか？
77	命を助けていただいたので、感謝はしているが、その後から現在まで苦しんだ。その時、死んでいた方が良かったと思います。生き方を教えてほしい。
78	命を助けてくれた医師に対しては、感謝の気持ちの方が強いです。しかし、フィブリノゲンが効果のない薬、危険な薬であるということを知っていたのか？聞いてみたいです。
79	仕事上、仕方がなかったのでは。
80	本当に必要な治療だと思って点滴したのか、聞いてみたい。
81	大量出血で、命を落とす危険があったので、やむを得なかったと思う。
82	フィブリノゲン製剤の危険性を、どれくらい認識していたかの問題はあるものの、現場の医者として、少しは感じるものがあつたと思う（多少なりとも問題があると）。フィブリノゲン製剤を使用せず、治療する方法を考えてほしかったし、医者の姿勢が問われる。
83	「最近、肝炎になる人が多いのよ」と言っていたということは、医師も何らかの疑問を持っていたのではないかと思います。又、その後、危険だということで、使用中止になったのに、何も連絡がなかったことには、少し無責任さを感じています。新鮮血を使用したことについては説明もあり、母子手帳、保険金請求のために記入してもらった診断書にも記載がありましたが、血液製剤を使用した事は、手術中で意識がない間に使われたこともあり、説明もなく、母子手帳等にも何も記載がありませんでした。ただ、カルテの手術記録に残っていたのが幸いです。命を救うための手術をしていただいた事には、本当に感謝しています。
84	許すことができない。
85	産科の先生は、早くに、フィブリノゲンを打っているのだから、検査を受けるよう進言してくれました。体調は良かったのですが、「悪かったね～、悪かったね～」と、何回も言われました。誠意のある医師だと思います。
86	私が使用された当時は、医師も肝炎を起こすという認識がなかったもので、医師を責めるつもりはありません。私の医師は知らなかったけれど、アフターケアをして下さいましたし、訴訟に関しても協力して下さいました。使用したから、私の命が助かったのだと、今でも思っています。
87	26年前の事なので、医師もフィブリノゲン製剤について、どの程度理解していたのか？説明がなくても仕方がなかったと思う。
88	医師の都合で計画出産させられたことが、全ての根源だったと思うことがあります。「陣痛がないのに、入院して出産」は不自然です。その提案を拒否できなかったことが、今でも悔やまれます。医師の対応に、不満、許せない思いを痛感しています。
89	当時は、出血の際、効果のある薬と信じて使用していたようなので、仕方がなかった事としたいと思います。
90	感染はしてしまいましたが、フィブリノゲンを使用しなかったら、命はなかったかもしれないので、複雑な気持ちです。
91	出産からずっと入院（3ヶ月半）している間に、急に先生が退職してしまったこと理由、及び説明がされないまま、今に至っていることが、とても不安です。
92	私の場合、緊急事態だったため、フィブリノゲンの投薬に関する説明をする機会がなかったのではと、個人的に推察していますが、事前説明があつてしかるべきだと思います。
93	止血目的で使用されたことは理解できる。しかし、肝炎が発症する恐れがあることを、きちんと伝えるべきであった。
94	説明もなく投与され、一生を不安に過ごさざるを得なかったことに、悔しい思いをしている。半面、命が助かったもので、仕方がないかとも思う。

No.	問6-2 フィブリノゲン製剤(1)第4因子製剤を使用した医師に対して
95	心臓機能障害(弁置換)手術をした当時は、その薬、その方法しかなかったのかも知れないので、医師を恨むつもりはありません。
96	1986年10月に心臓手術をしました。約1ヶ月の入院でした。退院の時、担当医師は、2、3ヶ月すると身体に説明のできない倦怠感を感じるかも知れませんが、その時は必ず知らせてほしいと言われました。しかし、私にはそんな倦怠感、何もありませんでした。それから6年目になって、近くの個人診療所で、血液検査をすぐに行うと言われました。心臓手術をした患者さんは、血液検査をする必要があると告げられて、その時にC型肝炎と分かりました。手術をした医師は今も故人です。フィブリノゲンを許可した厚労省と製薬会社に対して、強い憤りを感じます。故人となった医師に対しては、今は何も申し上げることはありません。むしろ、心臓手術の成功に感謝しております。
97	薬を使用した事を説明してほしかった。
98	仕方がなかったと、当時は思うようにしました。そうでないと、やりきれない。
99	当時は、医師も安全な薬と信じて使用したと思う。医師もある意味被害者だと思う。
100	フィブリノゲンの使用について、知識、技術が十分ではなかった。
101	手術時、出血が多量だったと聞いており、止血に製剤を使用した(製剤の使用は、知らされていなかった)と思います。当時は仕方がなかったと思、医師には特に恨みはありません。
102	血液製剤を安易に使用していたのなら、残念です。
103	産科の先生からは、一言の説明もなかった。母子手帳にも書かれていなかった。一言説明がほしかった。命が助かったんだから、良しと思いなさいと、しょっちゅう言われた。
104	製剤の有効性を知っていて使ったのかどうか、聞いてみたいと思うが、確認できないでいます。
105	当時の医師に対しては、何とも思いません。
106	既に亡くなっているのだから仕方がないが、薬のリスクを告知してほしかった。
107	当時、使用したことは、仕方がないことだと思いますが、その後、証明をお願いした時、病院長が、病院が使用したことも、患者に投与したことも覚えていないと言ったことに、腹立たしさを感じました。
108	私や家族に対し、輸血時の説明を全くしなかったことと、輸血後の血液検査も行わなかったことは、医師としての義務を怠った結果であり、非常に残念な結果だと思う。人の命に携わる医師は、きちんとして説明してほしかったです。
109	医師の判断で、出産時に使われたフィブリノゲン製剤。子供が誕生した喜びが一転して、その後、爆弾を抱えるとは思いませんでした。
110	殺したい。
111	出産の時の緊急の止血剤だったので、仕方がないことかもしれないけれど、たった一度の製剤で、長い入院生活やインターフェロン治療など、とても辛い人生を送り、今でもまだそんな生活をしています。
112	投与時は、良かれと思って使っていたと、その時の医師に聞きました。肝炎のリスクは知っていたけれど、止血をして助けたかったと、正直に話していただき、納得しました。
113	国と企業の問題で、医師に対しての思いは、良くも悪くもない。
114	当時、医師も、血液製剤が肝炎と関係があることは、判っていなかったと思うので、恨む気持ちはありませんでしたが、その後、カルテ開示、薬剤使用証明に関して問い合わせた時の態度は、まるで非協力的で、嘘をつかれたこともあり、良心の呵責はないのかと、腹が立ちました。
115	使用してはいけない製剤と知って使用した行為は、腹立たしく思う。
116	その方法がベストだったのならば、仕方がないという気持ちもある。
117	血液製剤をやたら使用し、感染被害拡大した知識不足。責任を感じて、もっと勉強してほしい。
118	子宮筋腫の摘出手術は、それほどの大手術とは思わず、1ヶ月もすれば、また元の生活に戻れると信じ、主治医に託したのに、医師は、フィブリノゲン製剤の恐さなど全く認識がなかったのに、がく然とした。
119	医師も勉強が必要。

No	問6-2 ライブリノゲン投与がしる原因を知り使用した医師にたいして
120	多量出血のため、命の危険と比べると、フィブリノゲンの使用は、仕方がないとは思っています。しかし、使用する必要が確かだったのですか？聞きたいです。
121	その当時は、それしかなかったのでしょうか？助けていただいたのに、言えることではないのでしょうか。
122	命を助けていただき、ありがたく思っております。
123	当時は、フィブリノゲンを使用する手段しかなかったと思うし、私を一生懸命助けてくれたので、感謝の気持ちしかありません。
124	使っているものか悪いものか、よく確認して使ってほしかった。
125	当時は、その治療が最高だとして、使用したと思う。
126	自分自身が、22年前にC型肝炎に感染した事を知らなくて、つい数年前の血液検査で分かった。その当時分かっていたら、3人目の子供を、生まれて2時間で亡くす事はなかったと思います。
127	亡くなられましたが、事前に、カウンセリングや気になる事とかの対話が沢山あれば、違う方向だったかもしれないと思います。
128	出産時、危険な状態だったので、使用は仕方がなかったと思われる。
129	命を助けるための事なので、しょうがないとは思いますが、もうちょっと考えて使ってほしかった。
130	当時は、これらの薬が止血剤として、優れた薬とされていたので、使用したこと自体には責任はないと思っている。しかし、手術後に血清肝炎となっても、それとC型肝炎問題が結びつかず、気付かずにいる患者もいるようなので、使用した医師側からもっと、働きかけをお願いしたいと思っている。
131	帝王切開時、出血多量で、「もう覚悟して下さい」とまで言われたそうです。その状況を考えれば、仕方がない事だったと思います。
132	私の一生を、元通りにしてほしいです。
133	その当時としては、仕方がない事だと思っている。
134	産後、すぐに医師から肝臓障害を起こすかもしれないと、言われましたが、当時は何の事だか分かりませんでした。その当時、医師がその事を分かっていたなら、お産前に話をしてほしいです。
135	人命のためと言うが、それが本心であったのだろうか。
136	フィブリノゲン投与の副作用は、内科の医師により報告されました。418人のリストに載っていたということで、H19.11.24に、病院より話がありました。出産時、フィブリノゲンを投与した産婦人科の医師からは、何の説明もありませんでした。内科も産婦人科も、同じ病院の医師でした。今ではカルテもなくなりましたが、時々、病院で会う機会があっても、フィブリノゲンについては、一切話がなかったです。
137	どうして、本人の許可なく使用したのか。前もって、説明があっても良かったのではないかと。
138	当時は、医師にも周知していなかったとはいえ、過去に疑いのある患者には、積極的に知らせてほしいです。
139	命を救うか、使用するのかの選択だったと言われると、納得せざるを得ませんでした。
140	当時の止血剤としては、最良だったのか？他の薬ではダメだったのかと思う反面、この薬で死なずに済んだと思うと、複雑な気持ちです。
141	フィブリノゲンを使用しなかったら、私はこの世にいません。使用したことについては、何も言えません。
142	その時の治療法としては、最善を尽くしてもらったと思っています。
143	フィブリノゲン使用に対しての説明はなかったが、止血しなければ生命の保障がないと聞かされたので、その時は納得したつもりでした。
144	命の尊厳を考えれば、フィブリノゲン製剤を使わざるを得なかったと思います。製剤に対する認識は、どの位あったのかは聞きたいです。
145	フィブリノゲン製剤が体に入った次の日から黄疸になり、それからずっと具合が悪かったです。お医者さんは何も言いませんでした。国でそう決めたのでしょうか？

No.	問6-2 フィブリノゲン製剤を用いた第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
146	当時は何の説明もないまま、5年後入院した時(違う病院)、C型肝炎だと初めて言われ、大変ショックを受けました。「なぜ、いつ、どこでC型肝炎になったの？」。
147	出産後、簡単な処置のみで、通常よりも多少出血が多かったからと、そのままの状態分娩台の上に放置したままにされ、医師は隣家の自宅へ帰ってしまった。その際、見習いの看護学生1人が残り、その間、更に出血が続き、意識不明の状態になって、家族の訴えで慌てて治療にかかった。医師が適切な処置、経過観察等をしてきてさえいれば、肝炎にならずにすんだはず。今回の訴訟に対しても、必要な書類提出を拒否したり、人間として許せないような人が、今でも平然と医師を(医療)続けていること自体が、絶対に許せない!!他人事のように、人命を軽く考えた国や製薬会社に対しても、同じ気持ちである。
148	当時の危険な状態での使用だったので、しょうがなかったと思います。特に恨むことはありません。
149	私は重篤だったので、やむを得ず使用したのだと思う。私の場合、病院の金庫にカルテが保存されていて、とても感謝している。
150	発症後数年は肝炎の「か」の字も、ミドリ十字の「ミ」の字も見なくなかった。何軒も医者を通ったが、大病院ほど驚き呆れる対応だった。
151	患者を助けるために、国で認定した薬品を使用した医師に対しては、何も言うことはありません。
152	当時は、C型肝炎に感染するというを知らずに使用したので、仕方がないと思っています。
153	安易に使用したことは、許せない。
154	当時、止血剤として、知らずに使用していたので、仕方なかった。
155	医師は、よく分かっていなかったのではないかと思います。今でも、婦人科ではお世話になっている。
156	私の出血を止めるために使用されたのだから、医師に対しては何も思わない。
157	使用するにあたって説明なし。使用後も説明なし。命に別状がないのに、なぜ第Ⅸ因子を使用したのか。自分(医師)の身内にも使用するのか聞きたいですね。
158	当時の処置としては、仕方がなかったかも知れないが、きちんと説明してほしいし、肝臓に影響があることなど、詳しく教えてほしい。薬害の事など最近の情報を知った上で、治療にあたってほしい。
159	命を助けてくれてありがとう!
160	出産直後は、血液製剤を使用した事を知らずに、輸血したことで肝炎になったのは仕方がない、治療をして治ればいいのだと、楽観的に考えていた。しかし、肝炎は急性期から慢性期へと・・・次第に不安でいっぱいになりました。今から先、進行していく病気と向き合い、妻として母親として、やっていけるのか。肝炎は感染症の病気であるがゆえに、その苦悩は筆舌しがたいものがあった。この20数年間、助けていただいたことを感謝するよりも、こんなに苦しむのだったら、なぜあの時に死なせてくれなかったのだろうという思いです。特に薬は、人を幸せにも不幸にもするものです。製薬会社との馴れ合いが、結果原因となります。私達のような患者をださないように、取り組んでほしいです。
161	当然のように使い、患者を無視し、使った事さえ知らされなかった。憤りを覚えた。
162	フィブリノゲン製剤を使用せずに、救命する方法がなかったかどうかを聞きたい。
163	緊急安全情報を早く知っていたら、使われなかったかもしれないと思うと残念です。早く情報を知る努力をしてほしいと思う。
164	血液製剤を使用したことは、訴訟を起こした時、カルテを見て初めて知りました。とにかく、出産後出血が多量で、子宮摘出し、生死の境を越えての事で、肝炎も輸血後肝炎と聞いていたので、医師に対しては、命を助けてくれた思いで一杯でした。今も、医師に対しては何とも思いません。
165	感染当時、フィブリノゲンで肝炎が発症することを、医師は知っていたのではないかと思います。同じ産婦人科病院で、フィブリノゲンによる治療で発症した人が、私以外にもいたからだ。国が、使用中止や別の治療方法などを迅速に、強く指導していたら、肝炎の感染は防げたと思う。医師は、人の命と直接向き合っているのだから、安易に使ってほしくなかった。
166	効くと言われて(製薬会社)使用して、結果NGだった時点で上へも(国、製薬会社)下へも(被害者)、早急に訴追したり、今でも謝罪できていないのは何なのか。それも大部分の医師がそのままということは、人道的にも劣る。
167	許せない。恨んでいる。

No.	問6-2 フィブリノゲンと抗血栓因子製剤を使用した医師に対して
168	医師からは、出血を止めるために使用したと聞きました。そう言われると、医師を恨むわけにもいかないと思います。
169	当時、医者は薬害の認識はなかったと思うので、未来に向かって治療法の研究等に、努力していただきたい。
170	仕方がない事だったのかなあと感じる。
171	1987年後半には、フィブリノゲンの使用中止をしている外科医が大半であったにもかかわらず、不勉強で使用した医師、病院に不信感を持った。
172	青森の集団感染の3ヶ月後に投与されたことに、憤りを禁じ得ない。医療現場での安全確認を怠らないよう、徹底して下さい。
173	フィブリノゲンを使用しなければ、出血多量で助からなかったかも分からないと思うと、複雑な気持ちです。
174	医師は、フィブリノゲンを打てば肝炎になることは、知っていたと思う。でも、打たなければ患者が死ぬかも知れないと思って、打ったのだと思います。
175	当時としては、やむを得ない処置だったと思う。悔やんでも、以前の体には戻れない。命を救ってもらって感謝すべきなのかなあ？
176	分からない。本当に分からないんです。
177	使用薬剤について、よく勉強してほしかった。
178	たとえ緊急だったとしても、副作用の説明はしてほしかったと思います。家族も待機していたのですから、どちらかを選ぶとしたら、家族からの輸血を望んだと思います。産後退院する時に、医師から「もしかしたら肝炎になるかもしれない」と言われましたが、それでは遅すぎました。
179	フィブリノゲンを使用しなければ、手術ができない状態ではなかった。安易な医師の判断によって使用された。憤りを感じる。
180	使用した医師には何とも思いません。私の場合は、C型を教えてくれた先生に、「治ったからいいだろう」と言われ、がく然とした。医者の中にも、自分の事しか考えていない人もいるんだと感じた。
181	当時はずっと許せない気持ちでしたが、今は、医師もある意味被害者だったのかもという思いになってきました。
182	使用後に出血が始まったのだから、予防のためにと、使わなくてもよいものを体に入れられたのに、「生命を助けるためには、仕方がなかった」と言い訳しないでほしい。生命を預かる者として、責任をもって医療に従事してほしい。
183	命を助けていただいたので、感謝しています。
184	その当時では、仕方がなかったと思う。
185	フィブリノゲンを投与した時、それ以外に私の命を救う方法はなかったのかどうか、聞きたいです。しかし、30年以上前のカルテを保存してくれたおかげで、和解できたのは良かったです。
186	いつ進行するのか、いつも不安がつきまとう。インターフェロンの治療を受けるのが怖い。
187	その当時は、止血剤としてフィブリノゲンが常用されていたと思うので、仕方ないと思っています。
188	使用する時に、明確に使えてほしかった。良い薬があるからだけだった。
189	昭和44年頃の事ですし、その時は医師も分からなかったと思います。私の命を守るため、仕方がなかったのだと思います。
190	止血のためにフィブリノゲンを使ったのだから、仕方がないと思います。使っていなければ、大量出血で死んでいたのかも知れません。C型肝炎になって大変ですが、それも運命かなと思います。
191	その時は、医師にとって最善の処置をしていただいたのかと思っています。でも、あのときの苦しみ、恐怖感、絶望感は、二度と味わいたくないです。
192	止血のため、仕方がなかったのかな。でも、もしかして違う医師であったなら、違う方法をとってくれたのかも・・・と、ちょっと複雑な気持ちである。
193	出血がひどかったので、当時は普通だったと思っている。

No.	問6-2. フィブリノゲン製剤ないし因子製剤を使用した医師に対して
194	出産中に、何も分からない時に言われても・・・？このような医師、病院スタッフを信じられません。
195	害があると解った時点で、すみやかに使用を中止してほしかったです。私の場合、時期が解りません。
196	使用して肝炎になる人が多いので、検査をさせて下さいと言われたが、分かっていたら使用しないでほしかった。
197	質問に答えてほしい。
198	この薬を使用した時は、私の命が危なかったもので、助けてもらい、医師に対しては、有り難がったと思っています。
199	当時の治療法としては、最善方法だったと思いますので、責任は問いかねると思います。
200	医師は、患者に十分納得できる説明をしてほしい。
201	産後の急な大量出血ため、第1に救命、第2に子宮温存のために、ありとあらゆる止血方法を試みられた結果ですので、担当医には感謝しております。
202	その当時として、最善を尽くしてくれと思うので、憤りは感じてはいません。
203	当時としては、認められていた製剤であったし、効いたのか効かなかったのかは分からないが、生命を助けてもらい感謝している。
204	当時は無知で仕方がなかった。
205	あの時代、この方法しかなかったのだろうと思ったりもします。
206	当時、もう少し分かりやすく本人、家族等に説明してほしかった。本人は急だったので、家族にはきちんと。
207	当時は、エイズも感染の恐れがあったのに、予防的にフィブリノゲンを使用したことに、今でも許せない気持ちが強い。父や夫が医師でなければ、訴訟も考えたほどです。
208	当時としては、止血目的に使用したのだから、仕方がなかったと思いますが、使用したことも告げられず、まして、危険性について何の説明もなかったことについて、とても憤りを感じます。
209	お医者様には、私の命を助けてくれたことに、本当に感謝しています（すごい出血だったので）。
210	出血を止めるのに仕方がなかった。
211	22年前に手術を受け、途中出血多量のためフィブリノゲンを投与。医師からの説明もなく、入院生活7ヶ月。災難と思って諦めて下さいの一言でした。今年1月、肝臓がんが見つかり、1/4肝臓を切除しました。この怒りを誰にぶつけて良いのか。
212	仕方のなかった事だと思うし、カルテが保存してあった事、こちらの申し出に対し、病院側が誠実な対応してくれた事には感謝している。
213	国の許可で使用したので、仕方がないと思う。
214	当時としては、やむを得ないと思う。
215	個人医院の医者も、常に薬の事を勉強してほしいものです。
216	説明もなく使用されて、何十年も気が付かなくて、自分はわがままで身体が弱いと思って苦しんできました。それも2回も使用されて・・・。先生方は、自分の家族にも使用するのかしら？と思いました。後でどうなるのか分からないものを使用する時の気持ちはいかかなのか、知りたいと思っています。
217	薬害がある事を分かって使用したモラルを問いたい。
218	使用した時は、この薬を使わなければ命がなくなると思い、使ったのだと思います。まさか、このような事になるとは・・・。医師からの連絡でこの事が分かり、これからの自分の生き方を考える機会を、与えてもらったように思います。
219	当時使用した事実を隠さず認め、それを使用した患者に、少しでも早くその事実を伝えるべきではないか。
220	医師は関係ないと思います。



No.	問6-2 フィブリノゲンが新しい凝固因子製剤を使用した医師に対して
221	その当時は、この治療がベストと思われて処置されたと信じていますので、医師に対しては、何も申し上げることはありません。
222	説明もないまま使用され、感染した事には納得がいかない。でも当時、国の対応だったことが、一番の問題だと思います。
223	出血多量で生と死の間にあり、やむを得ない事態だと思う。この件に対して、生命が助かったことを感謝しなければならぬと自負している。
224	知らずに使用したことで、恨むことはできませんが、残念です。
225	妊娠中毒症になり、入院していました。34週目、少しずつ出血したにもかかわらず、外来があるからと診察してもらえず、点滴をしながら、先生が来るのをずっと待っていました。不安で不安で……。数時間後、突然大出血して吐いて吐いてと悪化したら、やっと先生が来て、急速帝王切開になったが、その時にフィブリノゲンを使用された。悲しいことに、やっとできた子は体内で死んでしまい、今でも重いものがある。もっと早く出してあげていたら、生きていたのに。「ドクドク」と鳴った心音が、今でも耳に残っている。
226	担当医師から、当時の止血剤としてはフィブリノゲンが一番良い薬だと聞かされ、命が助かったんですよと言われて。命を救っていただいたことに感謝しています。
227	産院は、「出血多量で死ぬより、肝炎でも生きていてよかったでしょう」という考え、態度だった。逆らえず、とても悔しい思いだった。説明もなく、何も分からないまま感染していた。
228	フィブリノゲンを使われていた事を、原告になるまで知らなかったのもっときちんと説明してほしかったと思う。
229	私の場合は出血多量で、もしフィブリノゲンを使っていなかったら、38年前に死に至っていたと思っております。
230	どうしてあの時フィブリノゲンを使用すること、他人の血が入っていることを、言ってくれなかったのか。使用後1ヶ月近くも高熱を出し入院していたのに、原因不明の熱ということで終わり。本当に、感染を疑うことはなかったのでしょうか。
231	ずっと仕方がないことだと思ってきた。医者は懸命に治療したという思いは今もあるが、ただ、現場の医師が薬や治療に対して、もっと学習したり、疑問を持つことはできなかったのだろうか、とも思ったりする。
232	薬の事は医師は知らなかったし、私に薬害患者ということを知らせてくれたので、感謝している。
233	治療上、仕方がなかったとは思いますが、薬に対する知識を、もっと持つべきだと思う。
234	当時の状況を考えると、仕方がないのかなと思うが、フィブリノゲンを使うことに対してのリスクがどの程度あったのか、医師が知っていたかどうか知りたい。
235	命の恩人です。
236	投与した時点で、肝炎の危険性を知らせてほしかった。産後の1ヶ月検診で、すでに尿が茶色だったのに、助産婦が検査したからか、肝炎を発見してくれなかったのが、治療が遅れた。
237	使わざるを得なかったのか、複雑な気持ちです。
238	その時は、フィブリノゲンを使用することがベストだったと思います。
239	使用を許可してしまった国の責任が重く、医師を責めることはできないように思います。
240	立場上、追跡調査を確実に実施してほしい。
241	知識不足と事なかれ主義の医師にかからざるを得ない状況。安易に、簡単に使用することについて、医師免許を安定した高給取りの免許とせず、日々適性が判断できる免許（更新制）にしてほしい。
242	使用当時は結果が分からなかったのやむを得ないが、薬害と知った時点で、病院全体で通告の要があった。
243	あの時は、私の命を救うためにして下さった事で、当然の措置であったと思います。
244	本当に必要であったか、後の事を考えて使用してほしかった。
245	その当時は、仕方がない事だったのかもしれないが、使った事に対しては、悪い事をしたと思ってほしい。

No	問6-2 フィブリノゲン(血が止まらない)産後因子製剤を使用した医師に対して
246	私は当時、フィブリノゲンがどういう薬剤かというのを、まったく知りませんでした。医師の説明もまったくありませんでした。
247	出産時の大量出血に際し、命を救おうと必死に努力していただいた担当医には、今でも感謝している。ただ、日常医療の中でも、最良の医療を提供しているのかということ、意識していただきたいと思う。
248	一生懸命治療していただいたので、感謝です。
249	当時の状況では故意とも思われず、仕方なかったとも考えられるが・・・。
250	当時は、その方法が一番良いと思い使用したのであれば、仕方がないのかもと思う。カルテを公開してくれたことに感謝している。
251	子供は死んでしまい、悲しい思いをしている時、私が助かっただけでも「感謝してほしい」と言われ、すごくショックでした。
252	止血をするために、懸命だったと思います。自分の状態が悪くて聞けませんでした。母親には肝炎が出るかもしれないと説明があったとのこと。C型肝炎とは知らなかった。すぐに治ると思っていました。
253	説明が全くなく使用された。出産時(予定日)がお盆に重なるため、無理に陣痛促進剤を使用された怒りもある。
254	無責任すぎる。
255	仕方がなかったと思います。
256	何かをしなければ命がなかったし、とても複雑です。
257	どの方でも仕方がなかったことでしょう。でも、自分の家族には使ったのでしょうか？
258	肝炎になったのは悲しい事だけれど、死ぬか生きるかの手術をしていただいて、今まで幸せな時間を過ごせてくれたのは、先生のおかげだと思っています。
259	医師の言葉から投薬に至るまで、患者は治ることを信じて治療を受けます。快方に向かうと信じて、命懸けで治療に臨むのです。だから裏切らないで下さい。こんな悲劇は、どうか繰り返さないで下さい。
260	命に関わる大手術でのごことなので、仕方がないと思います。
261	当時の医師としては、仕方がなかったと思います。
262	出産時に使用されていたのですが、長女を産み幸せに思えますが、現在まで病気との闘いはまだまだ終わっていないことを、実感しています。死に至るまで、娘2人に世話をかけるのですから、本当に胸が痛む思いです。
263	先生には今も診察してもらっている。90%以上無理だった手術が成功して、現在に至っているので、感謝しています。
264	一時体がだるくて寝てばかりでした。でも今は少し体調がましで、がんばっております(母の介護)。
265	何も言えません。
266	第1子出産時と同じ位の出血だったのに、第2子の時にどうして使ったのかな？と思うこともあります。
267	私が出産した病院は、何人もの肝炎患者を出しているのに、漫然と同じ薬を使う。薬の使用に、もっと責任をもつべきだったと思うし、発症当時、責任を患者側に押し付け、責任逃れをした対応に、今でも心底怒りを覚える。
268	責任を重く受け止め、丁寧に説明をしていただきたい。
269	その時の治療方針に文句を言う事もないが、医師に対しても怒る気持ちもない。
270	出産時の出血の止血剤として使用したであろう・・・と思っていたので、その当時は仕方がなかったと思っています。
271	C型肝炎に感染するとは思わなかったと思うので、何も思っていません。
272	生命を救うためには、それしかなかったのかなあと、いつも思っています。
273	生きてこの病気の苦しみや悲しみを味わうのだったら、知らずに去った方が良かった。
274	その時は、その治療がいいと思ってして下さったと思いますので、仕方がなかったと思います。

No	問6-1 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅲ因子製剤を使用した医師に対して
275	当時の医師は、この薬が危ないものだと分かっていたのか？不明なので、医師に対しては何も言えません。私の場合大量出血で、すごく良いチームワークで治療していただいて、とても感謝しています。
276	その時には、その処置が一番良い方法だったのだと思う。その処置のおかげで、私は助かったのだと思うので、医師に対しては責める気持ちはない。
277	使用前に説明してほしかった。使用前にできなかったにしても、使用後速やかに患者に対し、説明責任があったのではありませんか。16～17年も経過して、それを書面で知らされた。人の命を預かる立場の病気、医師の質を問いたい。
278	治そうと思って使用したので、仕方がなかったと思う。先生は知らなかった事でしょうから。
279	国が認めていたのだから、仕方がないと思う。
280	フィブリノゲンは当時、止血目的として使用されたので、仕方がないと思う。
281	命を助けるために投与されたもので、医師には特に責任はないと思いますが、当時は、C型肝炎がどんな病気か分からなかったの、仕方がなかったと思っております。
282	出血多量で、止血目的の治療をしていただくことには、全く不満はありません。ただ、専門的に知識のある方や多くの情報が集まる機関に対しては、納得がいかず残念でなりません。
283	当時、医師の方々も、この製剤に関しては、ただ必要不可欠な物としか認識していなかったの、責めることはできない。
284	全国的、世界的な問題で、医師に対しての意見はあるが、その薬の使用を許した国に対して言いたいです。
285	産婦人科医は、私の命を救うには、フィブリノゲンの止血剤を使用するしかなかったと言いました。産婦人科医も被害者なのかなと思います。
286	医者は皆いい方でした。現在もよくして下さり、尊敬もしています。病院は、素晴らしいスタッフで感謝です。
287	S62年当時としては、使用されたのも仕方ないと思う。少なくとも、悪意ではないでしょう。
288	その時は何も知らなくて、命を助けていただいたと喜んでいました。何の説明もなく、検査もなく過ぎていきました。今になって悔しい思いです。
289	製薬会社の言葉をうのみにせず、副作用等もよく理解し、本当に必要な治療なのかを判断してから、使用していただきたい。
290	オペの医者は最良の手術で、早期社会復帰を目標にしてくれましたが、製剤問題の認識はなかった結果である。ショックが大きい。
291	残念な結果となりましたが、当時、手術や治療等、一生懸命やっただき感謝しています。
292	当時は、フィブリノゲン製剤を使用するとは聞いていなかったし、まだ分からない時代だったと思うので、仕方がないとの気持ちもある。心臓手術の止血剤には、効果があったということなので、理解はしている。
293	当時としては、医師に責任を持たせることはできなかったと思うので、医師に対する気持ちは何もない。カルテ等情報提供に協力的で、好感が持てた。
294	責任ある説明がほしい。
295	入院時に熱がでて、薬の副作用ででているのに、製剤使用が分かった。何で教えなかったのだ。
296	医師もよく分かっていなかったと思うので、やむを得ない。
297	以前はウィルスが分からなかったの、仕方がないと思いますが、それより、輸血のし方を変えてほしいです。まず最初に自分の血液を200cc～400cc取っておけば、このような問題は減ると思います。たとえ使用しなかったとしても、検査済みの血液だから、ウィルスがあるかないかも分かりますし、本人にとっても安心だと思います。
298	安全なものを使用してほしかった。
299	当時、私の命が助かったこと。インターフェロンで、少しは良くなりました。
300	肝炎に感染する可能性があることを、話してほしかった。

No.	問6-2 フィブリノゲン製剤ないし単因子製剤を使用した医師に対して
301	「知ってて使ったの？」どんな気持ちで使っていたのか知りたい。
302	その他に出血を止めることができなかったのか？
303	本当に知らなかったのなら仕方がない。通達を乱発しすぎる国（厚労省）のせい。
304	医師に知識があつて、この薬を使ったのか聞きたいが、もう他界されていて、真意は分からない。
305	薬の副作用について勉強してほしい。使用しなかった医師もいる。
306	出産時に命は助けていただいたが、今後なりうるであろう病気の事を、しっかりと教えてほしかった。
307	もし使用していなかったら、出血多量で死んでいたかも知れないし、複雑な気持ちです。
308	使用する前に、説明がなかったのは悔しい。
309	製薬の在庫があつたからと、使用してほしくなかったし、説明もなしは絶対に許せない。
310	医師に対しては、何も思いません。当時の一般的な治療であつたと受け止め、精一杯治療していただいたと思っています。
311	生きていることに感謝しています。
312	大動脈瘤の大手術で、命を救ってもらえたことに感謝している。当時の医師がフィブリノゲンの危険性を把握されていたかどうか分からないので、責める気持ちは全くない。
313	医師も肝炎の重大さが分かっておらず、気軽に使用したと思います。正確な情報が伝わっていたら、使用しなかったかもしれません。
314	出産後、縫合不全で出血し、再度縫合し、出血量が少なく、点滴されて気分が悪いから止めてほしいと頼んだが、鎮静剤を打たれ、フィブリノゲンを打たれたのが、昨日のように思い出され、病院に何回か連絡したが、対応が悪く、今でも不信感が残る。
315	止血のために投与したので、仕方がないと思う。
316	フィブリノゲンの投与の説明が、当時されなかったように思う。詳しく説明していただきたかった。
317	何故使用したのか？使用しなければいけなかった理由。
318	どうしてフィブリノゲン製剤を使つたのか、説明がほしかった。出産後1ヶ月検診の際、血液検査をしてほしかった。
319	緊急の治療は時間との闘いですが、治療の説明、特に治療のリスク等の説明、同意を取ることの徹底。
320	使用した医師は、当時、フィブリノゲン製剤の危険性をどれだけ認識していたのか分からないが、投与する時、リスクの説明をしてほしかった。
321	手術をする前にフィブリノゲンを使用するという説明はなかった。輸血は受けてない。診療記録に出血の有無は記されていない。私の場合、フィブリノゲンを使って止血する必要があつたのか、疑問に思う。使われた事が残念でたまらない。
322	仕方がないことだと思います。
323	分かっていて使つたならば、人として、医師としてダメだと思う。
324	当時はやむを得なかったと思っています。
325	優秀で誠実な医師。当時、適切に治療して下さつたと認識しています。ただ、フィブリノゲン認定の1987年の認定時報告してほしい。
326	輸血をした時もフィブリノゲン投与の時にも、本人、家族に何も話がなかった。
327	出産時の大量出血だったので、仕方がないと思いました。
328	仕方がなかったのでは。事前に相談してほしい。

No.	問6-2 フィブリノゲン製剤を以て第Ⅷ因子製剤を使用した旨について
329	当時とすれば、止血剤がなかったならば、私は現在生存していなかったと思っています。当時の先生は、この止血剤を信用して使用したと思っています。
330	外に別の薬がなかったのか？
331	生きるために使った薬で、その命さえもなくなるかと思ったら、悔しかったけれど、医師に対しては何も言うことはありません。
332	生命を守るための手術だったので、仕方がないと思うが、できれば、説明してから使用してほしかった。
333	知っていて使ったのか分からないが、当時としては、一番良い治療だと思っていたのかも。仕方がないかなと思っています。
334	当時としては、最善だったのだろうと思っていまし、今まで生きて来られたと思っています。
335	使用した時、どの程度の情報を知っていたのか、正直な話を聞きたいと思いました。
336	出産時、胎盤剥離で、残念ながら子供は死産して、母親（私）も相当危険な状態だったと、聞かされておりました。その当時、肝炎について、病気の怖さは自分なりに知っていたつもりでしたが、ひきかえに、命をいただいた事に対して、犠牲あっても命だったのかなと、仕方なく自分なりに納得しておりました。
337	出血が止まらないので、フィブリノゲンを受けたので、先生は恨まないが、23年経っても悔しいです。
338	はっきり言ってがっかりしました。信用がなくなりました。患者が賢くなって、豊かになって成長したい。
339	悪意が全くない先生なので、医師には恨みはありません。
340	何故、感染の危険性を知らなかったのか。止血に効果がないことを知らなかったのか。知る努力をしてほしい。
341	医師は誠実に対応してくれていますが、もう少し早く告知してくれたらと思うことがあります。
342	あの時大量出血して、フィブリノゲン製剤でしか助からないと言う事でしたから、使用しても仕方がなかったと思います。
343	止血剤を使用したことは決して話さず、輸血したからとの言葉ばかりで隠してしまう。ずるい。
344	命を救うための投与だったかもしれませんが、しかし、肝炎ウイルスに感染することが分かっている投与されたのは、とても残念なことだと思います。医者が患者を作ってはいけない。とても悲しい事実です。
345	母が姉を出産した時に投与され感染したのですが、当時、投与後の検査や説明がなかったために、自分が母子感染させられた事に対しては、非常に遺憾です。医師としてなすべき事は、きちんとやってほしかったです。
346	当時、現場では、止血剤として有効とされていた製剤であるし、私を助けようとして投与したのだから、医師に一切の責任はないと思う。一生懸命の救命行為に感謝している。
347	投与した事実を告げてほしかった。又、肝炎に感染する可能性も教えてほしかった。
348	リスクを知っていたのか？
349	感染する危険性を知らなかった上で、投与したと信じたいと思っています。第Ⅷ因子製剤による被害者は、フィブリノゲンと比べると少ないので、多くの被害者が発見されるよう、努力してほしいと思います。
350	当時は、医者も情報に対して知識がなかったのだから、医師に対しては別に何とも思わない。
351	医師の方から、後から書類が郵送されてびっくりしたが、いろいろと協力してもらった。出産時なので、仕方がなかったと思う。
352	本当に必要な治療方法だったのか？当時、私達も輸血の危険性の有無を知っていたので、説明があれば拒否したと思う。医師の第三者的な態度が腹立たしかった。
353	当時、製剤を使用した事や詳しい説明は受けた記憶がなく、命を救うためには、仕方がなかったと思うしかありませんでした。
354	その時はきっと、命を救おうとして使われていると思いますので、医師に対してはありがとうございますの心をなくさないように、自分に言い聞かせています。何度考えても、その時私は死にかけていたようで、確かな事は、生命を救っていただいたということだと思っています。

No.	問6-2 フィブリノゲン製剤を投与した医師に対して
355	当時、本当に肝炎感染の実態を把握していなかったか。
356	担当医は、出血が止まると思って投与したのが分かっている。しかし、止血効果はなかった。担当医が一番ビックリして、早急に他の止血に切り替えて（子宮収縮剤）、命は助けていただいた。裁判でも証言してもらった。
357	産婦人科の医師は、国が認可した薬を使用しただけで、当然責任はないが、私が出産する前には、青森の産婦人科で集団感染していたことなどの情報は入っていたと思うので、慎重な取扱いをしてほしかった。しかし、訴訟においては協力的だったので、感謝している。
358	知っていれば別だが、逆に、被害者という人もいると思える。
359	出血時にこの製剤を使用して、本当に効果があると思っていたのか、それとも、金もうけのために使用していたのか。人の命を何とも思わない、本当に無責任な行為だったと、今でも医師を怨む気持ちでいっぱいだ。
360	もし記憶があるのならば、色々な意味で協力してほしい。
361	当時、出血多量で出産した病院（使用した病院）から、私と同じように転院させられた方がいた記憶がある。止血効果がないと思わなかったのか？
362	説明や同意を得ずに使用したこと、感染後も使用した事実について、一切説明がなかったこと、又、止血後に投与したこと。418リストに該当しているので、医師には強い怒りをもっている。1988年回収された時点で、投与の事実を告知してほしい。謝罪してほしい。
363	隠さず何事も説明してほしい。先生としての自覚がない。
364	特に恨んでいません。
365	医師も医薬品を学んでほしい。薬害という認識を学んでほしい。
366	詳しい説明がなかった。書留で思いをぶつけたのに、返事をくれなかった。
367	早くから投与の事実を告げられ、検査も勧めてくれたお陰で、治療もうけることができ、裁判にも参加できたことを感謝しているが、フィブリノゲン投与については、当時としては、仕方がなかったのかもしれないが、避けてほしかった。
368	30年前は、使用した医者も止血剤として、フィブリノゲンしかなかったもので、使用したのではないかと思います。
369	命をもらったと思えば、何とも言えないが、証明を受取に行った時、副院長より、「あなたもやっかいな事になりましたね。一生もんですね」との言葉。何を考えているのかと思った。
370	何の説明もないまま使用され、その後全く対応がなかったので、憤りを感じています。
371	その時は、フィブリノゲン製剤で止血できると思われていたので、仕方がないと思う。
372	昔は止血剤として医者の判断で使用したのだが、その時点で、病院側は分からなかったのだろう。患者はとても悔しい。
373	その先生が一番悪いとは言いませんが、ミドリ十字の●●には、ひとこと言いたかった。自分もフィブリノゲンを投与してみると！
374	出産後、肝炎であると内科で告知され、その直後に、産科の主治医に肝炎であると報告したにもかかわらず、後で分かった事ですが、私の後からも同じ産婦人科で感染者がでた事を知り、なぜ、主治医はその時慎重に対処できなかったのかと、悔しくも残念に思う。
375	使用にはもっと慎重になってほしかった。
376	医師に対しては、私の命の恩人でもありますので、使用した事に関しては、何も感じません。しかし、副作用があるのなら、説明はしてほしい。
377	使用した時の説明が、されていないのは許せない（ウイルス感染について）。
378	使用する前にリスクがあること、使用するというのを、親に知らせてほしかった。
379	恨んでいない。

No	問6-2 フィブリノゲン製剤を知らない第Ⅸ因子製剤を使用した医師に対して
380	医師も私に対して、必ず助けるとの思いがあったと思う。でも、F3まで肝炎が進んだ。誰を憎むのか？運命としか言えない。先生、カルテの保存ありがとうございます。
381	血液製剤を使用した事を、早く伝えてほしかったです。
382	当時、厚労省は、使用しない時期になっていたのに、どうして使用したのか、聞いてみたい。別の止血法はなかったのか？
383	当時はその治療が最良だと、医師がしたことなので、悪くは思っていない。ただ、その報告をされていなかったの、それは？だと思います。
384	汚染された血液製剤と知らずに使われたと信じたい気持ちです。
385	本人ないし家族に一言説明してほしかったと思う。
386	命を救うために使用したと思います。あの時は、仕方がなかったと思います。
387	仕方がない。
388	危険なフィブリノゲンをどうして使用したのか？使用したならば、最後まで責任を持って。平成元年12月に、なぜまだ病院に薬が残っていたのか？どうしても知りたい。
389	使用したことでC型肝炎に感染するのが分かっていたら、使用しなかったら、病院側もある意味被害者ではないだろうかとも思う。
390	止血剤として投与され、止血しないと助からなかったの、先生に対しては何もないです。
391	感染の危険性を、真剣に考えてほしかった。
392	近所にずっと住んでいたのに、若い時は引っ越しもするが、もうちょっと本籍とかで、早く私を捜してほしかった。
393	命を救われたことに間違いはありません。あの時手術をしなければ、現在の私はありません。
394	使用された時期において、止血目的の使用（大量の輸血と最初の手術の次の日に再度開胸された）だったので、仕方がないと思う。病院において、フィブリノゲンが常用されていた？
395	製薬会社にしっかり確認をとり、本当にすべて大丈夫と確認を。又、国はそのことを把握して許可しているのかを確認してから、使用してほしい。
396	全国的に協力をお願いしたい。
397	先生は、薬や注射を理解して使うべき。患者は誰を頼ればいいのかでしょう。
398	フィブリノゲン製剤を使われて3ヶ月後には、C型肝炎に感染が判明していたので、早く説明してほしかった。
399	出産時、出血が止まらなくて、製剤を投与しなければいけない状態で投与されたのは、やむを得ないのですが、その後すぐに内科専門医に紹介してほしかったです。
400	その当時、フィブリノゲン製剤を使った医師は、本当に危険だと知らなかったのか？それが知りたかったです。
401	リスクの説明をして、使用してほしかった。当時、肝炎の情報は医療機関全体に十分行き渡っていなかったが、エイズの可能性などの肝炎リスクは、情報としてあったはずなので。
402	自分の医師に対しては、あまり恨みはありません。結果、こうなってしまったということです。
403	医師は第Ⅸ因子製剤を使用したことを、知らせてほしかった。
404	出産の何日前に、フィブリノゲン製剤をしなくてはいけなかったんだろうかと、今でも思っています。出産時に出血が多かったら、フィブリノゲンを投与すれば良かったのではないかと思います。
405	許せない。
406	やむなし。
407	前もって説明してほしかった。

No.	問6-2 フィブリノゲン製剤ないし第Ⅷ因子製剤を使用した医師に対して
408	使用時は効果があると思って使用したのでしょうし、カルテのことで連絡した時、すぐに快くカルテを送って下さったので、悪い感情はありません。
409	3年前に、医師からフィブリノゲンを使用したと説明があり、もっと早く説明してほしい。
410	S62年当時は仕方がないことで、医師に対しては何とも思わない。かえって、原告としての訴訟に協力してもらい、有り難いと思っている。
411	37年前長女を出産する際に、出血多量で危険な状態だったそうで、フィブリノゲン製剤を投与されたことで、C型肝炎になりました。その時代では、フィブリノゲンはきちんと説明されていなかったもので、医師も知らなくて使用したのではと思っています。そのため、このような事が二度と起きないように、宜しくお願いします。
412	双胎弛緩出血、膈壁裂傷で出血が多く、生死をさまよいました。医師のおかげで子供の成長を見ることができました。助けていただき、とても感謝しています。
413	薬剤を使う時は、副作用に対して慎重であってほしい。
414	悪い感情は持っていません。現在もお元気で仕事をしておられ、カルテはなくなりましたが、その時の事を思い出して下さり、協力的で感謝しています。
415	帝王切開手術をし、DICを起こし、当時止血のためには仕方がないと思っている。その頃、フィブリノゲンが禁止されていた事が問題。
416	今後、絶対に薬害が起きないようにして下さい。
417	何とも言えない。
418	その当時は、医師も必要な薬として使用していたはずなので、仕方がない。しかし、フィブリノゲンを使用した患者をきちんと調べて、知らせるべき。まだまだカルテがなく困っている人は多い。
419	その当時は、分からなかったのではないかな。
420	その時は、安全だと思われていたのだから、仕方がない事だったのかな。
421	私の命を救うためだったと思う。
422	使用時は命に関わる状態だったので、仕方がなかったと思います。助けてもらったことには、感謝しております。
423	なぜ、私が薬害を受ける運命なのか？製剤を使わなければ、本当に命にかかわったのか？などの疑問を持ち続けていましたが（感染発覚当時）、医師は定期的な血液検査等のフォローができていたので、すぐに感染を見つけることができ、完治（早期治療）につながったので、今となっては、感謝しているくらいです。投与の証明もすぐに書いてくれました。
424	医師に対しては、その当時では仕方がなかったのだと思います。
425	その当時の医師は、自信を持ってフィブリノゲンを投与した。今はフィブリノゲンを投与した事を、自信を持って肝炎患者1人1人に事実を言ってほしい。
426	説明は何もされていなかったもので、手術の前日に話してほしい。使用した場合は、何か症状が出るのか。その後治療をしてほしい。
427	当時としては、仕方がなかったと思います。
428	出産時の多量出血による生死に関わる状態の中での緊急処置でしたから、命が救われたことへの感謝だけでした（昭和42年当時）。
429	製薬会社から症状に効くと聞かされて、使ったのだと信じています。実際使われた時期は、とても良くしていただきましたので。
430	35年前は、医学的に仕方がなかったが、その後の責任追及をしてほしい。
431	使用された時がかなり前なので、やむを得なかったと思います（S42年使用）。臆気な意識の中で、「この薬があつて良かったね」と言う医師と看護師さんの声を聞きました。当時は、止血剤としては役に立ったのだと思います。
432	私の場合、出産した病院の先生の良心的な配慮で、20年前のカルテが残されていたため、和解ができたことが、ありがたく思っています。



No.	問6-2 フィブリノゲン製剤を用いた止血剤を使用した医師に対して
433	その時は仕方がなかったと思う。今生きていることの方がうれしい。
434	先生には、すでに3人の子を取りあげてもらっていた。死産により大量出血で、出血が止まらず、輸血と止血剤が使われた。母体を助けるために使用された。その時は、命を助けてもらったと思っていた。その後、肝炎になった事はとてもショックだったが、特に、先生には何も言うことはない。
435	当時の処置としては適切だったと思う。やむを得ない。担当医師も薬害だとは知り得なかったしだから・・・。
436	問題が生じた時の対応など、早急にしてほしい。責任感。
437	手術のため使ったのは理解できますが、他の止血剤ではだめだったのだろうか。命を救ってもらったのは、感謝しています。
438	当時としては、仕方がないと思う。
439	薬剤を使用する時に、副作用、危険度を認識してほしい。
440	出産のとき、出血を止めるのに、最善を尽くしてもらえたのだと思うので、仕方がないことだと思います。
441	「人の命の重さ」「人の気持ち」等々考え、倫理観を持ってほしい。自分の家族、大切な人（親兄弟、子供等）が、このような被害を受け、人生が大きく悲しい方向へ転がっていきといたら、自分は思うかを（同じ医療従事者として）、倫理観と共に深く反省し、これ以上被害者が出ないようにしてほしい。
442	医師に対しては、病気を治していただいたことについて、感謝しています。
443	使用する以外、命が助からない状況だったと思うので、仕方がなかったと思います。
444	今、病気になったことをとやかく言っても、仕方がない。その時の医者の判断も、苦しかったと思う（はがゆい時もあるけれど・・・）。ただ、命を救ってくれ、現在この世にいる幸せはある。
445	私はあと何年生きることができるのでしょうか？あと何年薬を飲むの？病院はいつまで行ったらいいの？不安な毎日です。この気持ち、わかりますか？
446	当時は、止血剤としてそれを使用しなければ、命が助けられなかったのだから、仕方がないと思う。
447	生まれてすぐに出血しており、止血剤としてクリスマシンを投与されたので、未熟児だったこともあり、今、自分が生きているのは、その止血剤のおかげかなと思うので、肝炎になったことは、命と引き替えだったということを受け入れています。
448	他の薬を使用できなかったのか。とても残念です。
449	安全性の確認をしてほしかった。患者は医師に命を預けているのです。
450	医師に責任はなかったとしても、初めて説明を受ける際に、今後何かあっても関わりはないと言われたことを撤回してほしい。無理に書類に印、記入させられた。
451	止血のため、命を守るために使用したので、医師に対しては特にはない。医師も被害者であると思う。
452	緊急を要した深夜の出来事とはいえ、家族に連絡してから投与してほしかった。医療的には、当時の産科として精一杯の事をしてくれた。
453	処方した医師には、全く問題はない。
454	別になし。私なりに調べた結果、当時はフィブリノゲン製剤を使用しなかった医師に対して、厚労省が賠償金を課せていた事実があるから。
455	医師に対しては、全く怒りなどは感じていません。生まれたばかりの私を生かして下さって、ありがとうございますという気持ちのみです。
456	医師は使用する薬剤の効果を十分に確認して、患者に使用してもらいたい。
457	安全性を確認してから使用してほしい。
458	薬に副作用があると承知の上ならば、その後のケアについても責任を持ち、使用してほしい。
459	仕方がないと思います。

No.	問6-2 ファブリノゲン製剤ないし因子製剤を使用した医師に対して
460	医師には出産時や出産後、よくしていただいた。出産後の1ヶ月検診の結果が悪いのを、すぐに電話で知らせて下さり、紹介状をもらい、入院となった。
461	ちょっとした異変にも声をあげてほしい。
462	許さない！！という気持ちはあるが、汚染された血液製剤と知らなかったなら、しょうがない気持ちもある。
463	説明がもっとあってもよかつたのでは。母子手帳にも記載してほしかった。
464	命に関わる病気を助けていただいて、感謝しています。その当時は、使用することによる悪影響は、分かっていたかと思っています。
465	きちんとした説明の上で、理解を得てから使用してほしい。
466	なぜ？命を守るため？
467	先生は知らずに使用したので、仕方がないと思いますが、私自身も、カルテに記入されているのを見て実感しました。
468	その時は仕方がないことであると思う。
469	出血が多かったため、やむをえなかったと思います。使用后、強肝剤の点滴を続けてもらい、ありがたかったです。
470	当時はわからなかったことかもしれませんが、慎重に治療してほしかった。使用したことを、なぜ今まで隠していたのか。早く告白してほしかった。
471	仕方がないことだったかもしれないが、それ以前に大量出血をおこした原因の方が知りたかった。しかし、助かった命に対して感謝の気持ちも強いので、目をつぶってきた。ふりかえりたくない思いも強い。

# 薬害C型肝炎の被害実態に関する調査 (ご遺族様)

## 《目次》

	ページ
自由記述「ご意見、ご感想」	3
各設問の「その他」欄への自由記述	
問1-5 職業-その他	5
問1-6 同居者-その他	5
問2-7 感染原因の薬剤投与を受けた理由-その他	6
問2-7-1 感染原因の薬剤投与を受けた外科的手術	6
問2-9 肝炎と診断された頃、身の回りの世話をしていた人-その他	8
問2-11 肝炎診断確定時の症状-その他	8
問2-12 受けた治療-肝癌に対する治療	9
問2-12 受けた治療-その他	9
問3-1 故人の闘病中に故人から相談をうけたこと-その他	10
問3-1-1 相談を受けた内容	10
問3-2 故人が肝炎に感染していることを知ったときのあなたの気持ち-その他	13
問3-3 故人が闘病している時のあなたの気持ち-その他	13
問3-4 故人の闘病中から死亡に至るまでのあなたの行動-その他	14
問3-5 故人の病気に関して感じたこと-その他	14
問4-1-1 故人が亡くなられた後の変化	15
問6-1 故人に関することで経験したこと-その他	17
問6-1-1 故人に関することで経験した内容	17
問6-2 肝炎判明後に生じた問題-その他	18
問6-4-2 故人が肝炎に感染したことに対して、あなたがした行動-その他	18
問7-3 医師に対して	19
問7-3 国に対して	21
問7-3 製薬会社に対して	23

## 《注》

本資料は、原則として、記載内容をそのまま転記した。但し、誤字・脱字等については訂正した。  
固有名詞は、プライバシー保護のため、実名公表で住所・氏名記載部分も含め伏字とさせていただいた。

## ● 自由記述

ご意見、ご感想

No	ご意見、ご感想
1	皆さん完治されることを願いますが、私は、C型肝炎で姉と弟の2人を亡くしました。今生きていれば、良い治療が受けられたのではと思うと、とても残念です。アンケートを書きながら、姉と弟の闘病生活や最後の時が思い出され、とても辛い思い出でした。姉はよく「私は金食い虫なの」と言っていました。経済的にも大変でした。これからは治療が続く方達が、少しでも軽減があることを願います。尚、私自身体調がすぐれないので、アンケートに関しても苦痛を伴いました。活動もできずに、申し訳なく思っています。書類が郵送されることに、何だろうと不安になってしまいます。早く良くなりたいと思っていますのですが・・・。
2	私は患者ではなく、闘病する患者を支える側の立場だったので、同じ立場の人に対しての思いが強いです。患者が重病化し、苦しみを訴え、自分の無力さに空しくなったりする時もあると思います。介護に疲れて、自身の生活もままならなくなる時もあると思いますが、同じ立場の人や同じ介護を経験した人も沢山います。どのような形であれ、必ずトンネルの出口は見えてきます。その日まで、自分を見失うことなく頑張ってください。
3	手術記録書は、カルテと違って一定期間で廃棄されないことが判った。40年残っている場合がある。
4	この世に姿がなくなったら、どうしてあげることもできません。1日でも早く快復するよう、いろいろ不自由があるかもしれませんが、自身も努力され、生きる事に執着して下さい。家族が一番患者を大切に思っているのです。医学は日進月歩です。絶対に諦めないことが大切です。
5	夫が活着ている間に、もっと早く事実が明らかになっていたらと・・・複雑な思いでいっぱいです。今も薬害で苦しんでおられる方の救済を、一日も早くお願いします。
6	薬害肝炎の患者さんには、明るい光がさしつあると思います。頑張って長生きしていれば、きっと良い未来があると思います。
7	看病する立場から、患者の状況、看病経験の実体験を1冊の本にまとめて発表すれば（本を作って出版）、多くの人々に理解が得られて、役立つと考えており、私自身が原稿を書きたいと思っている。現在検討中である。闘病中の人々の声も書き入れたいが、応募方法は弁護士の方をお願いしたい。東京弁護士会として発行することを望む。
8	父は、22年前の心臓バイパス手術時の止血剤（凝固因子）の投与で、C型肝炎に感染しました。手術直後にすぐに分かりましたが、その後の闘病生活で、治療に保障がなかったため、十分な治療を受けられず、徐々に悪化し、7年前無念の思いで他界してしまいました。その後、弁護士、原告団、有志の方々の力の結集で、保障を勝ち取りましたが、まだ満足するものではありません。段階的に、今後も戦いは続きます。又、カルテ、資料が見つからず、保障を受けられない方もいます。諦めず、弁護士に相談して下さい。道は見つかると思います。共に頑張りましょう。
9	今後もこのような調査を続けていただき、その患者さんや家族の状況等を把握して、適切なご支援をお願いします。
10	患者はびくびくして毎日を送っているから、周りの人が気を使って、なるべく安心するようにしてあげて下さい。私の妻はC型、肝硬変、肝癌と長い間闘病していましたが、51才で死亡しました。その間は大変な闘病生活でした。二度とこういう事がないようにしてほしいです。

● 各設問の「その他」欄への自由記述

問1-5 職業-その他

No	問1-5 職業-その他
1	会社経営

問1-6 同居者-その他

No	問1-6 同居者-その他
1	孫
2	孫

問2-7 感染原因の薬剤投与を受けた理由-その他

No.	問2-7 感染原因の薬剤投与を受けた理由-その他
1	骨髄性白血病治療時の輸血

問2-7-1 感染原因の薬剤投与を受けた外科的手術

No.	問2-7-1 感染原因の薬剤投与を受けた外科的手術
1	上行大動脈人工血管置換術
2	狭心症のバイパス手術
3	心臓バイパス手術
4	十二指腸潰瘍
5	心臓弁膜症
6	心臓バイパス手術
7	大動脈弁閉鎖不全狭窄症、うっ血性心不全、大動脈弁置換手術
8	心臓
9	右卵管角切除術
10	冠動脈バイパス手術
11	連合弁膜症（弁置換）
12	心臓バイパス
13	解離性動脈瘤
14	冠動脈バイパス術
15	腸の憩室炎
16	食堂腫瘍
17	バイパス手術
18	腹部大動脈瘤破裂
19	心臓
20	胆のう摘出術
21	大動脈弁下狭窄症
22	心臓バイパス
23	心臓バイパス
24	心臓
25	僧帽弁人工弁置換術
26	心臓
27	心臓バイパス
28	心臓バイパス



No	図 2-7-1 心臓病の診断と治療を受けがちな病名
29	心筋梗塞でバイパスを造る
30	バイパス手術
31	膿胸
32	総胆管結石
33	心臓バイパス手術
34	頸椎血管腫
35	胃潰瘍
36	心臓弁膜症
37	乳癌
38	心臓
39	胃潰瘍

問2-9 肝炎と診断された頃、身の回りの世話をしていた人-その他

No	問2-9 肝炎と診断された頃、身の回りの世話をしていた人-その他
1	故人の父母
2	故人の嫁
3	孫
4	母

問2-11 肝炎診断確定時の症状-その他

No	問2-11 肝炎診断確定時の症状-その他
1	黄疸が全身に出た、目も真っ黄色
2	吐き気、全ての臭いが気になる
3	出血傾向あり
4	食欲不振
5	食欲不振
6	食欲がない
7	腹が膨らんでいるので、常に撫でていた
8	全身のかゆみ
9	身体全体のむずかゆさ（虫がはっている）、腹部の膨満感、コーラのような泡状の尿
10	高血圧
11	腹水
12	腹水が溜まっていた
13	黄疸

問2-12 受けた治療-肝癌に対する治療

No.	問2-12 受けた治療-肝癌に対する治療
1	エタノール塞栓治療、初期はレーザー
2	手術をする、肝動注両方
3	ラジオ波
4	冠動脈塞栓術、放射線
5	ラジオ波、カテーテル、放射線
6	カテーテルによる治療
7	カテーテル治療

問2-12 受けた治療-その他

No.	問2-12 受けた治療-その他
1	プロマック
2	エタノール療法

問3-1 故人の闘病中に故人から相談を受けたこと-その他

No	問3-1 故人の闘病中に故人から相談を受けたこと-その他
1	重い肝炎だったので、仕事に戻れない事を本人はショックを受けていた。経済面は、姉の私と同居していたので、心配はしていなかったと思う。

問3-1-1 相談を受けた内容

No	問3-1の回答	その内容
1	1. 病気	心臓の術後、肝炎になった理由不明
2	1. 病気	悪くなるばかりなので、自殺した方がいいと話していました
3	1. 病気	会社に復帰できるかどうか、仕事ができるかどうか心配でした
4	1. 病気	疲れやすい体質となったこと
5	1. 病気	肝炎に対する病気の不安について
6	1. 病気	薬を飲んだり、治療を受けているのに体調があまり良くならない。何故なんだろう。
7	1. 病気	なかなか良くならないので、病院の先生が何か言っていなかったかと私に聞いてきました。本人は何で治らないのかわからないので不安だったと思います。
8	1. 病気	効果的な治療法や根治できるのかなどの悩みなど。感染経路が不明などのいらだちを訴えることも多かった。
9	1. 病気	元々の病気が治ったのに、肝炎になってしまったことを悔やんでいた。
10	1. 病気	いつも気持ちが不安になっていた
11	1. 病気	術後、創部が感染し、通院するもなかなか完治しないことがかなり不安だった。
12	1. 病気	進行状態を気にしていた。
13	1. 病気	医師からの説明を知らせてくれ、治療方法とか今後たぶん迎るであろう将来を聞かされました。
14	1. 病気	肝臓が悪くなった現員が思い当たらず困っていた。入院、通院の辛さ。
15	1. 病気	常に前向きでしたが、肝がんが再発する度に気弱さが目立っていた。他人の前では常に明るい人であった。
16	1. 病気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あとどのくらい生きられるか。</li> <li>・私だけが何故C型肝炎にかかってしまったのか。</li> <li>・苦しくてもう死にたい、耐えられない。</li> </ul>
17	1. 病気	初期の頃は完治するものだと思い、それほど思い詰めてはいなかった。故人は前向きに治療し、医師の説明にもノートを取り、肝炎に対して勉強していた。
18	1. 病気	食事療法
19	1. 病気	病気に関しては自分で家庭の医学書を読んできたみたいで、何回が言っていたことがあった。
20	1. 病気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝癌への移行</li> <li>・家族への感染</li> </ul>
21	1. 病気	血液での感染があるので、故人のカミソリなど使うなよ！
22	2. 経済的なこと	長期入院で給料が減額になるかも。
23	2. 経済的なこと	今の状態がいつまで続くことができるかと。

No	信 1 の回答	その内容
24	2. 経済的なこと	子どもが中学・高校生だったので、進学問題で悩みました。
25	2. 経済的なこと	今後の生活に対する不安
26	2. 経済的なこと	入院や手術等が長引いたら大丈夫か心配していました。
27	2. 経済的なこと	私もパートに行っていましたので、心配ないと安心させていました。
28	2. 経済的なこと	肝炎が重症化し、仕事も辞めざるを得なかったため、治療費、民間薬の購入費等の援助を頼まれることが多くなった。
29	2. 経済的なこと	晩年2年は仕事に行けなくなったので、預金を使い果たした。
30	2. 経済的なこと	入院、手術により多額の医療費が重なり、退院後はC型肝炎感染により費用がかかった。子どもの結婚も重なり、出費が多かった。
31	2. 経済的なこと	子どもの養育について心配していた。
32	2. 経済的なこと	成長期の子どもにかかる教育費は重く本人にのしかかり、病気を抱えて大変であった。治療にも同じである。
33	2. 経済的なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何十回も入院するので、毎月の高額医療費を気にしていた。</li> <li>・兄弟、姉妹にも迷惑をかけたこと。</li> </ul>
34	2. 経済的なこと	入院中は給与が出なかったので経済的に苦しく、保健からの給付金でまかっていた。
35	2. 経済的なこと	インターフェロン治療は予算の都合上無理。しかし、受けたい。
36	2. 経済的なこと	医療費の負担、交通費。
37	2. 経済的なこと	今まで二人で働いて家のローンなどを返していたのにごめんねと言っていた。これからは入院費もいると言っていた。
38	2. 経済的なこと	常勤仕事をやめ、不動産アルバイト（友人）の手伝いで生計を立てていた。
39	3. 家族関係	子どもにうつるのではないかと、自分でさわったところ（ドアノブ）など消毒でふいて気をつけていました。
40	3. 家族関係	父（故人）は近くに住んでいたが、介護などで負担をかけることを気にしていた。
41	3. 家族関係	娘の結婚も見届けないと残念がっていた。
42	3. 家族関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものことが心配。</li> <li>・孫の面倒がみられない。</li> <li>・お父さんばかりに苦勞させること。</li> </ul>
43	3. 家族関係	相談ではなく、お茶を飲みながら姉、弟仲良くやってくれるのが一番うれしいと話していた。
44	3. 家族関係	肝炎が子どもにうつらないか心配だった。孫が産まれる時、子どもにも孫にも検査をさせた。独立した子どもに心配かけまいと努力していた。
45	3. 家族関係	息子の結婚について
46	3. 家族関係	経済的に苦しく離婚した。
47	4. 差別や偏見	回りが田んぼで、団地なので噂がすぐ広がるので話さないようにしていた。
48	4. 差別や偏見	肝炎である原因がアルコールだと言う人がいて、お酒が好きだったので誤解されたことがあった。
49	5. 育児・家事	カロリー計算しても食事が進まないの、自分の好きなものを食べてしまう。
50	5. 育児・家事	一切手伝えることができない。子どもを連れて外出が困難。

No	同3-1の回答	その内容
51	5. 育児・家事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養士からの指導もあり、食事の関係について。</li> <li>・料理の作り方を妻から何回も教えられる。</li> </ul>
52	5. 育児・家事	ちょうど入退院を繰り返している時が娘の高校受験と重なり、お願いねと言っていた。
53	6. その他	4～5年目位から、会社へは戻れないと思うようになり、生きる事に対して気持ちが弱くなっていた。姉の私が、「病気を持っていても、良い人生を送るように」と言っても、本人の体の事はよく分かっていたのか、諦めの人生（日々）を送っていた。
54	6. その他	人生の2/3は入院の繰り返しで、職場での精神的苦悩があったようです。
55	6. その他	夫の私は、料理の事は全く知らなかったが、自宅療養の折りは、何種類も妻から料理を教わり、お陰で今は、独身の老体にむち打って、妻から教わった料理を作って、生き延びている。感謝、感謝である。
56	6. その他	死に関する事

問3-2 故人が肝炎に感染していることを知ったときのあなたの気持ち—その他

No	問3-2 故人が肝炎に感染していることを知ったときのあなたの気持ち—その他
1	あくまでも輸血によるものだと思っていたが、数年後、旧ミドリ十字の血液製剤が原因では?と考えるようになった。フェブリノゲンという名称は昨年知った。
2	強いショックを受け、病院勤務の友人からC型肝炎の資料をもらい、勉強した。食事にも気を使った。
3	病院の先生は、「C型肝炎は治らない。慢性肝炎だと思って、気長に治療するように」と言って下さいました。そのうちに、きっと良くなると信じていました。
4	故人もそうでしたが、私もなぜ肝炎に感染したのかが全く分からなかった。肝炎と聞いて、自分自身も故人から感染するのでは?との思いもあった。治療法も治療薬も何も知識がなく、今後病気がどう進行していくのかが、一番心配でした。
5	当時、私は肝炎という言葉も知らず、命に関わる病気、これが薬害であることも知らず、もっと情報があつたらと、今現在においても悔いが残っています。
6	S63年4月、胃潰瘍で吐血した時、フィブリノゲンを10本投与され、1ヶ月後に黄疸の症状が出た。本屋で肝炎の本を求めて読んだら、非A型、非B型と書いてあり、それが始めてでした。

問3-3 故人が闘病している時のあなたの気持ち—その他

No	問3-3 故人が闘病している時のあなたの気持ち—その他
1	肝炎→肝硬変(10年)→肝癌(3年)→死亡。入退院を繰り返していたので、最後に入院した折りも、退院できると思っていました。
2	入退院を繰り返していたので、体調が悪い時は顔色もくすんで悪く、常にどの位生きられるんだろうと思う気持ちで、気のゆるむ時がなかった。
3	主人は入退院を繰り返した。会社に出勤しても、月に2、3度は休んで病院。10年程は病気と闘って、家族に気を使い、会社に気を使って可哀相でした。もし、会社から「退社したら」と肩たたきがあればどうしようと、心細い事も言っていました。亡くなる2週間前お腹に水がたまり、その治療を始めようとする前に、突然吐血し、気を失ったまま亡くなってしまいました。私も子供達も、病気と闘っているばかりのお父さん、病気が良くなったらと、かすかな希望を持ちながら果たせなくて、とても残念としか言えません。病院からいただいた薬を、絶対安全だと信じて飲んでいました。その薬が原因で、亡くなったとは信じられませんでした。
4	倦怠感や食欲不振をよく訴え、病気について自分の置かれている状況など、よく聞かされていたが、私としては、話を聞いてやるくらいしかできず、時には口論になったりすることもあったが、後で空しくなり、介護している自分もどうして良いか分からず、悩んでいた。
5	私にできることはしましたが、本人の苦しさを取り除くことはできなかったと思います。それが、私の気持ちの中に今も残っています。
6	多分知っていたであろう死期を、私たちに感じられないように、いつも普通に淡々と生活していた主人を見ていて、いつもありがとうと感謝の気持ちでしたが、私が自分の事、子供の事など将来の事を考え、イライラして、つい病人であることを忘れて、辛くあたってしまった事もありました。20余年沢山の事を考えました。どのように書けばいいのか、まとまりません。アンケートを読んでも、涙が止まりません。
7	常に前向きであった本人が、子供の成長だけを楽しみに頑張っている姿を見て、本当に救えるものなら救ってあげたい。助かる命を見過ごしたと思うと、悔しさと悲しみで、今もなお悔いが残っている。
8	故人が少しでも気持ちが安らぐように、和紙の古典折り紙の手習いをして、現代的な和紙押し絵をデザインから始めて、作品の完成まで、故人独自作品で190点、古典折り紙は90点。展示会場に展示して好評を得る。来場者の要請があり、残った遺作品は20点のみ。一生懸命故人が、病気の事を忘れ作品を作る姿を見るにつけ、どうか妻の病気が少しでも良くなってほしいと、1人手を合わせ涙をこらえていた。他界する2年程前までの生活であり、私も仕事を辞して専門に看病した。
9	肝炎から慢性肝炎、そして、肝硬変、肝癌となり、その症状は少しずつ重病になり、故人もそれを時々心配していました。

問3-4 故人の闘病中から死亡に至るまでのあなたの行動-その他

No.	問3-4 故人の闘病中から死亡に至るまでのあなたの行動-その他
1	入院の時は、朝早くから夕方まで病院で付きっきり。亡くなる3日前からは、泊まりがけでした。
2	1人の生活は無理だと医師から言われ、姉の私と同居していた。私が自営だったので、経済的にも100%面倒をみた。入院費もかかったが、通院も特急とタクシー、又は、タクシー（亶理～仙台の病院）だったので、お金が大変でした。私が働いていなかったら、どうだったのかと思う。
3	毎日、地下鉄の定期券を買って病院へ、仕事が終わると行っていました。ちっともしんどいとは思わず、当たり前のよに思っていました。80才の母の面倒もみなければならないし、子供達はまだ学校だったし、私もよく頑張ったなあと、今になって自分に感心しました。
4	闘病中から亡くなるまで、何度も入退院を繰り返していたが、私自身も仕事、家庭を持ち、職場-病院-帰宅の毎日、正直、このような毎日がいつまで続くのかと不安だった。故人は私以外に身寄りがなく、結果、私が毎日病院に通う状況でした。
5	入院中は、できるだけ多くの時間を付き添いに充てた。又、家族全員子供等夫婦交替で見守った。
6	度々のラジオ波焼灼術や肝動脈塞栓術の繰り返しで、入退院をしていました。術後、病室へ帰った姿を見て、何度涙を流したか、数えきれません。でも、主人の事を思うと、頑張ろうと自分に言い聞かせていました。最後の手術になった2009年8月、本人は知りませんでしたが、家族は告知されていて、でも普段と変わりなく接していたのがとても辛かった。退院の3日前、ロビーから携帯電話で「母ちゃんありがとう、一杯一杯ありがとう」と言って切れた。本人はもう死を覚悟していたのかも知れませんでした。私達は、普通以上に仲の良い夫婦だったと思いますし、子供達もそう言ってくれます。でも、もう主人はいません。こんなに悲しいことは、誰にも味わってもらいたくありません。私の正直な気持ちです。
7	日々苦しそうな姿を見ていたので、呼ばれた時、すぐに行けるように、常に主人のそばにいることを心掛けていました。
8	同居であったので、自分も一緒に入院、通院で、行動は一緒でした。

問3-5 故人の病気に関して感じたこと-その他

No.	問3-5 故人の病気に関して感じたこと-その他
1	私は、仕事よりも命を大切にという考え方だったので、介護を優先したつもりなので、弟の世話は十分できたと思う。
2	病院には、私たちよりももっと辛そうな人達がたくさんいらっしゃいます。しんどいのは自分だけじゃない。そのうちにきっと良くなる。主人も私もそう信じていたので、あまり悲観的にはなりません。
3	病気について、2人で相談していた。これからのことが、いつも心配であった。
4	近い将来、必ず新薬が開発されると、2人でよく話していました。度々の検査で、医者から肝臓以外は正常ですと、言われていたと聞いています。
5	家族、親族にまったく知らされず、転院した病院で状態を知った。亡くなるまで1ヶ月余りだった。何もかも不信感だけが今も残っている。
6	妹2人が、看病で疲れる私を応援してくれた。子供2人も同様である。
7	自分自身も病人のため、看病するのが大変だった。
8	自営業であったため、故人も体調が悪いながら、他人を頼んで仕事をしていたが、それも難しくなり、仕事を辞めざるを得ない状況でした。
9	1ヶ月ほど会社の休みを取って、妻の看病に専念したし、親戚の人も交替で面倒を見てくれたし、病院の先生、看護師さんも良くしてくれたので、大変良かったと思う。



問4-1-1 故人が亡くなられた後の変化

No	問4-1-1 故人が亡くなられた後の変化
1	約22年間看病していて、家族の苦労は大変でした。特に、故人の母親は、死後精神的に落ち込み、現在も続いている。
2	配偶者のケアが大変であった。
3	夫婦は、車の両輪のように支え合って生きていますので、何かにつけて充実感に欠け、空しさを感じるがあります。現在は、一人暮らしにも慣れ、友も多く楽しんでいます。
4	姉の私がうつになり、現在も通院している。
5	一家の大黒柱を失い、収入面や家族を養う責任を感じ、不安となった。
6	1人で子供の世話をしなければならなくなった。
7	気持ちの変化が一番大きい。介護から解放された思いと、虚無感。実生活では、やっと自分の時間が持てるようになった。
8	亡くなって半年ほど経った頃、急に泣けてきたり、将来のことが不安になって、夜眠れないことが多くなった。
9	故人の苦しみを見ている私は、何もする気にならず、取り残された気持ちと、何故という気持ちが今もある。
10	子供との関係が疎遠になった。
11	寂しさ、悲しみはもちろんのことですが、家族が何らかによって感染していないだろうかと不安があり、検査したこともありました。
12	経済面で困った。
13	当分不眠が続きましたが、少しずつ眠れるようになっていきます。子供達とも絆が、以前より増して強くなったように思えます。廻りに人に迷惑をかけないようにと、以前にも増して健康に注意するようになったと思います。家事以外は主人に頼ることが多かったので、その点苦労しています。
14	経済的問題と精神的な支えを失い、又、主人の両親を支えていくことになった。
15	当然のことですが、眠れない日々が続きました。
16	孤独感。家事仕事の大変さを痛感しました。
17	故人と2人家族でしたので、私が1人になるのを心配した二男が家に帰り、私と生活するようになりました。
18	突然の死でびっくりした。
19	故人の配偶者が、介護の疲れ等で精神的に不安定になり、薬を多用したため、副作用により一時体調を崩した。
20	親子がバラバラになってしまった。故人が存命中は、豊かとは言えないが、笑いの絶えない一家であった。今でも、母親の死が自分を生んだせいだと思っている子供。何とか自分の肝臓移植で、母親を助けたいと思っていた子供。しかし、当時の主治医は、そのことを尋ねた子供に、4,000万円かかると言った。子供は失意でいっぱいの日々を過ごしたと思う。未だに母を思う子供が哀れであり、悲しみの傷は癒えることはありません。
21	妻を失って独身生活が身に付き、何事も即断即決、行動に直ぐ移す。薬草の研究と古典文学の勉強を73才の老体が、病院での治療を併用して行っている。それに、●●●●●●の専任講師もしている(●●●関係)。妻を失って7回忌の私の生活状況である。
22	家族の中心であった主人が亡くなり、私や子供達の悲しみは、月日が経っても癒えることはない。和解成立し、給付金もいただきましたが、これからの人生を考えると、不安で仕方がない。
23	失意。今もずっと尾を引いている。
24	1人暮らしになったため、1人息子が(離れている)ほとんど毎晩電話して、土曜日はよく帰ってきてくれるようです。
25	娘が精神的に不安定になった。
26	51才という若さで亡くなったので、とても淋しかった。いつときは、毎晩のように1人で泣いていました。

No.	調査項目 第4-1-1 他人が亡くなられた後の変化
27	配偶者（父）が気落ちした。
28	家事を含め、子供の育成。特に食事。

問6-1 故人に関することで経験したこと-その他

No.	問6-1 故人に関することで経験したこと-その他
1	弟が最後の入院になった時、主治医は弟のそばに一度も来なかった。ドアを開けてのぞくだけで、肝炎が移るのを避けたのだと思った。
2	医薬品会社の担当が冷たかった。

問6-1-1 故人に関することで経験した内容

No.	問6-1の回答	その内容
1	1. 医療現場で職員から差別的な態度をとられた	他の患者と防疫処置をとられたと言っていた。
2	1. 医療現場で職員から差別的な態度をとられた	医者が弟に一度も触れることがなかった。
3	1. 医療現場で職員から差別的な態度をとられた	薬害について提出書類の求めに応じてくれなかった。
4	2. 普段の生活の場で差別的な態度をとられた	故人が肝炎に感染していると知っている人は、やはり二次感染を気にしている人がいた。
5	2. 普段の生活の場で差別的な態度をとられた	何もしないでだらけた生活をしている。
6	3. テレビやマスコミの報道で不快な思いをした	被害者意識が強いみたいな報道があったとき。
7	3. テレビやマスコミの報道で不快な思いをした	詳しい情報が得られなかった時。
8	3. テレビやマスコミの報道で不快な思いをした	情報が知りたいのと、病気がその後どうなるのが心配でした。
9	4. 周囲の肝炎に関する何気ない会話が不快だった	インターフェロンの投薬、誰でも簡単に行えるそぶり。金額が高い。
10	5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた	子ども、兄弟等のお見舞いや手伝い
11	5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた	毎週末に兄姉達が見舞いに来て励ましてくれた。精神面でも助けられました。
12	5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた	主人の兄が時々お見舞いに来て下さって、励ましていただきました。
13	5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた	配偶者や母と姉妹が面倒を見た。
14	5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた	男親の代理
15	5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた	医療費の立て替え払い、妹二人の看病応援、子ども二人の看病応援。
16	5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた	激励してもらった。
17	5. 故人が闘病中に周囲が支援してくれた	入院・通院等に運転が無理な時、友人達に車の送迎をしてもらった。

問6-2 肝炎判明後に生じた問題-その他

No	問6-2 肝炎判明後に生じた問題-その他
1	子ども、親戚にも隠し事はせず、正確な話をした。

問6-4-2 故人が肝炎に感染したことに対して、あなたがした行動-その他

No	問6-4-2 故人が肝炎に感染したことに対して、あなたがした行動-その他
1	ごく普通に毎日の生活をしていた。
2	常日頃おつきあいしていた知人・友人など全ての人達に隠し事はせず、正しいことを話した。

問7-3 医師に対して

No	問7-3 医師に対して
1	大学病院、医師団、学会でC型肝炎の患者の広がり、早い段階で疑問を持つべきではなかったでしょうか。残念です。
2	S61年4月に初投与されたが、その時点では、この製剤は白血病治療に画期的な処方であったと、後に担当医師から聞いたので、医師に対しては別段悪く思っていない。
3	医師を責めていたわけでもなく、使用した薬の名前を聞いているのに、カルテがない、何を使ったのか分からないなどと、責任逃れが残念です。病院に聞きにもいけず、電話でも薬の名前をなかなか教えてくれず。「もう死ななければならないのだから、どうしても聞いておきたい」という、せっぱつまった言葉が、いつまでも耳から離れません。
4	薬害発生0%が理想でも、薬も異物であり、副作用が出る可能性もありうると思います。しかし、使用前の検査などで、可否を判断するシステム及び副作用の説明も必要。臨床実験の重要性、リスク開示など、医師と患者のコミュニケーションが大切である。
5	医師に対しては、その当時最大限の治療を実施していただき、感謝している。
6	手術に使用した時点で、このような結果になるとは、分らなかったのでは？分かっていたとしたら、絶対に許せません。
7	医師には責任がない。
8	当時にはC型肝炎の原因が薬だと分らなかったもので、先生を責めるわけありません。
9	使用のリスクについて、説明してほしかった。
10	医師に対しては、当時最善を尽くして治療していただいたので、感謝の気持ちだけです。病院に対しては、カルテの開示拒否などがあり、不信感が残った。
11	なんとも言えない気持ちです。信用できないという気持ちがあります。
12	医師も安全にものであるかどうか、研修した上で使ってほしかった。
13	問題があると判っていたら、絶対に使ってもらいたくなかった。
14	外科手術の困難は理解できるが、内外の研究等を怠ってほしくなかった。同時期、私は帝王切開でお産をしたが、肝炎にかかっていません。
15	手術前の説明では、1週間～10日入院と聞いていたので、本人も家族も深刻に受け止めていなかったが、フィブリノゲンを使用しなければならない結果を作ってしまった(2回の手術)事に対し、憤りを感じていたのではないかと思う。
16	あの時点では分らなかったもので、仕方がないと思う。
17	心臓のバイパス手術に関しては、とても良くして下さったので、先生には感謝しているくらいです。
18	やむを得ないと思う。
19	故人の場合は、手術に必要な薬剤だったと思っております。
20	どのような病気になっても、安心して受けられる病院でありますように。
21	よくしていただいたと思う。
22	出産時の出血が原因であるが、フィブリノゲンという薬害の根源の薬しかなかったのか？その時の先生は命を救うための処置であり、やむを得ませんが、当時の先生を身内が探し当て、面会して当時の事を聞き、先生が「ミドリはこの薬剤に対して、もっと重篤性があると説明するべきであった。知っていれば、当時の対応も注意深くしたであろうに。何故、ミドリが言わなかったのか、不思議に思う」と言った。
23	患者に対して、製剤に関する事実の話をするべきである。家族に対しても同様である。
24	医師を責めるつもりはございません。
25	医師に対しては、特に何も思わないが、しかし、病気を治療のための手術で、命を亡くしてしまうことになった。手術を受けなければ良かったと思った。

No	問7 : 医師に対して
26	国が許可したからといって、安心、安全ではない。世界の情報をよく見て、製剤を使用してほしい。人の命を預かる立場にある者として当然です。薬害は、医者にも倫理的責任があると思う。
27	S 63年4月頃、医者は薬害というものを、ご存知なかったのでしょうか。
28	当時は使うことが多かったのではないかと思います。医師に対しては、何も思っていない。
29	責任がないとされる事が分かって、やっと医療機関から通知があった。その態度は、医療従事者としての態度としては、失格である。状況が違っていれば、通知していないのでは？
30	感謝はしている。
31	線香をあげに来てもらいたい。

問7-3 国に対して

No.	問7-3 国に対して
1	薬の臨床試験をきちんとして、ダメなものはすぐに排除してほしい。厳しい目を光らせてほしい。
2	C型患者の救済をお願いします。 ・薬害に対する研究所があるのでしょうか ・病院治療費 ・働けない人の生活費 ・介護施設の費用 命のある限り、保障してあげてください。
3	S61年当時、この製剤によりC型肝炎になる可能性があると判っていたら、それは罪です。
4	非加熱製剤が害を与えることが分かった時点で、すぐ回収、中止ができていればと思うと、本当に残念で仕方がありません。薬の恐ろしさをつくづく感じている。薬害で苦しむことのないよう、安心して治療できる国にしてほしい。
5	薬害発生0%が理想でも、薬も異物であり、副作用が出る可能性もありうると思います。しかし、使用前の検査などで、可否を判断するシステム及び副作用の説明も必要。臨床実験の重要性、リスク開示など、医師と患者のコミュニケーションが大切である。
6	恐ろしい肝炎で苦しみ、インターフェロンもだめで、仕事ができなくなってしまった弟が、原因を知ったらどんな言葉を発したのだらうと思う。悔しさでいっぱいでしょう。
7	国民の安全管理の徹底
8	二度と薬害が起きないように、厚労省が国民の立場で安全第一を目指してほしい。
9	すべての薬品を、安易に認定しないでほしい。
10	薬害患者を早期救済し、苦しんでいる人を助けてほしい。
11	製薬会社には、どんな事があっても、絶対に害になるなんて事があってはいけません。国はもっと強くなってほしい。
12	もっと早い時期に、使用を中止してほしい。
13	病気を治す薬で、新たに重い病気に感染する。この事の重大さを理解してほしい。
14	患者の気持ちになって、早い対応をしていただきたい。患者とその家族は、苦しんでいるのですから。
15	危険な薬剤を作らないよう、そして、使用しないよう、許可しないように努めてほしい。
16	問題があると判っていたら、絶対に使ってもらいたくなかった。
17	感染拡大の被害を防止できなかった国の責任を大きいと思います。生命、財産を守る事をおろそかにした。
18	国は1人1人の民から成り立っていると思います。1人1人の生命が国であると思う。生命を大切にしなければ、国は滅びます。結果に対して必ず原因を追及し、正しい対処をしてほしい。
19	もっと早く対処してほしい。
20	知ってて知らん顔するな。
21	どのような基準と安全性によって判断し、使用したのか説明を求めます。
22	認可基準を見直すこと。
23	しっかりとした検査をして、認可してほしい。
24	今もまだ苦しんでいる人が、一日でも早く救われますように願っています。
25	原因の究明と対策を、もっとスピーディーに。
26	国は緩慢そのものである。非を認めず、争う姿勢を常に持っている。薬害（C型肝炎に限らず）という重み、観念が全くなかった。国そのものがあり方を変えない限り、薬害はなくなる。反省の意味が判らないのでは？
27	医療費全額、生活費保障（本人と家族）全額

No	問7-8 国に對して
28	国はある程度認識していたのでは？これからは、二度とこのような事が起こらないことを祈ります。
29	病気を治療するために受けた手術で、十分な検査をされていない薬で苦しみ、亡くならなければならなかった肝炎患者。そして、今もなお治療されている人々に、せめて医療費の免除をしてほしい。
30	その頃、アメリカでは使用禁止になっているとの情報が入っていたではないですか。疑わしき製剤を国が許可→被害者続出→国の遅い対応。こういうことが、今まで何度も繰り返されてきました。国（厚労省）は、儲け主義の製薬会社との馴れ合いを止めて、国民に信頼されるよう、薬害を未然に防いでほしい。
31	生命の大切さを知ってほしい。
32	もっと早く薬害を公表して、対策をとってほしかった。そうすれば、死なずに済んだかもしれない。
33	薬害肝炎を全面的に支援してほしい。
34	しっかりと薬行政を行い、良い薬は早期に承認し、問題が疑われる場合、即、使用を中止させるなどの対応の早さ。
35	早く危険性を明らかにするべきだった。
36	線香をあげに来てもらいたい。